M/D15

取扱説明書

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書の他にもマニュアルをご用意しています。
詳しくは裏面をご覧ください。

マニュアルのご紹介

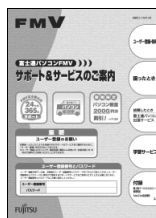
■添付の紙マニュアル

『箱の中身を確認してください』

添付の機器、マニュアルなどの一覧です。
ご購入後、すぐに、添付品が揃っているか確認してください。

『取扱説明書』（本書）

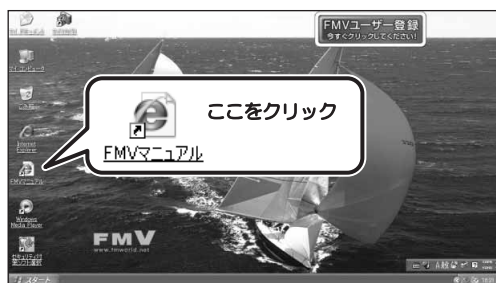
使用上のご注意、パソコンを使うための準備、基本的な取り扱い方法、ご購入時の状態に戻す方法などを説明しています。

『サポート＆サービスのご案内』

ユーザー登録のしかた、お問い合わせのしかたについて説明しています。

■電子マニュアル

『製品ガイド』（PDF 形式）

このパソコンの取り扱い方法や搭載ソフトウェアの紹介などを記載しています。
PDF 形式の電子マニュアルとして、インターネットで公開しています。
『製品ガイド』をご覧になるには、インターネットに接続する必要があります。

□『製品ガイド』を表示する手順

POINT

- 初めて Adobe Reader を起動したとき
  Adobe Reader の「使用許諾契約書」ウィンドウが表示されます。内容を確認し、ウィンドウの右下の「同意する」ボタンをクリックします。

目　次

このパソコンをお使いになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。
本製品をお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。
また、このマニュアルは、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

保証書について

・ 保証書は、必ず必要事項を記入し、内容をよくお読みください。その後、大切に保管してください。
・ 修理を依頼される場合には、必ず保証書をご用意ください。
・ 保証期間内に、正常な使用状態で故障した場合は、無料で修理いたします。
・ 保証期間内でも、保証書の提示がない場合や、天災あるいは無理な使用による故障の場合などには、有料での修理となります。ご注意ください（詳しくは、保証書をご覧ください）。
・ 修理後は、本製品の内容が修理前とは異なり、ご購入時の状態や、何も入っていない状態になっている場合があります。大切なデータは、CD/DVD などの媒体にバックアップをお取りください。
・ 本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）の保有期間は、製造終了後 6 年です。

使用許諾契約書

富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本製品にインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただいております。
なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。

ソフトウェアの使用条件

1. 本ソフトウェアの使用および著作権
   お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本製品でのみ使用できます。なお、お客様は本製品のご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。
2. バックアップ
   お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1 部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。
3. 本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み
   本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。
4. 複製
   (1) 本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。
   本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。
   ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。
   (2) 前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。
5. 第三者への譲渡
   お客様が本ソフトウェア（本製品に添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたパソコンとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本製品に添付されている媒体を本製品とは別に第三者へ譲渡することはできません。
6. 改造等
   お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。
7. 壁紙の使用条件
   お客様は、「ＦＭＶ」ロゴ入りの壁紙を改変したり、第三者へ配布することはできません。
8. 保証の範囲
   (1) 弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本製品をご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。
   また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本製品をご購入いただいた日から 1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。
   (2) 弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。
   (3) 本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記（1）の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。
9. ハイセイフティ
   本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。
   記
   原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など

富士通株式会社

データのバックアップについて

本製品に記録されたデータ（基本ソフト、アプリケーションソフトも含む）の保全については、お客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。また、修理を依頼される場合も、データの保全については保証されませんので、事前にお客様ご自身でバックアップなどの必要な対策を行ってください。
データが失われた場合でも、保証書の記載事項以外は、弊社ではいかなる理由においても、それに伴う損害やデータの保全・修復などの責任を一切負いかねますのでご了承ください。

添付品は大切に保管してください

マニュアル等の添付品は、本製品をご購入時と同じ状態に戻すときに必要です。

液晶ディスプレイの特性について

・ 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります（有効ドット数の割合は 99.99% 以上です。有効ドット数の割合とは「対応するディスプレイの表示しうる全ドット数のうち、表示可能なドット数の割合」を示しています）。これらは故障ではありません。交換・返品はお受けいたしかねますのであらかじめご了承ください。
・ 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
・ 長時間同じ表示を続けると残像となることがありますが故障ではありません。残像は、しばらく経つと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
・ 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがありますが故障ではありません。
なお、低輝度で長時間連続で使用した場合、早期の部品交換が必要になることがあります。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。
お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。
ハイセイフティ用途とは、以下の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。
・ 原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療用機器、兵器システムにおけるミサイル発射制御など

有寿命部品について

・ 本製品には、有寿命部品が含まれています。有寿命部品は、使用時間の経過に伴って摩耗、劣化等が進行し、動作が不安定になる場合がありますので、本製品をより長く安定してお使いいただくためには、一定の期間で交換が必要となります。
・ 有寿命部品の交換時期の目安は、使用頻度や使用環境等により異なりますが、1 日約 8 時間のご使用で約 5 年です。なお、この期間はあくまでも目安であり、この期間内に故障しないことをお約束するものではありません。また、長時間連続使用等、ご使用状態によっては、この目安の期間よりも早期に部品交換が必要となる場合があります。
・ 本製品に使用しているアルミ電解コンデンサは、寿命が尽きた状態で使用し続けると、電解液の漏れや枯渇が生じ、異臭の発生や発煙の原因となる場合がありますので、早期の交換をお勧めします。
・ 摩耗や劣化等により有寿命部品を交換する場合は、保証期間内であっても有料となります。なお、有寿命部品の交換は、当社の定める補修用性能部品単位での修理による交換となります。
・ 本製品をより長く安定してお使いいただくために、省電力機能の使用をお勧めします。また、一定時間お使いにならない場合は電源をお切りください。

＜主な有寿命部品一覧＞
液晶ディスプレイ、ハードディスクドライブ、キーボード、AC アダプタ、ファン

消耗品について

・ バッテリパックは消耗品です。その性能／機能を維持するために適時交換が必要となります。なお、交換する場合は、保証期間の内外を問わずお客様ご自身での新品購入ならびに交換となります。
・ 一般的にバッテリパックは、300 ～ 500 回の充放電で寿命となります。（温度条件や使用環境によって異なります。）

24 時間以上の連続使用について

・ 本製品は、24 時間以上の連続使用を前提とした設計にはなっておりません。

注 意

・ 本製品は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。本製品は、家庭環境で使用することを目的としていますが、本製品がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
本製品は、マニュアルに従って正しい取り扱いをしてください。
・ 本製品に接続する LAN ケーブルはシールドされたものでなければなりません。

本製品は、国内での使用を前提に作られています。海外での使用につきましては、お客様の責任で行っていただくようお願いいたします。

無線 LAN について

2.4 DS/OF 4

・上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避可能です。変調方式として DSSS 変調方式および OFDM 変調方式を採用しており、与干渉距離は 40m です。
・本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
  (1) 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  (2) 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
  (3) その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
  連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」
・本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
・パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径 25m 以内となります。ただし、無線 LAN の特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
・IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠の無線 LAN の混在環境においては、IEEE 802.11g 準拠は IEEE 802.11b 準拠との互換性をとるため、IEEE 802.11g 準拠本来の性能が出ない場合があります。IEEE 802.11g 準拠本来の性能が必要な場合は、IEEE 802.11g 準拠と IEEE 802.11b 準拠を別のネットワークにし、使用しているチャンネルの間隔を 5 チャンネル以上あけてお使いください。
・本製品と 5GHz の周波数帯を使用する無線 LAN とは、使用している周波数帯域が異なるため、通信できません。ご注意ください。
・航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

Bluetooth® ワイヤレステクノロジーについて

2．4 FH1

・上記表示の 2.4GHz 帯を使用している無線設備は、全帯域を使用し、かつ移動体識別装置の帯域を回避不可です。変調方式として FHSS 変調方式を採用しており、与干渉距離は 10m です。
・本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）および特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
  (1) 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
  (2) 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止した上、下記の連絡先にご連絡頂き、混信回避のための処置等（例えば、パーティションの設置など）についてご相談してください。
  (3) その他、本製品から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、次の連絡先へお問い合わせください。
  連絡先：「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」
・本製品は、日本国内での無線規格に準拠し、認定を取得しています。日本国内でのみお使いいただけます。また、海外でご使用になると罰せられることがあります。
・パソコン本体と通信相手の機器との推奨する最大通信距離は、見通し半径 10m 以内（出力 Class2 の最大値）です。
  ただし、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの特性上、ご利用になる建物の構造・材質、障害物、ソフトウェア、設置状況、電波状況等の使用環境により通信距離は異なります。また、通信速度の低下や通信不能となる場合もありますのであらかじめご了承ください。
・航空機内の使用は、事前に各航空会社へご確認ください。

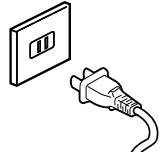
本製品は、社団法人電子情報技術産業協会の定めたパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策規格を満足しております。しかし、本規格の基準を上回る瞬時電圧低下に対しては、不都合が生じることがあります。
また、バッテリ残量が不充分な場合、バッテリ未搭載で AC アダプタを使用している場合は、規定の耐力がないため不都合が生じることがあります。

本パソコンは電気・電子機器の特定の化学物質＜鉛、六価クロム、水銀、カドミウム、ポリブロモビフェニル、ポリブロモジフェニルエーテルの 6 物質＞の含有表示を規定する JIS 規格「J-Moss」において、化学物質の含有率が基準値以下であることを示す「グリーンマーク（非含有マーク）」に対応しています。
本パソコンにおける特定の化学物質（6 物質）の詳細含有情報は、下記 URL をご覧ください。
http://www.fmworld.net/fmv/jmoss/

本書の表記

■電源プラグとコンセント形状の表記について

このパソコンに添付されている電源ケーブルの電源プラグは「平行 2 極プラグ」です。本書では「電源プラグ」と表記しています。

接続先のコンセントには「平行 2 極プラグ（125V15A）用コンセント」をご利用ください。本書では「コンセント」と表記しています。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
重要	お使いになるときの注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
POINT	操作に関連することを記述しています。必要に応じてお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【Fn】キーなど

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつなげて記述しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「すべてのプログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■画面例およびイラストについて

画面およびイラストは一例です。お使いの機種やモデルによって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、イラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■CD や DVD の使用について

本文中の操作手順において、CD または DVD を使用することがあります。

操作に必要なドライブが搭載されていない場合は、次のポータブル CD/DVD ドライブのご購入をお勧めいたします。

・品名／型名
- ・DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット／ FMV-NCB53
- ・スーパーマルチドライブユニット／ FMV-NSM52

他社製品をご購入の場合は、サポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）の「他社周辺機器接続情報」をご覧ください。

また、周辺機器の使用方法については、周辺機器のマニュアルをご覧ください。

■製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記することがあります。

製品名称	本文中の表記		
Microsoft® Windows® XP Home Edition	Windows XP Home Edition	Windows XP	Windows
Microsoft® Office Personal 2007	Office Personal 2007		
Microsoft® Office Personal 2007 2 年間ライセンス版			
ノートン インターネットセキュリティ ™ 2009	Norton Internet Security		

■お問い合わせ先／ URL

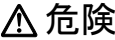
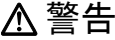
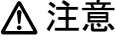
本文中に記載されているお問い合わせ先や URL は 2009 年 6 月現在のものです。

危険ラベル／警告ラベル／注意ラベル

本製品には危険・警告・注意ラベルが貼ってあります。

これらのラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

商標および著作権について

Microsoft、Windows、Internet Explorer は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
インテル、Intel は、アメリカ合衆国およびその他の国における Intel Corporation の商標です。
「メモリースティック」、「メモリースティック PRO」、「メモリースティック Duo」、「メモリースティック PRO Duo」、「マジックゲート」および
は、ソニー株式会社の商標または登録商標です。
SD ロゴおよび SDHC ロゴは商標です。
Bluetooth® は、Bluetooth SIG の商標であり、弊社へライセンスされています。
その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。
その他の各製品は、各社の著作物です。

警告表示について

このマニュアルでは、いろいろな絵表示を使っています。これは本製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解のうえ、お読みください。

⚠危険	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負うことがあり、その切迫の度合いが高いことを示しています。
⚠警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
⚠注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、物的損害が発生する可能性があることを示しています。

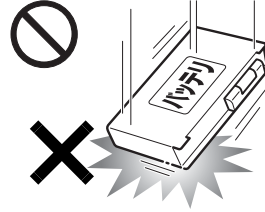
また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

⚠	△で示した記号は、警告・注意をうながす内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
⃠	⃠で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
❗	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

安全上のご注意

本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、必ずお読みになり、正しく安全に、大切に取り扱ってください。
また、本製品をお使いになるときは、マニュアルをよくお読みになり、正しくお使いください。

■バッテリパック

⚠危険

バッテリパックには次のことをしないでください。

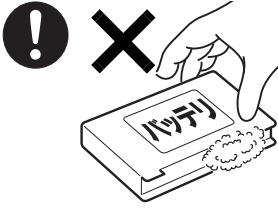
破裂・液漏れ・火災・けが・周囲を汚す原因となります。

- 指定された充電方法以外で充電する
- 分解や改造
- 加熱したり、火の中に入れたりする
- 熱器具に近づける
- 火のそばや炎天下などで充電したり、放置したりする
- 落としたり、ぶつけたり、大きな衝撃を与えたりする
- 先のとがったもので力を加える、強い圧力を加える
- ショートさせる
- 端子部分を濡らしたり、水の中に入れたりする
- 金属製のネックレスやヘアピンなどといっしょに携帯、保管する

特に、バッテリパックは、落下などの衝撃による内部の電池や回路基板の損傷によって、発熱、発火、破裂に至ることがあります。
バッテリパックに衝撃を与えた場合、あるいは外観に明らかな変形や破損が見られる場合には、使用をやめてください。

必ず本製品に添付のバッテリパックを使用してください。寿命などでバッテリパックを交換する場合は、必ず指定品を使用してください。

指定以外のバッテリパックは、電圧や端子の極性が異なっていることがあるため、火災・破裂・発熱のおそれがあります。

⚠ 警告

バッテリパックが液漏れし、漏れ出た液が万一、目や口に入ったときは、こすらず水道水などの多量のきれいな水で充分に洗った後、すぐに医師の治療を受けてください。

失明など障害の原因となります。
液が皮膚や衣類に付着したときは、ただちに水でよく洗い流してください。
皮膚に障害を起こす原因となります。

⚠ 注意

バッテリ稼働時間が短くなった場合には、純正の新しいバッテリパックと交換してください。

バッテリパックは消耗品です。稼働時間が短くなったバッテリパックでは、内部に使用されている電池の消耗度合いにバラツキが発生している可能性があり、そのまま使用し続けると、障害が発生することがあります。

バッテリパックの廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。
バッテリパックはリチウムイオン電池を使用しており、一般のゴミといっしょに火中に投じられると破裂のおそれがあります。

■パソコン本体、AC アダプタ

⚠ 警告

本製品を火中に投入、加熱、あるいは端子をショートさせないでください。

発煙・発火・破裂の原因になります。

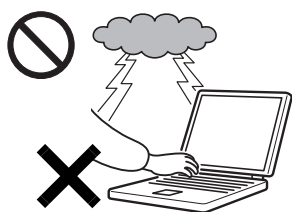
本製品から発熱や煙、異臭や異音がするなどの異常が発生した場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、ACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリパックを装着している場合は、バッテリパックも取り外してください。

その後、異常な現象がなくなるのを確認して、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
お客様自身による修理は危険ですから絶対におやめください。
異常状態のまま使用すると、感電・火災の原因となります。

パソコン本体の内部に水などの液体や金属片などの異物が入った場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリパックを装着している場合は、バッテリパックも取り外してください。

その後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

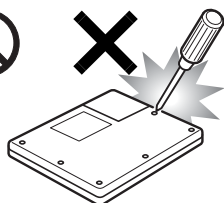
本製品を落としたり、カバーなどを破損したりした場合は、パソコン本体の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。バッテリパックを装着している場合は、バッテリパックも取り外してください。

その後、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。

雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類に触れないでください。ケーブル類の接続作業は、落雷の可能性がなくなるまで行わないでください。

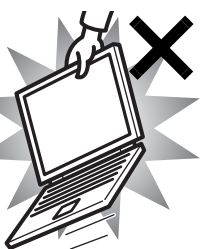
落雷の可能性がある場合は、あらかじめパソコン本体の電源を切り、その後電源コードをコンセントから抜き、ケーブル類を取り外しておいてください。

落雷による感電、火災の原因となります。

ダイレクト・メモリースロットやLANコネクタなどの開口部から、本製品の内部に金属物や紙などの燃えやすいものを差し込んだり、入れたりしないでください。

感電・火災の原因となります。

本製品をお客様ご自身で修理・分解・改造しないでください。

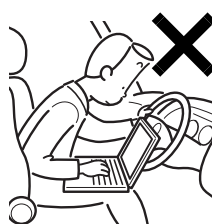
感電・火災の原因となります。

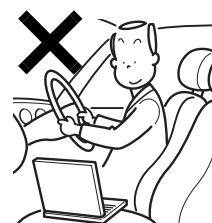
修理や点検などが必要な場合は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

本装置を持ち上げたり運んだりする場合、液晶ディスプレイや液晶ディスプレイの枠部分を持って、装置を持ち上げたり運んだりしないでください。

装置の故障やけがの原因となることがあります。

持ち上げたり運んだりするときは、装置の底面あるいは装置中央の両脇を持ってください。

梱包に使用している袋類は、お子様の手の届く所に置かないでください。

口に入れたり、頭にかぶったりすると、窒息の原因となります。

自動車などを運転中に本製品を使用しないでください。

安全走行を損ない、事故の原因となります。車を安全な所に止めてからお使いください。

自転車やバイク、自動車などの運転中は、テレビや音楽を視聴しないでください。

周囲の音が聞こえにくく、映像や音声に気をとられ交通事故の原因になります。また、歩行中でも周囲の交通に充分に注意してください。特に踏切や横断歩道ではご注意ください。

取り外したカバー、キャップ、ネジなどの部品は、小さなお子様の手の届かない所に置いてください。

誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

メモリ（拡張 RAM モジュール）の取り付け／取り外しのために、カバーを外す場合は、お子様の手が届かない場所で行ってください。また、作業が終わるまでは大人が本製品から離れないようにしてください。

お子様が手を触れると、本体および本体内部の突起物でけがをすることがあります。また、故障の原因となります。

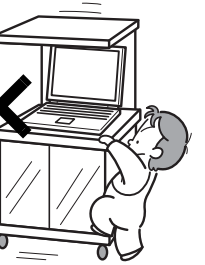
パソコン本体や AC アダプタの温度が高くなる場所に長時間直接触れて使用しないでください。また、お子様が排気孔付近に近寄らないよう注意してください。

低温やけどの原因になります。

本製品をご使用になる場合には、部屋を明るくして、画面からできるだけ離れてください。

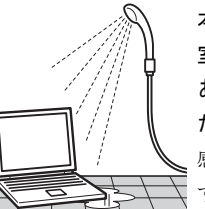
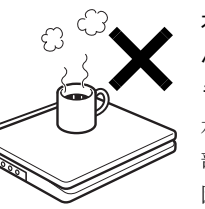
お使いになる方の体質や体調によっては、強い光の刺激を受けたり、点滅の繰り返しによって一時的な筋肉のけいれんや意識の喪失などの症状を起こしたりする場合がありますので、ご注意ください。

過去にこのような症状を起こしたことがある場合は、事前に医師に相談してください。

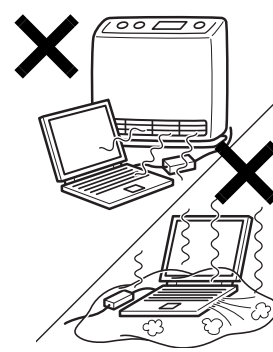
また、本製品をご使用中にこのような症状を発症した場合には、すぐに本製品の使用を中止し、医師の診断を受けてください。

パソコンやパソコン台にぶら下がったり、上に乗ったり、寄りかかったりしないでください。

パソコンが落ちたり、倒れたりして、けがや故障の原因となります。特に、お子様のいるご家庭ではご注意ください。

本製品を風通しの悪い場所、火気のある場所、引火性ガスの発生する場所で使用したり、置いたりしないでください。

火災の原因となります。

本製品を風呂場やシャワー室など、水のかかるおそれのある場所で使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となります。

本製品の上や周りに、花びん・コップなど液体の入ったものを置かないでください。

水などの液体が本製品の内部に入って、感電・火災の原因となります。

使用中のパソコン本体や AC アダプタは、ふとんなどをかけたり、暖房器具の近くやホットカーペットの上に置いたりしないでください。また、排気孔などの開口部がある場合はふさがないでください。

内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

パソコン台を使う場合は、パソコンが台からはみ出したり、片寄ったりしないように載せてください。

パソコンが落ちたり、倒れたりして、けがや故障の原因となります。特に、お子様のいるご家庭ではご注意ください。

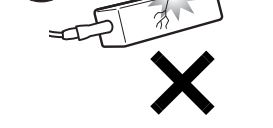
矩形波が出力される機器（UPS（無停電電源装置）や車載用 AC 電源など）に接続しないでください。

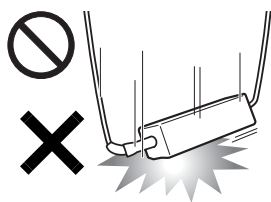
火災の原因となることがあります。

パソコン本体や周辺機器のケーブル類の配線にご注意ください。

ケーブルに足を引っかけ転倒したり、パソコン本体や周辺機器が落ちたり、倒れたりして、けがや故障の原因となります。また、お子様が容易にケーブルに触れないようにしてください。誤って首に巻きつけると窒息の原因となります。

添付もしくは指定された以外の AC アダプタや電源コードを本製品に使ったり、本製品に添付の AC アダプタや電源コードを他の製品に使ったりしないでください。

感電・火災の原因となります。

AC アダプタ本体や、ケーブルが変形したり、割れたり、傷ついている場合は使用しないでください。

感電・火災の原因となります。

ACアダプタ本体を落下させたり､強い衝撃を与えたりしないでください。

カバーが割れたり､変形したり、内部の基板が壊れ、故障・感電・火災の原因となります。

修理は、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。

故障・火災の原因となります。

⚠ 注意

本製品の上に重いものを置かないでください。

故障・けがの原因となることがあります。

本製品を調理台や加湿器のそば、ほこりの多い場所などで使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となることがあります。

本製品を直射日光があたる場所、閉めきった自動車内など、温度が高くなる所で使用したり、置いたりしないでください。

感電・火災の原因となることがあります。また、破損や故障の原因となることがあります。

排気孔付近に触れないでください。また、排気孔からの送風に長時間あたらないでください。

やけどの原因となることがあります。

振動している場所や傾いた所などの不安定な場所に置かないでください。

本製品が落ちて、けがの原因となります。

本製品をお使いになる場合は、次のことに注意し、長時間使い続けるときは1時間に10～15分の休憩時間や休憩時間の間の小休止を取るようにしてください。

本製品を長時間使い続けると、目の疲れや首・肩・腰の痛みなどを感じる原因となることがあります。画面を長時間見続けると、「近視」「ドライアイ」などの健康障害の原因となることがあります。

- 画面の位置や角度、明るさなどを見やすいように調節する。
- なるべく画面を下向きに見るように調整し、意識的にまばたきをする。場合によっては目薬をさす。
- 背もたれのあるいすに深く腰かけ、背筋を伸ばす。
- いすの高さを、足の裏全体が付く高さに調節する。
- 手首や腕、ひじは机やいすのひじかけなどで支えるようにする。
- キーボードやマウスは、ひじの角度が 90 度以上になるように使用する。

本製品の廃棄については、マニュアルの説明に従ってください。

本製品は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」の規制を受けます。

本製品はリチウム電池を使用しており、一般のゴミといっしょに火中に投じられると破裂のおそれがあります。

液晶ディスプレイを開閉するとき、手などをはさまないよう注意してください。

けがや故障の原因となります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。

ダイレクト・メモリースロットや LAN コネクタなど、本製品の開口部に、手や指を入れないでください。

けが・感電の原因となることがあります。特に、お子様が近くにいる場合はご注意ください。

キーボードのキートップが外れた状態のまま使用しないでください。

内部の突起物でけがをすることがあります。また、故障の原因となります。特に、小さいお子様が近くにいる場合はご注意ください。

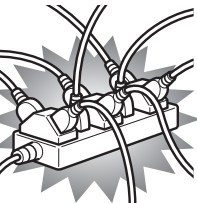
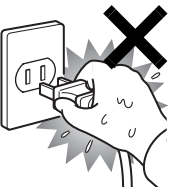
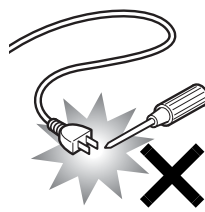
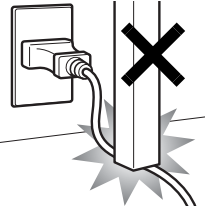
本製品を移動する場合は、必ずACアダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。また、接続されたケーブルなども外してください。作業は足元に充分注意して行ってください。
ACアダプタの電源コードが傷つき、感電・火災の原因となることがあります。また、本製品が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

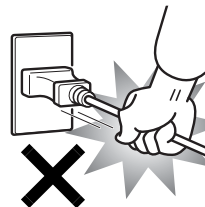
本製品を長期間使用しないときは、安全のためACアダプタの電源プラグをコンセントから抜き、パソコン本体からACアダプタを取り外してください。バッテリパックを取り外せる場合は、バッテリパックも取り外してください。
火災の原因となることがあります。

液晶ディスプレイが破損し、液状の内容物が流出して皮膚に付着した場合は、流水で15分以上洗浄してください。また、目に入った場合は、流水で15分以上洗浄した後、医師に相談してください。
中毒のおそれがあります。
液晶ディスプレイの内部には、刺激性物質が含まれています。

■電源コード

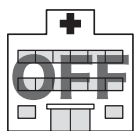
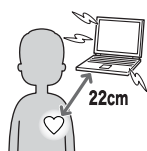
⚠警告

電源コード、電源プラグが傷ついている場合は使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

ACアダプタの電源プラグは、壁のコンセント（AC100V）に直接かつ確実に差し込んでください。また、タコ足配線をしないでください。
感電・火災の原因となります。

濡れた手でACアダプタの電源プラグを抜き差ししないでください。
感電の原因となります。

ACアダプタの電源プラグに、ドライバーなどの金属を近づけないでください。
火災・感電の原因となります。

ACアダプタのケーブルは、傷つけたり、加工したり、加熱したり、重いものを載せたり、引っ張ったり、無理に曲げたり、ねじったりしないでください。
感電・火災の原因となります。

ACアダプタ本体に電源コードをきつく巻きつけるなどして、根元部分に負担をかけないでください。
電源コードの芯線が露出したり断線したりして、感電・火災の原因となります。

ACアダプタの電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らず、必ず電源プラグを持って抜いてください。
電源コードや電源プラグが傷つき、感電・火災の原因となります。

ACアダプタや電源プラグはコンセントからときどき抜いて、コンセントとの接続部分およびACアダプタと電源コードの接続部分などのほこりやゴミを乾いた布でよく拭き取ってください。
ほこりがたまったままの状態で使用すると感電・火災の原因になります。1年に一度は点検清掃してください。

■無線について

⚠ 警告

無線 LAN、Bluetooth ワイヤレステクノロジーの注意

次の場所では、パソコン本体の電源を切るか、無線通信機能をオフにしてください。

無線機器からの電波により、誤動作による事故の原因となります。

・ 病院内や医療用電子機器のある場所。
　特に手術室、集中治療室、CCU（冠状動脈疾患監視病室）などには持ち込まないでください。
・ 航空機内など無線通信機能の使用を禁止されている場所
・ 自動ドア・火災報知機など自動制御機器の近く
・ 満員電車の中など付近に心臓ペースメーカーを装着している方がいる可能性がある場所

心臓ペースメーカーの装着部位からは 22cm 以上離してください。

電波によりペースメーカーの動作に影響を及ぼす原因となります。

■ヘッドホン

⚠ 注意

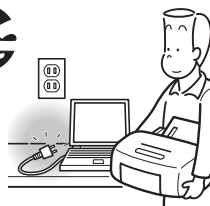
ヘッドホン・イヤホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないでください。

耳を刺激するような大きな音量で聞くと、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

電源を入れたり切ったりする前には音量を最小にしておいてください。また、ヘッドホン・イヤホンをしたまま、電源を入れたり切ったりしないでください。

突然大きな音や刺激音が出て、聴力に悪い影響を与える原因となることがあります。

■周辺機器

⚠ 警告

本製品の設置や、周辺機器の取り付け／取り外しを行うときは、本製品や周辺機器の電源を切った状態で行ってください。

AC アダプタや電源コードがコンセントにつながっている場合は、それらをコンセントから抜いてください。

感電の原因となります。

周辺機器のケーブルは、本製品や周辺機器のマニュアルをよく読み、正しく接続してください。

誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体および周辺機器が故障する原因となります。

⚠ 注意

メモリーカードの使用終了直後は、メモリーカードが高温になっていることがあります。

メモリーカードを取り出すときは、使用後しばらく待ってから取り出してください。

やけどの原因となることがあります。

メモリ（拡張 RAM モジュール）の取り付け／取り外しを行うときは、指をはさんだり、ぶつけたりしないように注意してください。

けがの原因になります。

パソコン本体の電源が入っているときや、AC アダプタやバッテリパックが装着されているときは、メモリ（拡張 RAM モジュール）のカバーを外さないでください。

感電の原因になります。

疲れにくい使い方

パソコンを長時間使い続けていると、目が疲れ、首や肩や腰が痛くなることがあります。その主な原因は、長い時間同じ姿勢でいることや、近い距離で画面やキーボードを見続けることです。パソコンをお使いになるときは姿勢や環境に注意して、疲れにくい状態で操作しましょう。

使用上のお願い

パソコンは精密機器です。設置場所と使用環境に注意してご利用ください。取り扱い方法を誤ると故障や機能低下、破損の原因となることがあります。
内容をよくご理解のうえ、注意してお取り扱いください。

パソコン本体の使用環境

- パソコン本体の使用環境は、温度 5 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（動作時）、温度 -10 ～ 60 ℃／湿度 20 ～ 80%RH（非動作時）です。動作時、非動作時にかかわらず、結露しないようにご注意ください。
  結露は、空気中の水分が水滴になる現象です。温度の低い場所（クーラーの効いた場所、寒い屋外など）から、温度の高い場所（暖かい室内、炎天下の屋外など）へ移動したときに起こります。結露が発生すると故障の原因となりますので、ご注意ください。
- パソコン本体のそばで喫煙すると、タバコのヤニや煙がパソコン内部に入り、CPU ファンなどの機能を低下させる可能性があります。
- 腐食性ガス（温泉から出る硫黄ガスなど）が存在する場所で使用すると、パソコン本体が腐食する可能性があります。
- パソコン本体には静電気に弱い部品が使用されています。静電気の発生しやすい場所では使用しないでください。また、使用する前には金属質のものに触れて、静電気を逃がしてください。
- パソコン本体および AC アダプタは堅い机の上などに置くようにしてください。ふとんの上など熱がこもりやすい場所に置くと、パソコンや AC アダプタ表面が高温になることがあります。
- パソコン本体および AC アダプタは、使用中に熱を持つことがあります。そのため、長時間同じ場所に設置すると、設置する場所の状況や材質によっては、その場所の材質が変質したり劣化したりすることがあります。ご注意ください。
- 電源が入っているときは、キーボードの上に書類などのおおいかぶさる物を置かないでください。パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因になります。
- ほこりの多い環境では使用しないでください。ファンにほこりが詰まり、放熱が妨げられ、故障の原因となる場合があります。
- 吸気孔や通風孔がほこりなどにより目詰まりすると、空気の流れが悪くなり、CPU ファンなどの機能を低下させる可能性があります。定期的にほこりなどを取り除いてください。
- 吸気孔や排気孔をふさがないでください。パソコン内部に熱がこもり、故障の原因となります。
- 排気孔の近くに物を置いたり、排気孔の近くには手を触れたりしないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物や手が熱くなることがあります。
- 台所などの油を使用する場所の近くでは、パソコンを使わないでください。油分がパソコン内に入って CPU ファンなどに付着し、放射性能を低下させる可能性があります。
- 無線 LAN や Bluetooth® ワイヤレステクノロジーの電波の発信、停止の設定は電源を切っても保持されます。
  病院内や航空機内など、電波の発信が禁止されている場所でパソコンの電源を入れるときはご注意ください。

パソコン本体取り扱い上の注意

- 衝撃や振動を与えないでください。
- 操作に必要のない部分を押したり、必要以上の力を加えたりしないでください。
- 磁気ブレスレットや磁気ネックレスなど、磁気を発生するものを身につけたまま、操作しないでください。画面が表示されなくなるなどの故障の原因となるおそれがあります。
- マニュアルに記述されているところ以外は絶対に開けないでください。
- 電源が入っているときに液晶ディスプレイを閉じてもスタンバイや休止状態にしない設定にした場合は、パソコン本体の液晶ディスプレイを閉じないでください。パソコン本体の放熱が妨げられ、故障の原因となることがあります。
- バッテリパックを取り外した状態で使用しないでください。パソコン本体は、バッテリパックを取り外したまま使用するようには設計されていません。水などの液体や金属片などの異物が混入し、故障・感電・火災の原因になる可能性があります。
- 水などの液体や金属片、虫などの異物を混入させないようにしてください。故障の原因になる可能性があります。
- パソコン本体を立てたり傾けて置かないでください。パソコン本体が倒れて、故障の原因となることがあります。
- パソコン本体は昼夜連続動作（24 時間動作）を目的に設計されていません。ご使用にならないときは電源を切ってください。

パソコンの温度上昇に関して

- 長時間使用すると、パソコン表面の温度が上昇して、温かく感じることがありますが、故障ではありません。
  これは、パソコン内部の温度が一定以上になると、装置全体から放熱するので、キーボードなどの表面も温かくなるためです。
- ひざの上など直接肌に触れた状態では、長時間使用しないでください。パソコンの底面が熱くなり、低温やけどを起こす可能性があります。
- 使用するソフトウェアによっては、パームレスト部（手を載せる部分）が多少熱く感じられることがあります。長時間使用する場合には低温やけどを起こす可能性がありますので、ご注意ください。

パソコン内部からの音に関して

パソコン本体内部からは、パソコン本体内部の熱を外に逃がすためのファンの音や、ハードディスクドライブがデータを書き込む音などが聞こえることがあります。これらは故障ではありません。

パソコンを持ち運ぶ場合の注意

- 必ずパソコンの電源を切ってください。電源が入ったまま持ち運ばないでください。また、電源を切ってから動かす場合も、5 秒ほど待ってから動かしてください。衝撃によりハードディスクドライブが故障する原因となります。
- 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体に接続しているケーブルなどをすべて取り外してください。
- パソコン本体にメモリーカードをセットしている場合は必ず取り外してください。
- パソコン本体を持ち上げたり移動させたりするときは、両手で掴んでください。
- パソコン本体や AC アダプタを運ぶ場合は、ぶつけたり落としたりしないでください。かばんなどに入れて衝撃や振動から保護してください。
- パソコン本体をかばんなどに入れて持ち運ぶ場合には、次のような点に注意してください。
  - パソコン本体の背面を下側にして、かばんなどに入れてください。また、AC アダプタをいっしょに入れて持ち運ぶと、AC アダプタでパソコン本体を傷つけたり、破損したりするおそれがあります。
- パソコン本体を自動車内に設置した状態での使用は、保証しておりません。

液晶ディスプレイの取り扱い上の注意

- 液晶ディスプレイの開閉は、衝撃を与えないようにゆっくりと行ってください。
- 液晶ディスプレイを開くときは、無理に大きく開けないでください。
- 液晶ディスプレイをたたいたり強く押したりしないでください。また、ひっかいたり先のとがったもので押したりしないでください。
- 液晶ディスプレイにゴムやビニール製品を長時間接触させないでください。表面がはげたり、変質したりすることがあります。
- 液晶ディスプレイを開いたまま、パソコン本体を裏返して置かないでください。
- 液晶ディスプレイとキーボードの間に、物をはさまないでください。

雷についての注意

落雷の可能性がある場合は、パソコンの電源を切るだけでなく、すべてのケーブル類を抜いておいてください。
また、雷が鳴り出したときは、落雷の可能性がなくなるまでパソコン本体やケーブル類、およびそれらにつながる機器に触れないでください。
安全のため、避雷器の設置をお勧めします。
落雷には、直撃雷と誘導雷の 2 種類ありますが、パソコンの故障は主に誘導雷によって起こります。雷により周囲に強力な電磁場ができると発生し、電線や電話線などから侵入するのが誘導雷です。パソコンの場合、電源ケーブル、外部機器との接続ケーブル、LAN ケーブルなどからの誘導雷の侵入が考えられます。誘導雷を防ぐにはケーブル類を抜くなどの対策が必要です。
直撃雷は避雷針によって雷を誘導して対象物を保護できますが、避雷器の許容値を超えた非常に大きな雷を受けた場合には、避雷器を用いてもパソコン本体を保護できないことがありますので、ご了承ください。
場合によっては、パソコン本体だけでなく、周辺機器などが故障することもあります。落雷によるパソコン本体の故障は、保証期間内でも有償修理となります。故障の状況によっては、修理費用が高額になることもあるので、ご注意ください。

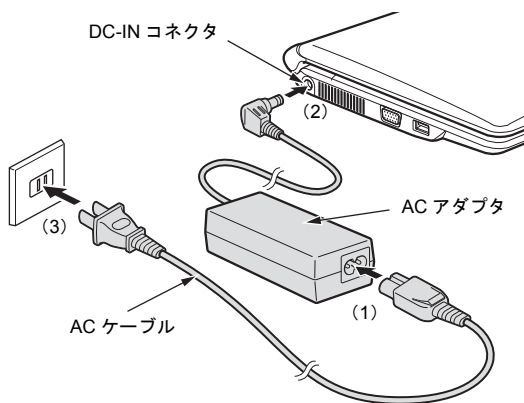
1. セットアップを始めよう

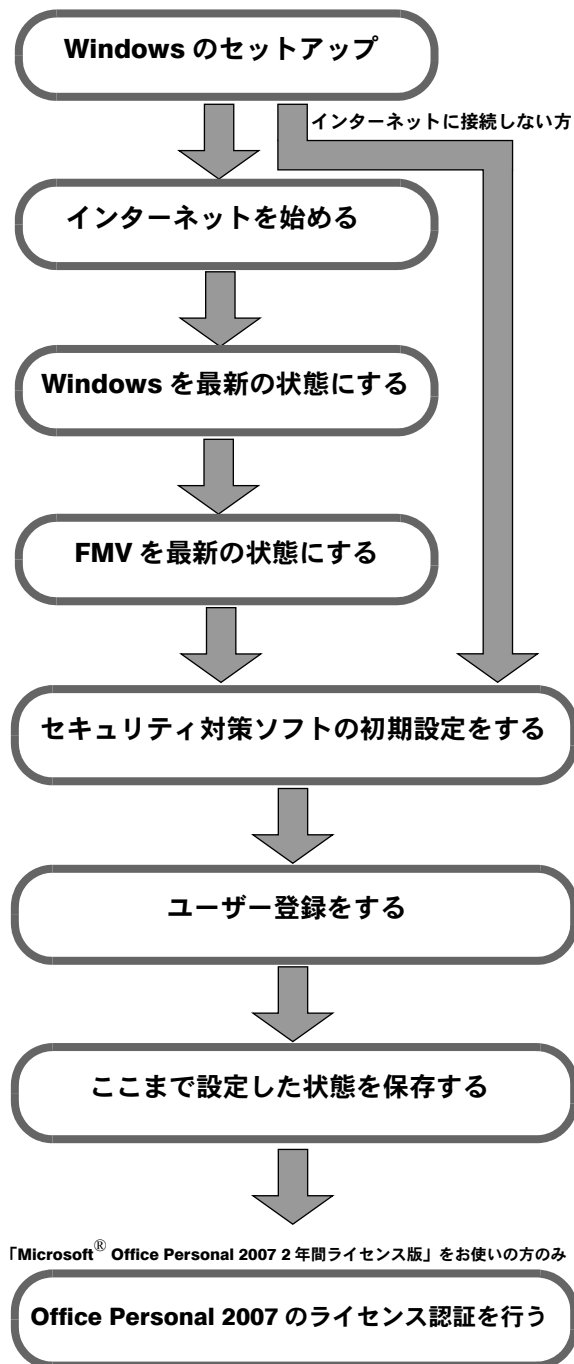
セットアップ前の準備

セットアップを始める前に、AC アダプタを取り付けます。

AC アダプタを取り付ける

ゆるんだり抜けたりしないように、しっかり接続してください。

1 AC アダプタに AC ケーブルを接続します。
2 パソコン本体の DC-IN コネクタに接続します。
3 電源プラグをコンセントに接続します。

セットアップの流れ

初めてパソコンの電源を入れるときに行う準備について説明します。次のチャートの順に進めましょう。

セットアップ時の注意事項

●操作の途中で電源を切らないでください。
途中で電源を切ると、Windows が使えなくなる場合があります。「Windows のセットアップ」（→ P.21）の手順が終わるまでは、絶対に電源を切らないでください。

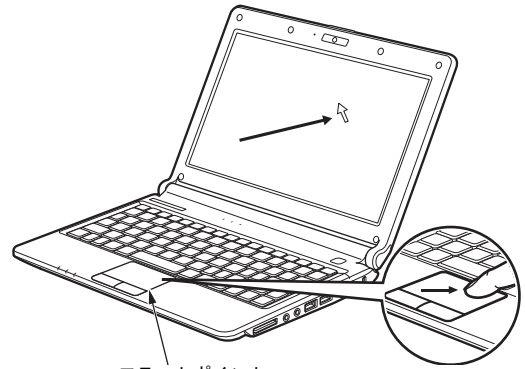
●セットアップ前に周辺機器を接続しないでください。
別売の周辺機器や LAN ケーブルなどは、Windows のセットアップが終了するまで接続しないでください。
周辺機器の設定方法については、周辺機器のメーカーへお問い合わせください。

●時間に余裕をもって作業してください。
セットアップには半日以上の時間をとり、じっくりと作業することをお勧めします。

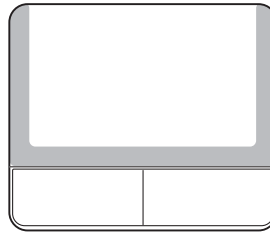
●必ず AC アダプタを接続してください。
途中でバッテリ残量がなくなると電源が切れてしまい、Windows が使えなくなる場合があります。

●磁気ブレスレットや磁気ネックレスなど、磁気を発生するものを身につけたまま、操作しないでください。画面が表示されなくなるなどの故障の原因となるおそれがあります。

フラットポイントの使い方

セットアップでは、フラットポイントを使います。指先で操作面をなぞると、指の動きに合わせて（マウスポインタ）が画面の上を動きます。

フラットポイントは、操作面の中央部分をなぞって操作してください。

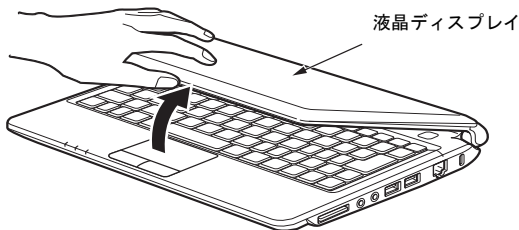
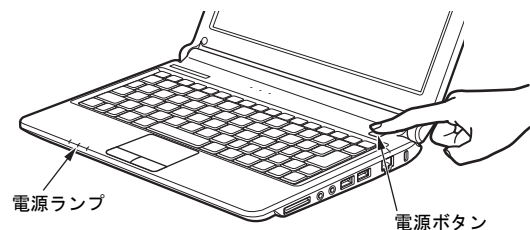
POINT

▶ 操作面の左端、右端、下端の部分は、なぞっても反応しません。

目的の位置にマウスポインタを合わせ、左ボタンをカチッと 1 回押して、すぐに離します。この操作のことを、「クリック」といいます。クリックを素早く 2 回繰り返すことを「ダブルクリック」といいます。
また、右ボタンをカチッと 1 回押して、すぐに離すことを「右クリック」といいます。

Windows のセットアップ

初めてパソコンを使うときは、Windows のセットアップという作業が必要です。Windows のセットアップが終わらないと、パソコンは使えるようになりません。このマニュアルの手順どおりに操作を進めてください。

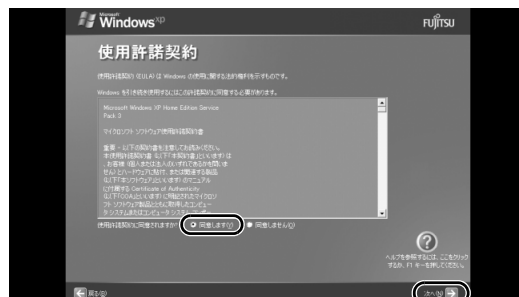
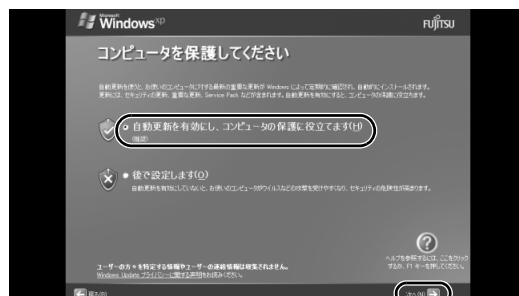
Windows セットアップ

1 パソコン本体と液晶ディスプレイ上部の両方に手を添えて開きます。

2 電源ボタンを押します。

電源ボタン、および電源ランプが点灯します。
「Microsoft Windows へようこそ」が表示されるまで、しばらくお待ちください。

POINT

- 「Microsoft Windowsへようこそ」の画面が表示される前に、「System CMOS checksum bad - Default configuration used Press <F1> to resume, <F2> to Setup」というメッセージが表示された場合は、【F2】キーを押して BIOS セットアップを起動し、日付と時刻の設定を行ってください。設定を行わないまま、Windows のセットアップの 操作を続けないでください。
  詳しくは、「トラブルシューティング」－「よくあるトラブルと解決方法」－「起動・終了時のトラブル」－「Windowsが起動しない」(→P.76)をご覧ください。

3「次へ」をクリックします。

4「使用許諾契約書」をよく読み、「同意します」をクリックし、「次へ」をクリックします。

5「自動更新を有効にし、コンピュータの保護に役立てます」をクリックし、「次へ」をクリックします。

6 「このコンピュータの名前」と「コンピュータの説明」を変更せずに、「次へ」をクリックします。

「インターネット接続を確認しています」と表示されます。しばらくすると、「インターネット接続が選択されませんでした」と表示されます。

POINT

- コンピュータの名前は、後から変更できます。
Windows セットアップがすべて完了した後、必要に応じて変更してください。コンピュータの名前の変更方法については、「スタート」ボタン→「ヘルプとサポート」の順にクリックし、表示された Windows のヘルプで、「コンピュータ名」で検索して「コンピュータ名を変更する」をご覧ください。

7 画面右下の「省略」をクリックします。

8 「いいえ、今回はユーザー登録しません」をクリックし、「次へ」をクリックします。

9 画面に表示されているメッセージを確認し、「完了」をクリックします。

パソコンが再起動します。

この間、画面が真っ暗になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。そのままお待ちください。

10 デスクトップの「必ず実行してください」アイコンをダブルクリックします。

「このパソコンに最適な設定を行います」ウィンドウが表示されます。

重要

- 「必ず実行してください」を行わないと、パソコンの初期設定が行われません。必ず手順どおりに実行してください。

11 「実行する」をクリックします。

初期設定が始まります。

「保証期間表示」ウィンドウが表示されるまで、しばらくお待ちください。

初期設定の間、ハードウェアを診断する画面が表示されます。

重要

- 「診断センターにお問い合わせください」と表示された場合は、画面の指示に従ってください。

12 保証書を用意し、保証開始日を保証書に書き写します。

保証書に保証開始日が記入されていないと、保証期間内であっても有償での修理となります（保証開始日はこのパソコンの電源を最初に入れた日になります）。

保証書は大切に保管してください。

13「保証期間表示」ウィンドウの「閉じる」をクリックし、「いいえ」をクリックします。

もう一度保証期間を確認したいときは「はい」をクリックしてください。

14「OK」をクリックします。

パソコンが再起動します。

これで Windows セットアップが終了しました。
次に、インターネットに接続するための準備をします。
インターネットに接続しない方は、「セキュリティ対策ソフトの初期設定をする」（→ P.28）に進みましょう。

POINT

- ここまでの操作が終了したら、パソコンの電源を切って操作を中断できます。ただし、セキュリティ対策ソフトの設定などが完了していないため、できるだけ早くこの後の準備を再開してください。
  「電源を入れる／切る」（→ P.39）
- このパソコンは、画面の明るさや音量を調整できます。
  お使いの環境にあわせて調整してください。
  「音量を調節する」（→ P.44）
  「液晶ディスプレイの明るさを調節する」（→ P.45）

インターネットを始める

インターネットに接続すると、ホームページを見たり、E メールを使ったりすることができます。また、ホームページからのユーザー登録を利用したり、セキュリティ対策ソフトの更新を行ったりもできます。ここでは、初めてインターネットに接続するときの流れと設定について説明します。

インターネットを始めるには

このパソコンでインターネットを始めるには、次のような流れでインターネットの準備をしてください。

Step1 プロバイダと契約する

プロバイダはインターネットに接続するためのサービスを提供している企業や団体です。ご利用になる目的に合わせてプロバイダを選び、契約してください。
インターネットへの接続は、ADSL や光ファイバーなどのブロードバンド接続をお勧めします。
ブロードバンド接続にすると、動画などさまざまなサービスを快適に楽しむことができます。

Step2 パソコンの設定をする

お使いの環境にあわせて、必要な機器の準備や設定を行います。パソコンの設定方法については、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
インターネットに接続したら、「Windows を最新の状態にする」（→ P.26）へ進みましょう。
無線 LAN でインターネットに接続する場合は、「無線 LAN でインターネットに接続する」（→ P.23）をご覧になり、無線 LAN の設定を行ってください。

POINT

- E メールを使うには、プロバイダから提供される次の情報をメールソフトに設定してください。設定する情報がわからない場合は、ご契約のプロバイダにお問い合わせください。
  - ・受信（POP）サーバー
  - ・送信（SMTP）サーバー
  - ・メールアドレス
  - ・メールアカウント名
  - ・メールパスワード

無線 LAN でインターネットに接続する

ここでは、無線 LAN アクセスポイントと内蔵無線 LAN を使って、無線 LAN でインターネットに接続する方法を説明します。

重 要

- 無線 LAN をご利用になる場合は、無線 LAN アクセスポイントのセキュリティを設定することをお勧めします。
  無線 LAN アクセスポイントにセキュリティを設定していないと、無線 LAN の電波が届く範囲であれば、誰でも特別なツールを使わずに通信内容を傍受したり、ネットワークに侵入したりできる可能性があります。
  セキュリティの設定方法は、無線 LAN アクセスポイントに添付のマニュアルをご覧ください。

POINT

- 無線 LAN の推奨のセキュリティ設定
  「ネットワーク認証」は「WPA2-PSK」を、「データの暗号化」は「AES」を選択することをお勧めします。
  また、「パスフレーズ（PSK）」は 21 文字以上入力してください。
  お使いの無線 LAN アクセスポイントによっては、このような設定に対応していない場合があります。無線 LAN アクセスポイントに添付のマニュアルでご確認ください。

Step1 無線 LAN アクセスポイントを設定または確認する

無線 LAN を使ってインターネットに接続するためのプロファイル（接続設定）を作成するときには、無線 LAN アクセスポイントの設定情報が必要になります。
お使いの無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧になり、あらかじめ次の欄に記入してください。
無線 LAN アクセスポイントの設定がわからない場合は、お使いの無線LANアクセスポイントに添付のマニュアルをご覧いただき、製造元にお問い合わせください。

●SSID（ネットワーク名）

無線 LAN アクセスポイントの名前のようなものです。パソコンから接続する無線 LAN アクセスポイントを識別するために利用されます。

●ネットワーク認証

無線 LAN アクセスポイントに設定するセキュリティは、「WPA2-PSK」や「オープンシステム」などいくつかの種類があります。
設定できるネットワーク認証は、無線 LAN アクセスポイントにより異なります。

●データの暗号化

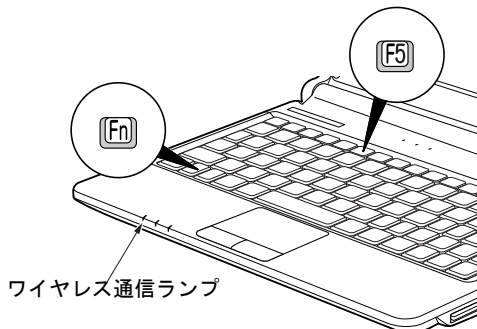
「ネットワーク認証」が WPA2-PSK/WPA-PSK/WPA2/WPA の場合は「AES」または「TKIP」のどちらかを、「ネットワーク認証」が「オープンシステム」の場合は「WEP」または「無効」のどちらかを設定する必要があります。

●WEP キーまたはパスフレーズ

無線 LAN アクセスポイントにセキュリティをかけるときに設定するパスワードです。

Step2 無線 LAN の電波を発信する

パソコンの無線 LAN の電波が発信されているか確認します。

1 パソコン本体前面にあるワイヤレス通信ランプが点灯していることを確認します。

重 要

- ワイヤレス通信ランプが点灯していない場合は、【Fn】キーを押しながら【F5】キーを押して、ワイヤレス通信ランプが点灯していることを確認してください。

無線 LAN の電波の発信、停止の設定は、電源を切っても保持されます。

Step3 パソコンの設定をする

WPA2-PSK/WPA-PSK/WEP を使用する場合の設定手順を説明します。
Windows XPの標準機能を使って無線LANの設定を行います。

重 要

- Windows には管理者権限でログオンしてください。
  無線 LAN の設定を行うためには、Windows に「コンピュータの管理者」アカウントまたは「Administrators」グループのメンバーとしてログオンしている必要があります。

1 無線 LAN アクセスポイントの電源が入っていることを確認します。

無線LANアクセスポイントの電源の入れ方については、無線 LAN アクセスポイントに添付されているマニュアルをご覧ください。

2「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。

3「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。

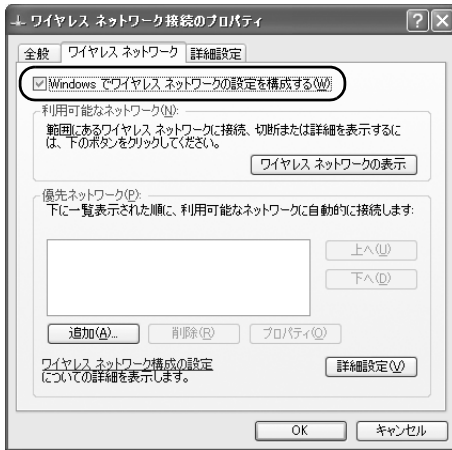
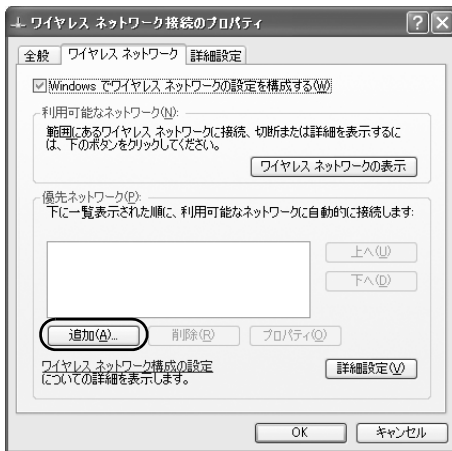
4「ネットワーク接続」をクリックします。

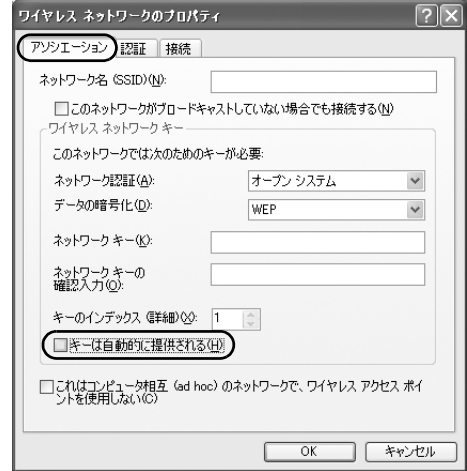
現在インストールされているネットワークの一覧が表示されます。

5 一覧から「ワイヤレスネットワーク接続」を右クリックして、表示されるメニューから「プロパティ」をクリックします。

「ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ」ウィンドウが表示されます。

6「ワイヤレスネットワーク」タブで、「Windows でワイヤレスネットワークの設定を構成する」が☑になっていることを確認します。

□になっている場合は、□をクリックして☑にします。

7「優先ネットワーク」の「追加」をクリックします。

「ワイヤレスネットワークのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

8「アソシエーション」タブをクリックし、「キーは自動的に提供される」の☑をクリックして□にします。

9「アソシエーション」タブでネットワークの情報を入力し、「OK」をクリックします。

①. P.24 で記入した「SSID（ネットワーク名）」を入力します。

②.「SSID の隠蔽」機能が有効になっている無線 LAN アクセスポイントと接続する場合などは、必要に応じて、□をクリックして☑にします。

③. P.24 で記入した「ネットワーク認証」を選択します。

④. P.24 で記入した「データの暗号化」を選択します。

⑤. P.24 で記入した「WEP キーまたはパスフレーズ」を入力します。

⑥. ⑤に入力した「WEP キーまたはパスフレーズ」と同じ内容を入力します。

⑤と⑥に入力した内容が違うと設定できません。

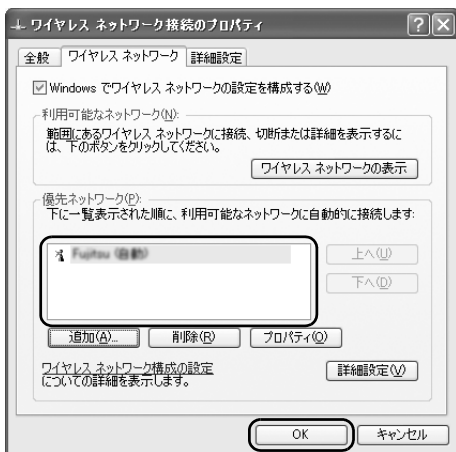
⑦.「ネットワーク認証」を「オープンシステム」または「共有キー」にした場合に設定します。

無線 LAN アクセスポイントの設定に合わせてください。通常は「1」に設定してください。

⑧.「データの暗号化」を「WEP」にした場合は☐にします。

POINT

- 「データの暗号化」を「WEP」にした場合は、「認証」タブをクリックし、「このネットワークでIEEE 802.1X認証を有効にする」の☑をクリックして☐にします。

10 「優先ネットワーク」に、手順 9 で「ネットワーク名（SSID）」に入力したネットワーク名が追加されたことを確認し、「OK」をクリックします。

「優先ネットワーク」に複数の設定が存在する場合、希望するネットワークとは別の設定が優先される場合があります。混乱を避けるために、接続したい設定のみ登録することをお勧めします。

11 すべてのウィンドウを閉じます。

これで無線 LAN を使ったインターネット接続は完了です。
接続できなかったときは、無線 LAN アクセスポイントの設定情報とパソコンの設定内容を確認してください。
無線 LAN アクセスポイントで設定した内容と同じ情報をパソコンに設定しないと、ネットワークに接続できません。
無線 LAN アクセスポイントの設定がわからない場合は、無線 LAN アクセスポイントのマニュアルをご覧になるか、製造元にお問い合わせください。

POINT

- 無線 LAN を使ってインターネットに接続中は、スタンバイや休止状態などの省電力機能を使用しないことをお勧めします。お使いの環境によっては、インターネットへの接続が正常に行われない場合があります。
  省電力機能の解除は次の手順で行います。
  1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」→「パフォーマンスとメンテナンス」→「電源オプション」の順にクリックします。
  2. 「電源設定」タブをクリックして次の項目を設定し、「OK」をクリックします。
     ・「システムスタンバイ」を「なし」にします。
     ・「システム休止状態」を「なし」にします。

Windows を最新の状態にする

インターネットに接続できるようになったら、「Windows Update」を実行してください。「Windows Update」は、マイクロソフト社が提供するサポート機能です。Windows やソフトウェアなどを最新の状態に更新・修正することができます。ウイルスや不正アクセスを防ぐための対策もされるので、定期的に実行することをお勧めします。

重 要

- 「Windows Update」について
  「Windows Update」でマイクロソフト社から提供されるプログラムについては、弊社がその内容や動作、および実施後のパソコンの動作を保証するものではありませんのでご了承ください。

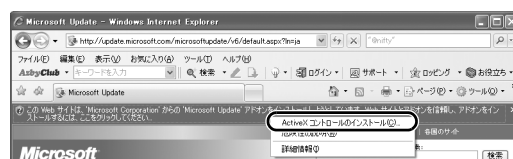
POINT

- インターネットに接続して更新情報を確認するため、ブロードバンド接続の環境でお使いになることをお勧めします。
  ブロードバンド接続環境以外でご利用になると、最新の状態へ更新する作業に多くの時間を必要とする場合があります。

1 インターネットに接続されているか確認します。

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Update」の順にクリックします。
この後の操作は、状況により異なります。次の項目を参考に、画面の指示に従って操作してください。

■「情報バーにお気づきですか？」と表示された

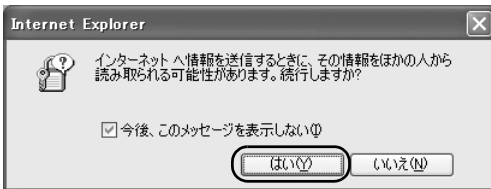
「閉じる」をクリックした後、Internet Explorer に表示されている「この Web サイトは・・・」の部分を右クリックし、表示されたメニューから「ActiveX コントロールのインストール」をクリックします。

■「セキュリティの警告」ウィンドウが表示された

「発行元」が「Microsoft Corporation」であることを確認し、「インストールする」をクリックします。

■「ようこそ Microsoft Update へ」と表示された

「高速」をクリックします。

■「インターネットへ情報を送信するときに、その情報をほかの人から読み取られる可能性があります。続行しますか？」と表示された

「はい」をクリックします。

■優先度の高い更新プログラムの一覧が表示された

「更新プログラムのインストール」をクリックします。

■使用許諾契約書やライセンス条項の画面が表示された

内容をよくお読みになり、「同意します」をクリックします。

■「更新を有効にするには、コンピュータを再起動してください。」と表示された

「今すぐ再起動」をクリックします。

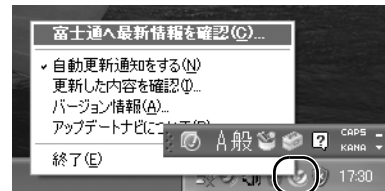
FMV を最新の状態にする

「アップデートナビ」を実行すると、インターネットを経由して、このパソコンに関連するドライバやソフトウェアの最新情報を確認し、更新することができます。

POINT

- インターネットを利用して更新情報を確認するため、ブロードバンド接続の環境でお使いになることを強くお勧めします。ブロードバンド接続環境以外でご利用になると、ソフトウェアの規模によっては、最新の状態へ更新する作業に多くの時間を必要とする場合があります。

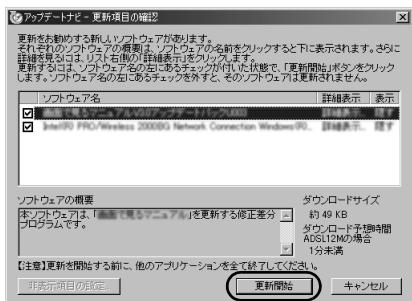
アップデートナビを実行する

1. 画面右下の通知領域にある「アップデートナビ」アイコンを右クリックし、「富士通への最新情報を確認」をクリックします。

2. 「ご利用になるうえでのご注意」の画面が表示されたら内容をよくお読みになり、「承諾する」をクリックします。
3. 更新項目を確認します。必要に応じて概要、詳細をご覧ください。

   更新したくない項目がある場合は、その項目の左にある☑をクリックして□にします。通常は、すべての項目を更新することをお勧めします。

POINT

- 「お使いの環境がお勧めの状態です」と表示されたら、更新は必要ありません。「OK」をクリックし、アップデートナビを終了させてください。

4「更新開始」をクリックします。

選択されたソフトウェアの更新が始まります。

5 パソコンの再起動を要求するメッセージが表示された場合は、「はい」をクリックします。

パソコンが再起動し、更新が完了します。

再起動を要求するメッセージが表示されない場合は、これで完了です。

セキュリティ対策ソフトの初期設定をする

Windows を最新の状態にしたら、インターネットに接続した状態でセキュリティ対策ソフトの初期設定を行ってください。インターネットに接続しない場合も、USB メモリやメモリーカードなどからの感染を防ぐため、セキュリティ対策ソフトの初期設定をすることをお勧めします。

このパソコンに用意されているセキュリティ対策ソフト

このパソコンには、さまざまな機能を備えた総合的なセキュリティ対策ソフトが 2 つ用意されています。

お使いになるセキュリティ対策ソフトを 1 つ選んで、初期設定を行ってください。

重 要

- セキュリティ対策ソフトを選択して初期設定を始めると、セキュリティ対策ソフトを変更できなくなります。セキュリティ対策ソフトを選択し直したい場合は、パソコンをご購入時の状態に戻す（リカバリする）必要がありますので、ご注意ください。

●「ウイルスバスター 2009」を使う

「「ウイルスバスター 2009」の初期設定をする」（→ P.28）へ進んでください。

●「Norton Internet Security」を使う

「「Norton Internet Security」の初期設定をする」（→ P.29）へ進んでください。

●自分で用意したセキュリティ対策ソフトを使う

用意したセキュリティ対策ソフトのマニュアルをご覧になり、初期設定を行ってください。

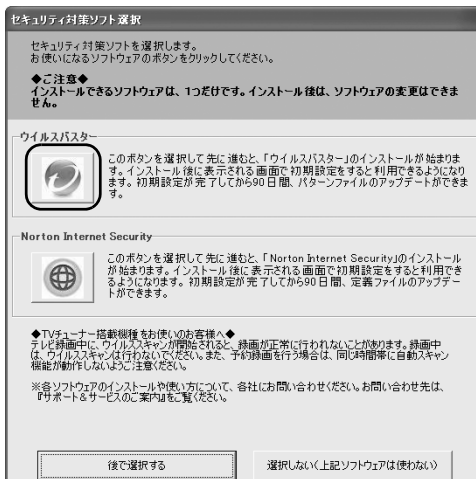
POINT

- このパソコンに用意されているセキュリティ対策ソフトは、初期設定が完了してから 90 日間はウイルス対策ファイルをアップデートできます。その後も使い続けるには、更新手続き（有料）が必要です。なお、ウイルス対策ファイルのアップデートを行う場合には、必ずインターネットに接続してから操作を行ってください。
- このパソコンに用意されているセキュリティ対策ソフトを最新の状態で使うには、インターネット接続環境が必要になります。また、「ウイルスバスター2009」を選択する場合は、メールアドレスが必要になります。

「ウイルスバスター 2009」の初期設定をする

1 デスクトップにある「セキュリティ対策ソフト選択」をクリックします。

「セキュリティ対策ソフト選択」ウィンドウが表示されます。

2「ウイルスバスター」ボタンをクリックします。

3 表示された画面の内容をよく確認し、「同意する」をクリックします。

「同意する」をクリックした後は、セキュリティ対策ソフトを変更することはできませんので、ご注意ください。

4「ウイルスバスター2009 準備中」画面が消えるまで、しばらくお待ちください。

「ウイルスバスター 2009 準備中」画面が消えたら、インストールは完了です。

■アップデート機能を有効にする

インターネットに接続したら、「ウイルスバスター 2009」のアップデート機能を使用し、常に最新の状態に保つことをお勧めします。

「ウイルスバスター 2009」をアップデートするには、「オンラインユーザ登録」をする必要があります。

次の手順に従って、設定してください。

1 デスクトップの「ウイルスバスター 2009」をクリックします。

2「ウイルスバスター2009」のトップ画面の「現在の状況」にある「有効にする」をクリックします。

3 表示される画面の指示に従って、「オンラインユーザ登録」を進めてください。

■ネットワークに接続する場合の設定

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ外部からの不正アクセスや攻撃からパソコンを守るために、パーソナルファイアウォール機能をお使いになることをお勧めします。

「ウイルスバスター 2009」のパーソナルファイアウォール機能をお使いになる場合は、プロファイル（通信環境設定）の設定を行ってください。

1 デスクトップの「ウイルスバスター 2009」をクリックします。

2「マイコンピュータ」タブの「パーソナルファイアウォール」をクリックします。

3「パーソナルファイアウォール」の「設定」をクリックします。

4「プロファイルの変更」をクリックし、お使いの通信環境に合わせてプロファイルを選択します

■自動スキャン設定

定期的にウイルススキャンを行うには、次の手順で設定してください。

1 デスクトップの「ウイルスバスター 2009」をクリックします。

2「マイコンピュータ」タブの「ウイルス／スパイウェア対策」をクリックします。

3「予約検索／カスタム検索」をクリックします。

4「予約検索」をクリックします。

■会員契約の有効期限

初めて「ウイルスバスター 2009」を起動した日から 90 日間は、無料で最新のウイルスやスパイウェアに対するパターンファイルなどの更新サービスを受けることができます。それ以降も継続して利用される場合は、有料で契約期間の延長をお申し込みになるか、パッケージ版をご購入いただく必要があります。

会員契約の有効期限が近づくと、「まもなく使用期限切れとなります」という画面が表示されます。契約期間の延長をお申し込みになる場合は、「詳細を見る」をクリックし、画面の指示に従って操作してください。

■お問い合わせ先

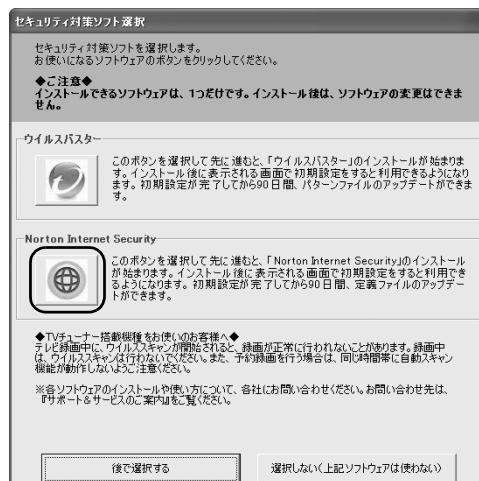
「ウイルスバスター 2009」についてはトレンドマイクロ株式会社にお問い合わせください。

『サポート＆サービスのご案内』→「困ったとき」→「サポート窓口に相談する」→「ソフトウェアのお問い合わせ先」

「Norton Internet Security」の初期設定をする

1 デスクトップにある「セキュリティ対策ソフト選択」をクリックします。

「セキュリティ対策ソフト選択」ウィンドウが表示されます。

2「Norton Internet Security」ボタンをクリックします。

3 表示された画面の内容をよく確認し、「同意する」をクリックします。

「同意する」をクリックした後は、セキュリティ対策ソフトを変更することはできませんので、ご注意ください。

4「Norton Internet Security 2009」画面が表示されたら、「ユーザー使用許諾契約」をご覧になり、「同意してインストール」をクリックします。

「Norton Internet Security 2009」のインストールウィンドウが表示され、インストールが始まります。

しばらくしてウィンドウが消えたら、インストールは完了です。

5 デスクトップにある「Norton Internet Security」のアイコンをクリックします。

インターネットに接続している場合は、「Norton アカウント」画面が表示されます。引き続き手順 6 から操作してください。

インターネットに接続していない場合は、「90 日の保護」画面が表示されます。手順 9 から操作してください。

6「Norton アカウント」画面が表示されたら、電子メールアドレスを入力せずに「次へ」をクリックします。

「Norton アカウント」は「Norton Internet Security」のインストールが完了してから作成してください。

7 もう一度「次へ」をクリックします。

8「後で通知する」をクリックします。

9「90 日の保護」画面が表示されたら、「延長しないで閉じる」をクリックします。

これで「Norton Internet Security」の初期設定は完了です。

■「Norton Internet Security」を最新の状態にする

インターネットに接続したら、「Norton Internet Security」のLive Update 機能を使用し、常に最新の状態に保つことをお勧めします。

1 デスクトップにある「Norton Internet Security」アイコンをクリックします。

2「コンピュータ」の「LiveUpdate を実行」をクリックします。

3 表示される画面の指示に従って操作します。

■自動スキャン設定

定期的にウイルススキャンを行うには、次の手順で設定してください。

1 デスクトップにある「Norton Internet Security」アイコンをクリックします。

2「コンピュータ」の「設定」をクリックします。

3「スキャンの管理」の「設定」をクリックします。

4「システムの完全スキャン」の「スケジュール」をクリックします。

5「スキャンがすでにスケジュールにあります」と表示されたら、「はい」をクリックします。

■更新サービスの期間

初めて「Norton Internet Security」を起動した日から 90 日間は、無料で最新のウイルスやスパイウェアに対するパターンファイルなどの更新サービスを受けることができます。それ以降も継続して利用される場合は、有料で更新サービスの延長をお申し込みになるか、パッケージ版をご購入いただく必要があります。

更新サービスの期限が切れると、「更新サービスの警告」画面が表示されます。更新サービスの延長をお申し込みになる場合は、「今すぐに申し込む（推奨）」が表示されている状態で「OK」をクリックし、表示される画面に従って操作してください。

■お問い合わせ先

「Norton Internet Security」については株式会社シマンテックにお問い合わせください。

『サポート＆サービスのご案内』→「困ったとき」→「サポート窓口に相談する」→「ソフトウェアのお問い合わせ先」

Column 家族で安心して使うために

青少年によるインターネット上の有害サイトへのアクセス防止について

インターネットの発展によって、世界中の人とメールのやり取りをしたり、個人や企業が提供しているインターネット上のサイトを活用したりすることが容易になっており、それに伴い、青少年の教育にもインターネットの利用は欠かせなくなっています。しかしながら、インターネットには違法情報や有害な情報などを掲載した好ましくないサイトも存在しています。
特に、下記のようなインターネット上のサイトでは、情報入手の容易化や機会遭遇の増大などによって、青少年の健全な発育を阻害し、犯罪や財産権侵害、人権侵害などの社会問題の発生を助長していると見られています。

- ●アダルトサイト（ポルノ画像や風俗情報）
- ●出会い系サイト
- ●暴力残虐画像を集めたサイト
- ●他人の悪口や誹謗中傷を載せたサイト
- ●犯罪を助長するようなサイト
- ●毒物や麻薬情報を載せたサイト

サイトの内容が青少年にとっていかに有害であっても、他人のサイトの公開をやめさせることはできません。情報を発信する人の表現の自由を奪うことになるからです。また、日本では非合法であっても、海外に存在しその国では合法のサイトもあり、それらの公開をやめさせることはできません。
有害なインターネット上のサイトを青少年に見せないようにするための技術が、「フィルタリング」といわれるものです。フィルタリングは、情報発信者の表現の自由を尊重しつつ、情報受信側で有害サイトの閲覧を制御する技術で、100% 万全ではありませんが、多くの有害サイトへのアクセスを自動的に制限できる有効な手段です。特に青少年のお子様がいらっしゃるご家庭では、「フィルタリング」を活用されることをお勧めします。
「フィルタリング」を利用するためには、一般に下記の 2 つの方法があります。
「フィルタリング」はお客様個人の責任でご利用ください。

- ●パソコンにフィルタリングの機能を持つソフトウェアをインストールする。
- ●インターネット事業者のフィルタリングサービスを利用する。

これらのソフトウェアのインストール方法やご利用方法については、それぞれのソフトウェアの説明書またはヘルプをご確認ください。
なお、ソフトウェアやサービスによっては、「フィルタリング」機能を「有害サイトブロック」、「有害サイト遮断」、「Web フィルタ」、「インターネット利用管理」などと表現している場合があります。あらかじめ機能をご確認のうえ、ご利用されることをお勧めします。

このパソコンには、「i- フィルター® 5.0」が用意されています。
ご利用期間 90 日間の体験版となっていますので、ぜひお試しください。
利用開始から 90 日間を超えてご利用になる場合は、継続利用の登録（有償）を行うか、市販のフィルタリングソフトウェアをご購入のうえ、ご利用ください。

1 「スタート」メニュー→「すべてのプログラム」→「i- フィルター 5.0」→「i- フィルター 5.0」の順にクリックします。

［参考情報］

- ・社団法人 電子情報技術産業協会のユーザー向け啓発資料「パソコン・サポートとつきあう方法」
- ・デジタルアーツ株式会社（i- フィルター提供会社）「フィルタリングとは - 家庭向けケーススタディー」

インターネット上の危険対策について

このパソコンには、危険なホームページへのアクセスを警告する、「マカフィー® サイトアドバイザプラス」が用意されています。「マカフィー® サイトアドバイザプラス」は、Web ブラウザや検索エンジンと連動してホームページの安全性を表示したり、「保護モード」によって有害なサイトへの進入を制限したりします。
「マカフィー® サイトアドバイザプラス」を利用するには、メールアドレスの登録が必要になります。
また、利用開始から 30 日間を超えてご利用になる場合は、期間延長の手続き（有償）を行ってください。

1 「スタート」メニュー→「すべてのプログラム」→「サイトアドバイザプラス」→「サイトアドバイザプラス」の順にクリックします。

ユーザー登録をする

お客様の情報、およびご購入いただいたパソコンの機種情報を登録していただくことで、お客様1人1人に、よりきめ細かなサポート・サービスをご提供します。できるだけ早く、ユーザー登録されることをお勧めします。

ユーザー登録すると

- お客様専用の「ユーザー登録番号」と「パスワード」が発行されます。
- 自動的に「FMV ユーザーズクラブ AzbyClub［アズビィクラブ］」の会員に登録されます。
  AzbyClub とは、お客様に FMV を快適にご利用いただくための会員組織です。入会金、年会費は無料です（2 年目以降も無料）。

重要

- インターネットに接続していない方や、ホームページからのユーザー登録をご利用できない方は、郵送によるユーザー登録を受け付けています。
  『サポート＆サービスのご案内』→「付録」→「郵送によるユーザー登録」をご覧ください。

ユーザー登録については、『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

ここまで設定した状態を保存する

ここまで設定したパソコンの状態を「マイリカバリ」を使って保存しておくと、いざというときに復元できるので安心です。ここでは、「マイリカバリ」を使って、D ドライブにディスクイメージを作る方法を説明します。

「マイリカバリ」については、「大切なデータを保存する（バックアップ）」（→ P.52）をご覧ください。

重要

- 「マイリカバリ」は、すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません。また、著作権保護された映像や音楽などはバックアップ／復元できない場合があります。

1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「マイリカバリ」→「マイリカバリ」の順にクリックします。
   「マイリカバリ」の概要を説明した「マイリカバリとは」ウィンドウが表示されます。
2. 「閉じる」をクリックします。
   「マイリカバリ」が表示されます。
3. 「つくる」をクリックします。
4. コメントを入力し、「次へ」をクリックします。

5. 「OK」をクリックします。

パソコンが再起動します。

6 **「ディスクイメージの作成」画面が表示されたら、「D ドライブにつくる」をクリックします。**

7 **「これからディスクイメージをつくります。」と表示されたら、「次へ」をクリックします。**

8 **「実行」をクリックすると、ディスクイメージの作成が始まります。**

終了までの時間表示が増えることがあります。これは、途中で終了時間を計算し直しているためです。約 30% 終了するまでは、残り時間が正確に表示されない場合がありますのでご了承ください。

9 **「ディスクイメージを作成しました。」と表示されたら、「完了」をクリックします。**

パソコンが再起動します。

これで、今まで設定したパソコンの状態が保存されました。セットアップは完了です。

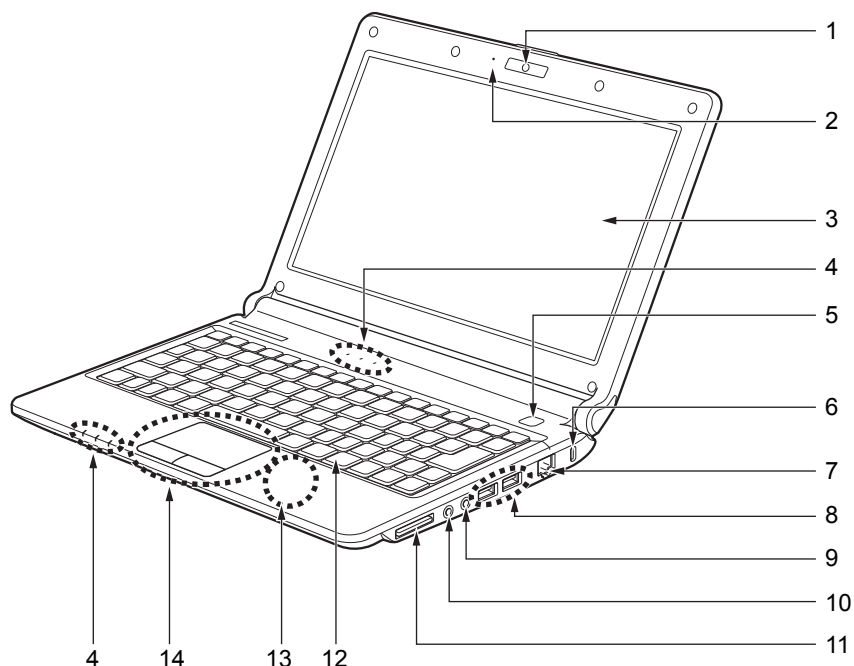
Office Personal 2007 のライセンス認証を行う

「Office Personal 2007」はご購入時にあらかじめインストールされています。「Microsoft® Office Personal 2007 2 年間ライセンス版」をお使いの方は、初回起動時にプロダクトキーの入力とライセンス認証が必要です。詳しくは「Office Personal 2007 のパッケージ」をご覧ください。

- ライセンス認証を行うには、お使いのパソコンをインターネットに接続する必要があります。
  「Office Personal 2007」は電話でのライセンス認証はできません。
- プロダクトキーは「Office Personal 2007 のパッケージ」に同梱されています。
- ライセンス期間中にパソコン本体を修理した場合は、再度ライセンス認証が必要になることがあります。
- ライセンス認証ができない場合には、下記の窓口にお問い合わせください。
  - 電話番号：0120-09-0196
    ※ご利用の際は、電話番号を間違えないようにご注意ください。
  - 受付時間：月～金／ 9:30 ～ 12:00、13:00 ～ 17:00
    土・日／ 10:00 ～ 17:00
    （マイクロソフト株式会社指定休業日、年末年始、祝日を除く）
    ※音声ガイダンスが流れますので、ガイダンスに従って番号の選択をお願いします。

2. パソコンの取り扱い

各部の名称と働き

パソコン本体前面／右側面

1 Webカメラ
内蔵のデジタルマイク、テレビ電話用ソフトと合わせて使うことで、テレビ電話ができます。
「Webカメラを使う」（→ P.47）

2 デジタルマイク
テレビ電話用ソフトを利用して、音声通話ができます。

3 液晶ディスプレイ
入力した内容や、パソコン内のデータなどを表示します。

4 状態表示LED
このパソコンの状態を表示します。
「状態表示LED」（→ P.38）

5 電源ボタン（⏻）
パソコン本体の電源を入れます。また、省電力状態にしたり、省電力状態から復帰（レジューム）させたりします。なお、パソコンの電源が入っているときに点灯します。
また、この他に次の状態を表します。
- 点滅
  スタンバイの状態を表します。
- 消灯
  電源が切れている状態、または休止状態を表します。

6 盗難防止用ロック取り付け穴（🔒）
市販の盗難防止用ケーブルを接続します。

7 LANコネクタ（品）
LANケーブルを接続します。
『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「LAN（有線LAN）機能を使う」

8 USBコネクタ（●⭠）
USBマウス、プリンタなどのUSB規格の周辺機器を接続します。
USB2.0に準拠しているため、USB1.1およびUSB2.0に対応した機器が接続できます。

9　マイク・ラインイン兼用端子（ ）

外径 3.5mm のミニプラグに対応した市販のマイクを接続します。
ただし、市販されているマイクの一部の機種（ダイナミックマイクなど）には、使用できないものがあります。ご購入前に確認してください。
また、設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することができます。
『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「音量の設定」－「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」

10　ヘッドホン・ラインアウト兼用端子（ ）

外径 3.5mm のミニプラグに対応した市販のヘッドホンを接続します。
ただし、形状によっては取り付けられないものがあります。ご購入前に確認してください。
また、設定を変更することにより、ラインアウト端子として使用することができます。

・『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「音量の設定」－「ヘッドホン・ラインアウト兼用端子／マイク・ラインイン兼用端子の機能を切り替える」
・「安全上のご注意」－「ヘッドホン」（→ P.16）

11　ダイレクトメモリースロット

SD メモリーカード、メモリースティックの差し込み口です。miniSD カードやメモリースティック Duo などは、アダプタを使用してください。
「メモリーカードを使う」（→ P.45）

12　キーボード

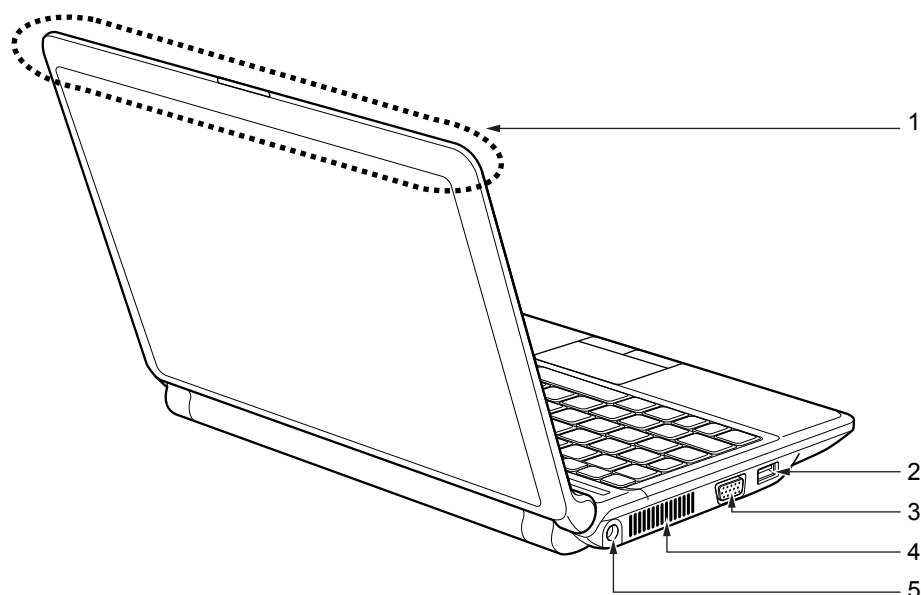
『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「キーボード」

13　内蔵 Bluetooth® ワイヤレステクノロジーアンテナ

Bluetooth® ワイヤレステクノロジー用のアンテナが内蔵されています。
Bluetooth® ワイヤレステクノロジーアンテナの周囲に金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできているものを設置しないでください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
『製品ガイド』（PDF) －「取り扱い」－「Bluetooth ワイヤレステクノロジー」

14　フラットポイント

マウスポインタを操作します。
『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「フラットポイントを使う」

パソコン本体上面／左側面

1 **内蔵無線 LAN アンテナ**
無線 LAN 用のアンテナが内蔵されています。
パソコンの使用中、特に無線 LAN で通信中はアンテナ部分に極力触れないでください。
また、パソコンを設置する場合には、周囲が金属などの導体（電気を通しやすいもの）でできている場所を避けてください。通信性能が低下し、設置環境によっては通信できなくなることがあります。
『製品ガイド』（PDF）－「無線 LAN」

2 **USB コネクタ（）**
USB マウス、プリンタなどの USB 規格の周辺機器を接続します。
USB2.0 に準拠しているため、USB1.1 および USB2.0 に対応した機器が接続できます。

3 **外部ディスプレイコネクタ（）**
アナログディスプレイなど、外部ディスプレイを接続します。
『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「外部ディスプレイ」

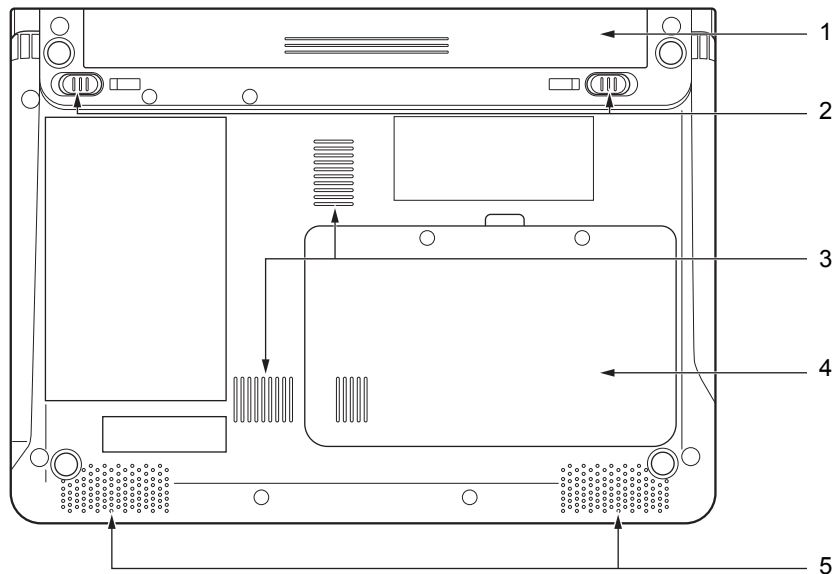
4 **排気孔**
パソコン本体内部の熱を外部に逃がします。

重 要

- 排気孔からは熱風が出ます。排気孔付近には手を触れないでください。
- 排気孔の近くに物を置かないでください。排気孔からの熱で、排気孔の近くに置かれた物が熱くなることがあります。

5 **DC-IN コネクタ（）**
添付の AC アダプタを接続します。
「AC アダプタを接続する」（→ P.39）

パソコン本体下面

1 **内蔵バッテリパック**

内蔵バッテリパックが装着されています。

「バッテリで使う」(→ P.41)

2 **内蔵バッテリパックロック**

内蔵バッテリパックを取り外すときにスライドさせます。

「内蔵バッテリパックを交換する」(→ P.43)

3 **吸気孔**

空冷用ファンが空気を取り込みます。

4 **メモリ(拡張 RAM モジュール)スロット**

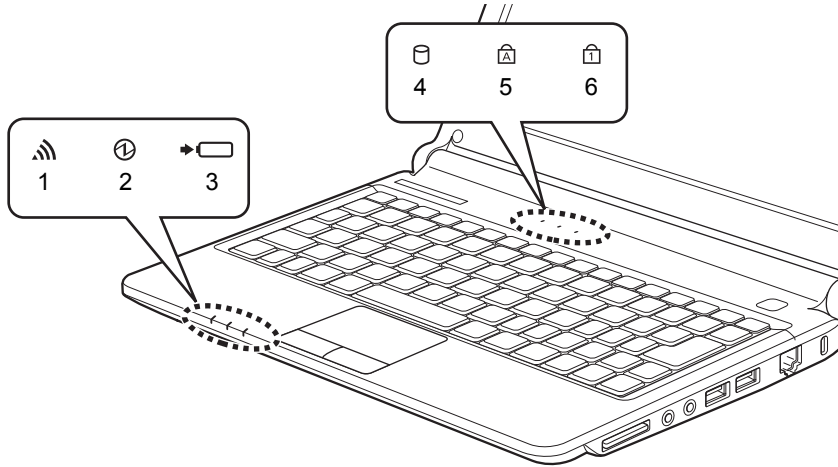
このパソコンのメモリが取り付けられています。

メモリ容量は増やすことができます。

「メモリの交換」(→ P.49)

5 **スピーカー**

パソコンの音声を出力します。

状態表示 LED

1 ワイヤレス通信ランプ（）

内蔵の無線 LAN や Bluetooth® ワイヤレステクノロジーで電波を発信しているときに点灯します。

電波の発信、停止は【Fn】+【F5】キーで行います。

無線 LAN や Bluetooth® ワイヤレステクノロジーの電波の発信、停止の設定は、電源を切っても保持されます。

2 電源ランプ（）

このパソコンの状態を表示します。

LED 表示	パソコン本体の状態
青色点灯	動作状態
オレンジ点滅	スタンバイ中
消灯	電源 OFF または休止状態

3 バッテリ充電／残量ランプ（）

このパソコンに AC アダプタが接続されている場合に、内蔵バッテリパックの充電状態を表示します。また、AC アダプタが未接続の場合、バッテリの残量や状態も確認することができます。

「バッテリの充電状態や残量を確認する」（→ P.43）

4 ディスクアクセスランプ（）

内蔵ハードディスクにアクセスしているときに点灯します。

重 要

- **ディスクアクセスランプが点灯中に電源ボタンを操作すると、内蔵ハードディスクのデータが壊れるおそれがあります。**

5 Caps Lock ランプ（）

英大文字固定モード（英字を大文字で入力する状態）のときに点灯します。

『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「キーボード」

6 Num Lock ランプ（）

キーボードがテンキーモードのときに点灯します。

点灯時は、「テンキーになるキー」で数字や記号を入力できます。

『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「キーボード」

電源を入れる／切る

AC アダプタを接続する

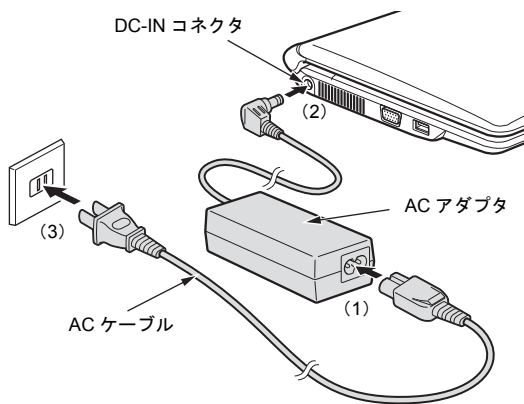
警告

- AC アダプタは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
  誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコン本体が故障する原因となります。

POINT

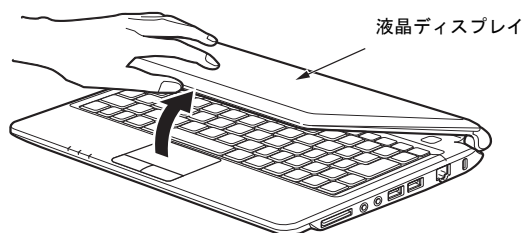
- パソコンの使用中は、AC アダプタが熱くなることがありますが、故障ではありません。

AC アダプタは差し込み口の形状をよく確認して、ゆるんだり抜けたりしないように、奥までしっかりと差し込んでください。

1. AC アダプタに AC ケーブルを接続します。
2. パソコン本体の DC-IN コネクタに接続します。
3. 電源プラグをコンセントに接続します。

電源を入れる

重要

- 電源を入れるときの注意
  - ・電源を入れてからこのパソコンが起動するまでは、むやみにキーボードやフラットポイントに触れないでください。正常に起動できなくなる場合があります。
  - ・パソコンを長時間お使いになる場合は、バッテリ切れによるデータ消失などを防ぐため、必ず AC アダプタを取り付けてください。
  - ・電源ボタンを、4 秒以上押し続けるとパソコンの電源が切れてしまいます。データが失われる場合もありますので、ご注意ください。

1. 液晶ディスプレイを開きます。
   パソコン本体と液晶ディスプレイ上部の両方に手を添えて持ち上げます。

2. 電源ボタンを押します。
   電源ボタン、電源ランプ、バッテリ充電／残量ランプが点灯します。

POINT

- バッテリが満充電状態のときは、バッテリ充電／残量ランプは点灯しません。

■Windows が起動しない場合

次の点を確認してください。

●AC アダプタを接続している場合

AC アダプタが正しく接続されているか確認してください。

「AC アダプタを接続する」（→ P.39）

●バッテリで使う場合

バッテリの残量が充分にあるかを確認し、残量が少ない場合は AC アダプタを接続してください。バッテリ残量が少ないと電源を入れても Windows が起動しないことがあります。

「バッテリの充電状態や残量を確認する」（→ P.43）

以上の点を確認しても Windows が起動しない場合は、「トラブルシューティング」－「起動・終了時のトラブル」（→ P.75）をご覧ください。

電源を切る

ここでは Windows を終了する方法を説明しています。

必ず次の手順で Windows の終了処理を行ってください。Windows の終了処理を行うと、自動的に電源が切れます。

パソコンを使わないときは、Windows を終了せずに「省電力状態（スタンバイ／休止状態）」にしておくこともできます。

1 作業中のデータを保存して、ソフトウェアを終了します。

ソフトウェアで作業をしたまま、電源を切る操作をすると作業中のデータが消えたり、データ保存を確認するメッセージが表示されることがあります。誤操作の原因となるので、あらかじめデータを保存した後、ソフトウェアを終了してください。

2 「スタート」ボタン→「終了オプション」→「電源を切る」の順にクリックします。

Windows が終了し、パソコンの電源が切れます。また、電源ボタン、および状態表示 LED の電源ランプが消えます。

POINT

▶ フラットポイントやキーボードが操作できないなど、電源を切る操作ができないときは、「トラブルシューティング」－「Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない」（→ P.77）をご覧ください。

■パソコンを省電力状態にする／復帰させる

パソコンを使わないときは、電源を切らずに省電力状態にしておくことができます。省電力状態にしておくとパソコンを使うときにすぐに使い始めることができます。

省電力状態にはスタンバイと休止状態があります。ここでは、パソコンをスタンバイにする方法と、スタンバイから復帰（レジューム）する方法について説明します。

詳しくは、『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「スタンバイ／休止状態」をご覧ください。

POINT

▶ スタンバイとは、パソコンの電源を切らずに作業中のデータなどをメモリに保存して、パソコンを省電力状態にすることです。スタンバイ中は、メモリに保存したデータなどを保持するために少しずつ電力を消費しています。そのため、バッテリの残量がなくなると、パソコンの電源が切れ、作成中のデータが消えてしまう場合がありますので、ご注意ください。

▶ 次のような場合はいったんパソコンの電源を切り、再度電源を入れ直してください。

・パソコンを長期間使わないとき

・パソコンの動作が遅くなったり、正常に動作しなくなったとき

電源の切り方については、「電源を切る」（→ P.40）をご覧ください。

□パソコンをスタンバイにする

1 「スタート」ボタン→「終了オプション」→「スタンバイ」の順にクリックします。

パソコンがスタンバイの状態になります。スタンバイ中は、電源ボタン、および状態表示 LED の電源ランプが点滅します。

□スタンバイから復帰（レジューム）する

1 電源ボタンを押します。

パソコンがスタンバイから復帰（レジューム）します。電源ボタンは 4 秒以上押し続けないでください。パソコンの電源が切れてしまいます。

POINT

▶ スタンバイにした後は、必ず 10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。

ACアダプタを取り外す

パソコンを持ち運ぶときや、周辺機器の取り付け／取り外しをするとき、パソコンを長時間使わないときは、必ずACアダプタを取り外してください。

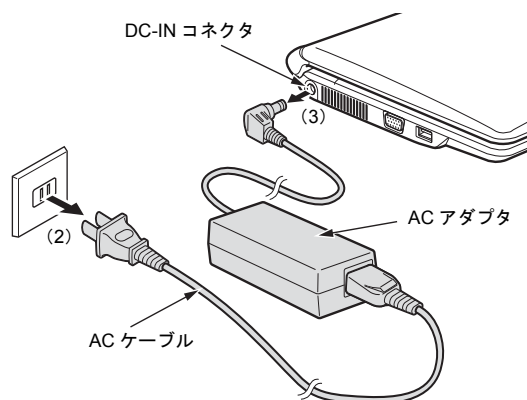
1 液晶ディスプレイを閉じます。

パソコン本体と液晶ディスプレイ上部の両方に手を添えて、静かに閉じてください。

重要

- パソコン本体と液晶ディスプレイ上部の両方に手を添えて閉じてください。液晶ディスプレイに強い力が加わると、液晶ディスプレイが故障する原因となることがあります。
- 液晶ディスプレイを閉じるときは、物などをはさまないようにしてください。

2 ACケーブルの電源プラグをコンセントから抜きます。

3 ACアダプタをDC-INコネクタから取り外します。

重要

- パソコンを使用しているときにACアダプタを取り外す場合、バッテリが充電されているか確認してください。特にご購入時にはバッテリが充電されていない場合があるので、ご注意ください。
- パソコンは電源を切った状態でも少量の電力を消費します。そのため、ACアダプタを取り外した状態ではバッテリの残量が少しずつ減っていきます。
  長時間ACアダプタを取り外していた場合は、お使いになる前にACアダプタを接続してから電源を入れてください。
  バッテリの残量を減らさないためには、ACアダプタを接続しておいてください。長期間パソコンを使用しない場合には内蔵バッテリパックを取り外してください。
- 内蔵バッテリパックを取り外していた場合は、お使いになる前に必ず内蔵バッテリを取り付けてから電源を入れてください。また、バッテリパックを取り付ける際には、内蔵バッテリパックに変形や破損のないことをご確認のうえ、取り付けを行ってください。

バッテリで使う

このパソコンは、ACアダプタを使わずにバッテリを使って動作させることができます。
ここでは、バッテリの充電方法やバッテリでパソコンを使う方法について説明しています。
また、バッテリ残量の確認方法や、バッテリをお使いになるうえで注意していただきたいことについても説明しています。

注意事項

内蔵バッテリパックを取り扱うときや、パソコンをバッテリで運用するときには、次のことにご注意ください。

⚠警告

- バッテリの交換などで、バッテリパックの取り付け／取り外しを行うときは、落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。また、落としたり、強い衝撃を与えたりしたバッテリパックは使用しないでください。
  感電や火災、バッテリパックの破裂の原因となります。

■バッテリパックを取り扱うときのご注意

- バッテリパックは分解しないでください。
  バッテリを分解して内部に触れると、感電・火災の原因となります。
- 長期間（約1ヶ月以上）パソコンをお使いにならない場合は、バッテリを取り外して涼しい場所に保管してください。パソコン本体に取り付けたまま長期間放置すると過放電となり、バッテリの寿命が短くなります。

■バッテリで運用するときのご注意

- パソコンの使用中にバッテリの残量がなくなると、作成中のデータが失われることがあります。バッテリの残量や状態に注意してお使いください。
- 電力を多く使用する作業や、長時間の作業を行う場合は、ACアダプタを接続してください。
- バッテリの残量を確認する方法については「バッテリの充電状態や残量を確認する」（→P.43）をご覧ください。

●バッテリの温度が上昇すると、パソコンの動作が遅くなる場合があります。その場合には、AC アダプタを接続してください。

■次のような場合は、バッテリ残量に注意して使用してください。

●無線 LAN などのワイヤレス機器を使用するとき
電波の発信に電力を消費します。

●BIOS セットアップを操作するとき

■次のような場合は、AC アダプタを接続してください。

●LAN を頻繁に使用するとき

●パソコンをご購入時の状態に戻すとき

●USB 機器を 2 つ以上同時に取り付けるとき

■バッテリの寿命について

●パソコン本体を長期間使用しない場合でも、バッテリは消耗し劣化します。月に一度はパソコン本体をバッテリで運用し、バッテリの状態を確認してください。

●高温環境に放置した場合、バッテリの消耗、劣化が進みます。

●バッテリは消耗品なので、長期間使用すると充電能力が低下します。その場合は「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.43）をご覧になり、新しいバッテリと交換してください。

●バッテリの稼働時間が極端に短くなってきたらバッテリの寿命です。寿命になったバッテリは、パソコン本体から取り外してください。取り付けたまま放置すると、感電や火災の原因となります。

バッテリを充電する

■バッテリを充電するときの注意

●バッテリ残量が 90% 以上の場合は、AC アダプタを取り付けても充電されません。バッテリ残量が 89% 以下になると充電されます。

●パソコンをバッテリで運用した直後は、バッテリの温度が上昇しているため、バッテリの保護機能が働いて充電が行われない場合があります（バッテリ充電／残量ランプが紫点滅します）。しばらくして、バッテリの温度が低下すると充電が開始されます。

●パソコンのご購入時、または 1ヶ月以上充電していない場合は、バッテリの残量が少なくなっています。バッテリを充電してからお使いください。

●充電したバッテリは、お使いにならなくても少しずつ自然放電していきます。パソコンをバッテリ運用するときは、直前に充電することをお勧めします。

●周囲の温度が高すぎたり低すぎたりすると、バッテリの充電能力は低下します。

●バッテリ稼働時間は環境温度に影響され、低温時はバッテリ稼働時間が短くなる場合があります。

■充電する

□充電を開始する

1 パソコンにバッテリがセットされていることを確認してください。

2 パソコンに AC アダプタを接続します。
充電が始まります。充電中は、状態表示 LED のバッテリ充電／残量ランプが点灯し、内蔵バッテリパックの充電状態が表示されます。

□充電の完了を確認する

状態表示 LED のバッテリ充電／残量ランプが青色に変わると完了です。
パソコンの電源が切れているときや省電力状態（スタンバイ、休止状態）のときは、充電が完了してしばらくすると、状態表示 LED が消灯します。

バッテリの充電状態や残量を確認する

■状態表示 LED のバッテリ充電／残量ランプについて

パソコンに AC アダプタが接続されている場合、状態表示 LED のバッテリ充電／残量ランプに、内蔵バッテリパックの充電状態が表示されます。また、AC アダプタが未接続の場合の、バッテリの残量や状態も確認することができます。

●AC アダプタ接続時

LED 表示	内蔵バッテリパックの充電状態／バッテリの状態説明
青色点灯	バッテリの充電終了（電源 ON 時）
オレンジ点灯	バッテリの充電中
紫点滅	バッテリ異常〔注〕
消灯	・バッテリの充電終了 （電源 OFF 時、スタンバイ、休止状態） ・バッテリが未接続

注　ただし、スタンバイ、休止状態のときは消灯します。

●AC アダプタ未接続時

LED 表示	内蔵バッテリパックの充電状態／バッテリの状態説明
オレンジ点滅	バッテリ残量 12% 以下のとき ※この状態を「LOW バッテリ状態」といいます。
紫点滅	バッテリ異常〔注〕
消灯	・バッテリ残量 100% ～ 13% のとき ・バッテリ残量が 0% のとき ・バッテリが未接続のとき

注　ただし、スタンバイ、休止状態のときは消灯します。

POINT

- バッテリ残量の表示は、バッテリ（リチウムイオン電池）の特性上、使用環境（温度条件やバッテリの充放電回数など）により、実際のバッテリ残量とは異なる場合があります。

■LOW バッテリ状態になったら

バッテリが LOW バッテリ状態になると、状態表示 LED のバッテリ充電／残量ランプがオレンジ点滅します。速やかに AC アダプタを接続するか、バッテリ残量の多いバッテリに交換してください。バッテリを交換する場合は、作成中のデータを保存し、動作中のソフトウェアを終了後、パソコンの電源を切ってから交換してください。また、AC アダプタや交換できるバッテリがない場合も、作成中のデータを保存し、動作中のソフトウェアを終了後、パソコンの電源を切ってください。

ご購入時の状態では、バッテリ残量が約 4% になると、自動的にスタンバイになるように設定されています。

■バッテリ充電時間と稼働時間

バッテリの充電時間と稼働時間については、「仕様一覧」－「本体仕様」（→ P.86）をご覧ください。

内蔵バッテリパックを交換する

内蔵バッテリパックは、次の手順で交換してください。

■お使いになれる内蔵バッテリパック

バッテリを長期間使用すると充電する能力が低下するため、バッテリ稼働時間が短くなります。稼働時間が極端に短くなってきたら、新しいバッテリに交換してください。

このパソコンには、次のバッテリパックが取り付けられます。

品名：内蔵バッテリパック
型名：FMVNBP173
品名：内蔵バッテリパック（L）
型名：FMVNBP174

詳しくは、ご購入元にお問い合わせください。

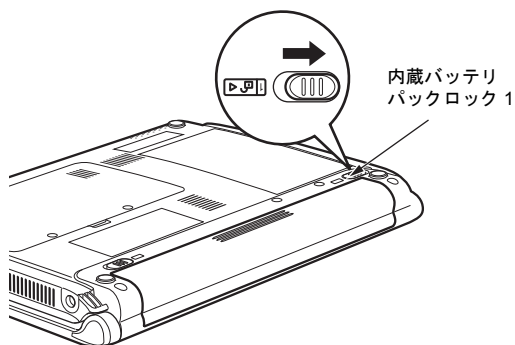
■交換する

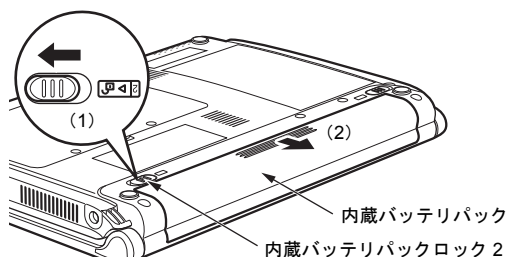
⚠ 警告

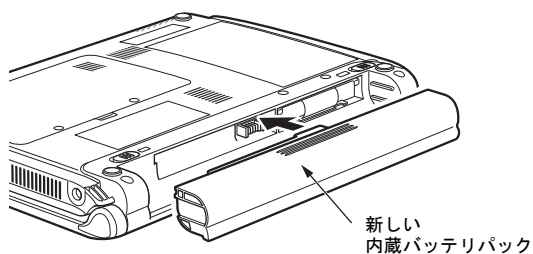
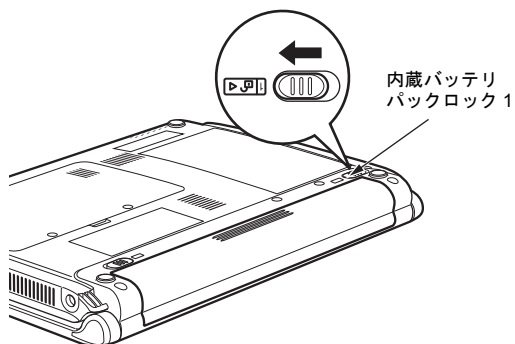
- バッテリパックの交換を行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。また、パソコン本体やバッテリパックのコネクタに触れないでください。
感電や故障の原因となります。

1 パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外します。

2 液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。

3 内蔵バッテリパックロック１を矢印の方向にスライドさせ、ロックを外します。

4 内蔵バッテリパックを取り外します。

(1) 内蔵バッテリパックロック 2 を矢印の方向にスライドさせながら、(2) 内蔵バッテリパックを取り外します。

5 新しい内蔵バッテリパックを取り付けます。

新しい内蔵バッテリパックを差し込み、しっかりはめこみます。

6 内蔵バッテリパックロック１を矢印の方向にスライドさせ、内蔵バッテリパックをロックします。

音量を調節する

スピーカーやヘッドホンの音量は、キーボードなどで調節できます。

重 要

- 音量はスピーカーから聞こえる音がひずまない範囲に設定・調整してください。

キーボードで音量を調節する

調節中は、画面下部に音量を示すインジケータが表示されます。

●音量を小さくする場合

【Fn】キーを押しながら【F8】キーを押す

●音量を大きくする場合

【Fn】キーを押しながら【F9】キーを押す

キーボードで音を消す

【Fn】キーを押しながら【F3】キーを押します。

画面に「Mute」と表示され、画面右下の通知領域に が表示されます。

もう一度【Fn】キーを押しながら【F3】キーを押すと、画面下部に現在の音量を示すインジケータが表示され、音が出るようになります。

POINT

- 画面右下の通知領域にある での調節方法は、『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「音量の設定」をご覧ください。

液晶ディスプレイの明るさを調節する

キーボードで、画面の明るさを 8 段階に変更できます。

調節中は、画面下部に明るさを示すインジケータが表示されます。

●明るくする場合

【Fn】キーを押しながら【F7】キーを押す

●暗くする場合

【Fn】キーを押しながら【F6】キーを押す

明るさの設定について

●パソコンを再起動したり、スタンバイから復帰したり、AC アダプタの接続や取り外しを行った直後は、キーボードで明るさを変更しても有効にならないことがあります。このような場合は、しばらく時間をおいてから変更してください。

●ご購入時は、AC　アダプタを接続している場合は明るく、バッテリで使っている場合は少し暗くなるように設定されています。

●明るさの設定は、AC アダプタを接続している場合と、バッテリで使っている場合とで別々に変更できます。

メモリーカードを使う

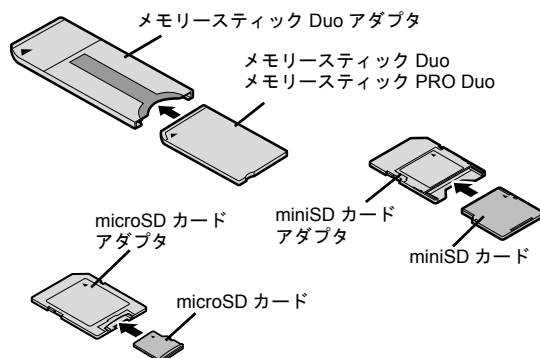
ここでは、このパソコンでお使いになれるメモリーカードの種類や、メモリーカードの差し込み方法、および取り出し方法について説明しています。

SD メモリーカードやメモリースティックを総称して、「メモリーカード」と呼んでいます。

メモリーカードをお使いになるうえでのご注意

メモリーカードをお使いになるときは、次の点にご注意ください。

●メモリースティック Duo、メモリースティック PRO Duo または miniSD カードや microSD カードをお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ずアダプタに差し込んでからお使いください。そのまま挿入すると、メモリーカードが取り出せなくなります。

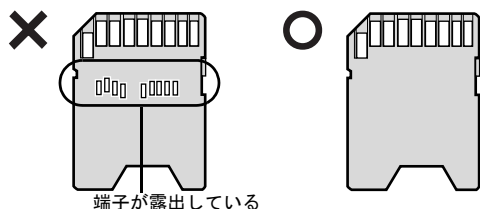
また、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアダプタにセットしたまま取り出してください。アダプタだけをダイレクト・メモリースロットに残すと、故障の原因となります。

●メモリースティック Duo アダプタは、塗装部分がはがれた状態では使用しないでください。

ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、メモリースティック Duo またはメモリースティック PRO Duo を認識しなかったり、故障の原因となります。

また、はがれた塗装部分などにテープなどを貼って使用することもしないでください。アダプタが取り出せなくなる場合があります。

●端子が露出している miniSD カードアダプタは使用できません。

ダイレクト・メモリースロット内部の端子が接触し、故障の原因となる場合があります。

miniSD カードのアダプタは、裏面中央部から端子が露出していない製品をご利用ください。

使えるメモリーカード

ダイレクト・メモリースロットは、デジタルカメラなどに使われているメモリーカードに直接データを読み書きするためのスロットです。
ダイレクト・メモリースロットが対応しているメモリーカードは次のとおりです。
ただし、すべてのメモリーカードの動作を保証するものではありません。

MEMORY STICK〔注 1〕	・メモリースティック ・メモリースティック（メモリーセレクト機能付） ・メモリースティック Duo ・メモリースティック PRO ・メモリースティック PRO Duo
SD / SDHC〔注 2〕	・SD メモリーカード ・miniSD カード ・microSD カード ・SDHC カード

注 1 ・マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。
・パラレルインターフェースを利用した高速データ転送に対応しております。

注 2 ・著作権保護機能（CPRM）に対応していません。
・マルチメディアカード、セキュアマルチメディアカードには対応していません。
・SDIO カードには対応していません。
・2GB を超える SD メモリーカードには対応していません。2GB を超える場合は、SDHC カードをお使いください。

メモリーカードを差し込む／取り出す

⚠注意

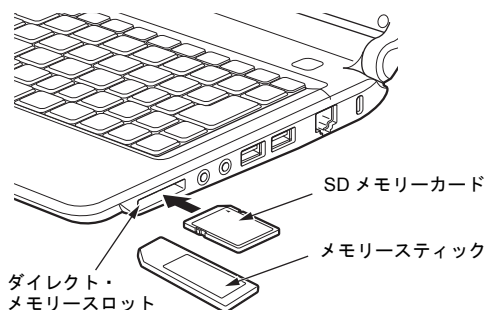
- メモリーカードを差し込むときまたは取り出すときは、ダイレクト・メモリースロットに指などを入れないでください。
けがの原因となることがあります。

重要

- メモリーカードや記録されているデータの取り扱いについては、メモリーカードや周辺機器のマニュアルをご覧ください。
- メモリーカードをデジタルカメラなどで使っている場合は、お使いの機器でフォーマットしてください。このパソコンでフォーマットすると、デジタルカメラなどでメモリーカードが使えなくなります。デジタルカメラなどでのフォーマットの方法については、お使いの機器のマニュアルをご覧ください。

■メモリーカードを差し込む

1 パソコン本体右側面のダイレクト・メモリースロットにメモリーカードを差し込みます。

メモリーカードの製品名を上にして、ダイレクト・メモリースロットにしっかり差し込みます。

POINT

- SD メモリーカード、メモリースティックを同時に使用することはできません。

■メモリーカードを取り出す

1 画面右下の通知領域にある「ハードウェアの安全な取り外し」をクリックします。

2 「[メモリーカード] を安全に取り外します」をクリックします。

「[メモリーカード]」にはお使いのメモリーカードの名称が表示されます。

3 「ハードウェアの取り外し」というメッセージが表示されたら、メモリーカードをパソコンから取り出します。

メモリーカードを一度押すと、少し飛び出します。
飛び出したメモリーカードを引き抜きます。

メモリーカードについては、『製品ガイド』(PDF) ―「取り扱い」―「メモリーカード」もあわせてご覧ください。

Web カメラを使う

インターネットに接続した環境で、Web カメラと「Windows Live Messenger」というソフトウェアを使って、テレビ電話を楽しんだり、友人とリアルタイムでメッセージの交換をしたりすることができます。

POINT

- Web カメラを使用する場合は、部屋を明るくして使用してください。

「Windows Live Messenger」の起動方法と使い方

■起動方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Windows Live」→「Windows Live Messenger」の順にクリックします。

■使い方

インターネットに接続した環境で、ウィンドウ右上の「ヘルプ」→「ヘルプトピックの表示」の順にクリックして、「Windows Live Messenger」のヘルプをご覧ください。

POINT

- 「Windows Live Messenger」のご利用には、Windows Live ID の取得が必要です。
- 「Windows Live Messenger」をアンインストールした後、再度インストールするには「Windows Live Messenger」のホームページ(http://messenger.live.jp/)よりソフトウェアをダウンロードする必要があります。

お問い合わせ先については、『サポート＆サービスのご案内』―「困ったとき」―「サポート窓口に相談する」―「ソフトウェアのお問い合わせ先」をご覧ください。

周辺機器をお使いになる場合

ここでは、周辺機器をお使いになる場合に知っておいていただきたいことについて説明します。

⚠警告

- 周辺機器の取り付け／取り外しを行うときは、このパソコンや周辺機器の電源を切った状態で行ってください。
ACアダプタや電源コードがコンセントにつながっている場合は、それらをコンセントから抜いてください。感電の原因となります。

- 周辺機器のケーブルは、このマニュアルをよく読み、正しく接続してください。
誤った接続状態でお使いになると、感電・火災の原因となります。また、パソコンおよび周辺機器が故障する原因となります。

周辺機器とは？

USB マウス、プリンタ、デジタルカメラ、USB メモリなどの装置のことです。パソコンの各種コネクタに接続したり、パソコン本体内部に取り付けたりすることができます。

周辺機器を取り付けると

メモリを取り付けてパソコンの処理能力を上げたり、プリンタを接続して印刷したりなど、パソコンでできることがさらに広がります。
また、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンに取り込んで、E メールに添付したりできます。
周辺機器の接続については、お使いになる周辺機器のマニュアルをご覧ください。

周辺機器の取り扱い上の注意

周辺機器を接続するときは、次のことに注意してください。

●周辺機器によっては設定作業が必要です

周辺機器の中には、接続するだけでは正しく使えないものがあります。このような機器は、接続した後で設定作業を行う必要があります。例えば、プリンタを使うには、接続した後に「ドライバのインストール」という作業が必要です。周辺機器の接続は、周辺機器のマニュアルをよくご覧になり、正しく行ってください。

●ドライバなどがCD/DVDやフロッピーディスクで添付されている場合

周辺機器によっては、添付のドライバなどが CD/DVD やフロッピーディスクで提供されているものがあります。
このパソコンにはCD/DVDドライブやフロッピーディスクドライブ（FDD）は搭載されておりません。別売の DVD-ROM & CD-R/RW ドライブユニットやスーパーマルチドライブユニット、FDD ユニットをご購入になり、接続したうえでドライバをインストールしてください。

●マニュアルをご覧ください

ケーブル類を接続する場合は、間違いがないようにしてください。
誤った接続状態で使用すると、パソコンや周辺機器が故障する原因となることがあります。
周辺機器のマニュアルも必ずご覧ください。

●純正品をお使いください

弊社純正の周辺機器については、販売店にお問い合わせになるか、富士通ショッピングサイト「WEB MART」（http://www.fujitsu-webmart.com/）をご覧ください。
他社製品につきましては、このパソコンで正しく動作するかどうか、保証いたしかねます。他社製品をお使いになる場合は、製造元のメーカーにお問い合わせくださいますようお願いいたします。

●ACPI に対応した周辺機器をお使いください

このパソコンは ACPI モードに設定されています。ACPI モードに対応していない周辺機器をお使いの場合、省電力機能などが正しく動作しない場合があります。

●周辺機器の電源について

周辺機器の電源はパソコンの電源を入れる前に入れるものが一般的ですが、パソコンより後に電源を入れるものもあります。周辺機器のマニュアルをご覧ください。

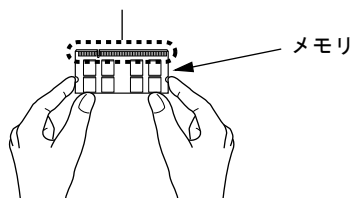
重要

- 周辺機器を取り付けるときの注意
  - 周辺機器を接続する場合は、コネクタの向きを確認し、まっすぐ接続してください。
  - 複数の周辺機器を接続する場合は、接続と設定を 1 つずつ行ってください。

メモリの交換

メモリ容量を増やすことによって、パソコンの処理速度などを上げることができます。
ここでは、ご購入時に取り付けられているメモリの交換方法について説明します。

メモリの取り扱い上の注意事項

- メモリは、静電気に対して非常に弱い部品で構成されており、人体にたまった静電気により破壊される場合があります。メモリを取り扱う前に、一度金属質のものに手を触れて、静電気を放電してください。
- メモリは図のように両手でふちを持ってください。金色の線が入っている部分（端子）には、絶対に手を触れないでください。指の油分などが付着すると、接触不良の原因となることがあります。

- 取り外したネジなどをパソコン本体内部に落とさないでください。故障の原因となることがあります。
- 操作に必要な箇所以外には手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリは何度も抜き差ししないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。

必要なものを用意する

■このパソコンでサポートしているメモリ

このパソコンでサポートしているメモリをお使いください。

- FMVNM2GJ6（2GB）

■プラスドライバー（1 番）

ネジに合ったプラスドライバー 1 番をお使いください。
他のドライバーを使うと、ネジの頭をつぶすおそれがあるので使用しないでください。

メモリを交換する

⚠ 警告

- メモリの取り付け／取り外しを行う場合は、必ずパソコン本体の電源を切り、AC アダプタや周辺機器を取り外してください。省電力状態（スタンバイ、休止状態）では、取り付け／取り外しを行わないでください。感電の原因となります。
また、データが消失したり、パソコン本体やメモリが故障する原因となることがあります。

- 取り外したカバー、キャップ、ネジ、電池などの部品は、小さなお子様の手の届かない所に置いてください。
誤って飲み込むと窒息の原因となります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師に相談してください。

⚠ 注意

- メモリの取り付け位置のすぐそばに高温になる部分があります。
メモリの取り付け／取り外しを行うときは、パソコンの電源を切って、しばらくしてから
行ってください。やけどの原因になることがあります。

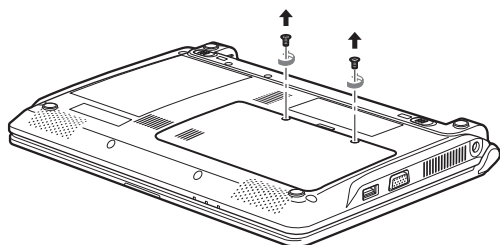
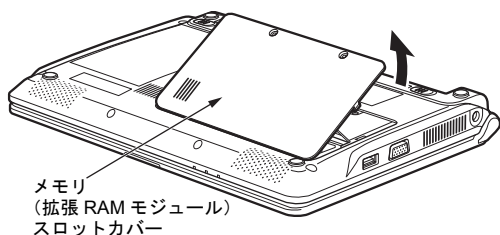
メモリは、パソコン本体下面のメモリスロットに取り付けます。

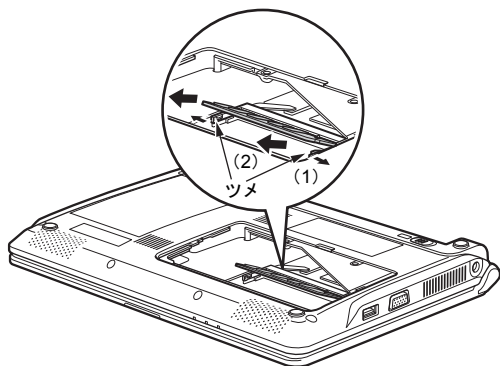
1 **パソコンの電源を切り、AC アダプタを取り外します。**
電源の切り方については、「電源を切る」（→ P.40）をご覧ください。

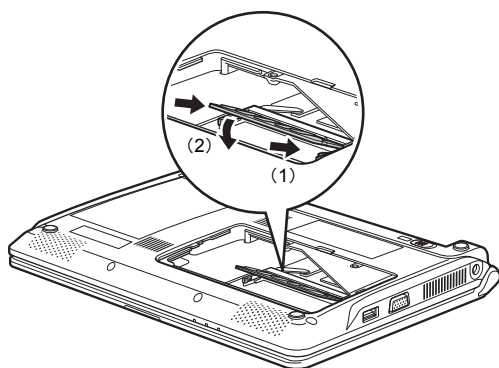
2 **液晶ディスプレイを閉じ、パソコン本体を裏返します。**
液晶ディスプレイを閉じる場合は、物などをはさまないようにして静かに閉じてください。

3 **内蔵バッテリパックを取り外します。**
内蔵バッテリパックの取り外しについては、「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.43）の手順 1 ～ 4 をご覧ください。

4 次の手順でメモリ（拡張 RAM モジュール）スロットカバーを取り外します。

1. パソコン本体下面にあるネジ（2ヶ所）を外します。

2. メモリ（拡張 RAM モジュール）スロットカバーのネジ側を持ち、少し強めに上へ持ち上げ、取り外します。

5 交換したいメモリを取り外します。

1. メモリを押さえている両側のツメを左右に開くと、メモリが少し斜めに持ち上がります。
2. 両手でメモリのふちを持って斜め上の方向に引っ張り、スロットから取り外します。

6 次の手順でメモリを取り付けます。

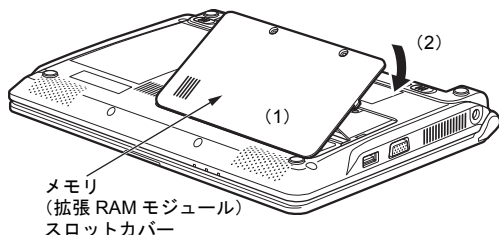
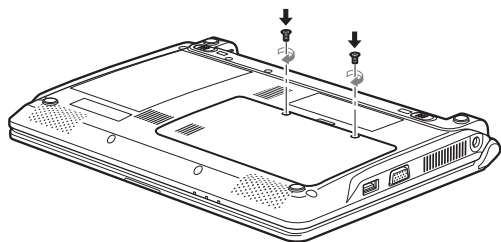
1. 両手でメモリのふちを持って、メモリの欠けている部分と、コネクタの突起を合わせ、斜め上からしっかり差し込みます。
2. パチンと音がするまで、下に倒します。

メモリを押さえている両側のツメが、きちんとはまったことを確認してください。

重 要

- 他のスロットには、手を触れないでください。故障の原因となることがあります。
- メモリの取り付けを行う場合は、端子やICなどに触れないようメモリのふちを持ってください。
- メモリの表面の端子や IC 部分に触れて押さないでください。また、メモリに強い力をかけないようにしてください。
- メモリがうまく取り付けられないときは、無理にメモリを取り付けず、いったんメモリを抜いてから、もう一度メモリを取り付けてください。無理にメモリを取り付けようとすると、メモリやコネクタが破損する原因となります。

7 次の手順でメモリ（拡張 RAM モジュール）スロットカバーを取り付けます。

手順 4 で外したメモリ（拡張 RAM モジュール）スロットカバーを取り付けます。

1. メモリ（拡張 RAM モジュール）スロットカバーのツメを、パソコン本体のツメ穴に合わせます。
2. メモリ（拡張 RAM モジュール）スロットカバーのネジ側を、パチンと音がするまで押します。

3. メモリ（拡張 RAM モジュール）スロットカバーを、ネジで固定します。

8 **内蔵バッテリパックを取り付けます。**

内蔵バッテリパックの取り付けについては、「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.43）の手順 5 ～ 6 をご覧ください。

メモリ容量を確認する

メモリを取り付けた後、増やしたメモリが使える状態になっているかを確認してください。
必ず、カバーを取り付けてから確認作業を行ってください。

重 要

- **メモリが正しく取り付けられていないと、電源を入れたときに「拡張メモリエラー」または「メモリエラーです。」というメッセージや英語のメッセージが表示されたり、画面に何も表示されなかったりすることがあります。その場合は電源ボタンを 4 秒以上押してパソコンの電源を切り、もう一度メモリを取り付けてください。**
- **このパソコンは、メインメモリの一部をビデオメモリやその他の機能で使用しています。そのため、起動時の自己診断（POST）時や Windows の画面に表示されるメモリの容量は、取り付けたメモリの総容量より少なくなります。**

1 **パソコンの電源を入れます。**

2 **「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。**

「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。

3 **「パフォーマンスとメンテナンス」→「システム」の順にクリックします。**

「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。

4 **丸で囲んだ部分の数値が、増やしたメモリの分だけ増えているかどうかを確認します。**

メモリ容量の数値が正しくない場合は、メモリがきちんと取り付けられているかどうかを確認してください。

5 **ウィンドウの右上にある ☒ をクリックして、ウィンドウを閉じます。**

3. 大切なデータを保存する（バックアップ）

バックアップとは

万一なんらかの原因で、Windows がうまく起動しなくなった場合や、データを誤って紛失してしまった場合に備え、大切なデータは予備を保存しておくことをお勧めします。データの予備を保存しておくことを「バックアップ」といいます。

バックアップをしないとどうなるのか

パソコンには次のようないろいろなデータが保存できます。

●デジタルカメラの写真
●文章、イラスト、映像
●知人とのメール
●アドレス帳に登録したメールアドレス
●「Internet Explorer」のお気に入り（ホームページのアドレス集）

しかし、次のような状態になると、保存したデータが元に戻らない場合があります。

●ファイルが壊れた
●誤って消去した
●ハードディスクが壊れた
●Windows が起動しなくなった
●ご購入時の状態に戻した

いつ、このような状態になるかはわかりません。
こうなったときに被害を最小限にとどめるためにも、大切なデータは日ごろから定期的にバックアップする習慣をつけましょう。

このパソコンのバックアップ機能

このパソコンには、2 種類のバックアップ機能があります。
2 つの機能を使いこなして、トラブルに備えましょう。
ここでは、それぞれの特長を説明します。

■マイリカバリ

「マイリカバリ」は、ハードディスクの C ドライブをまるごとバックアップします。
パソコンにトラブルが発生したときに、C ドライブを、まるごとバックアップしたときの状態に戻すことができます。
パソコンのセットアップが完了した後、およびインターネットや E メールなどパソコンの設定を変更した後に「マイリカバリ」をお使いになることをお勧めします。
「マイリカバリ」の使い方については、「まるごとバックアップするには「マイリカバリ」」（→ P.54）をご覧ください。

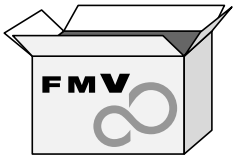
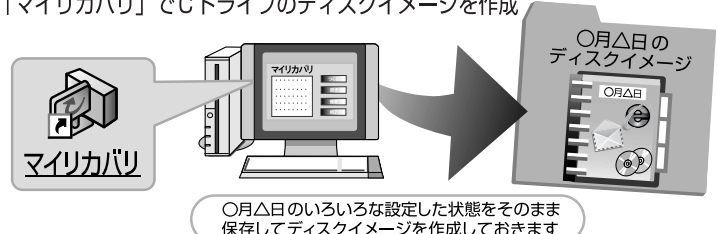
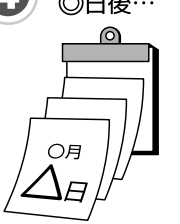
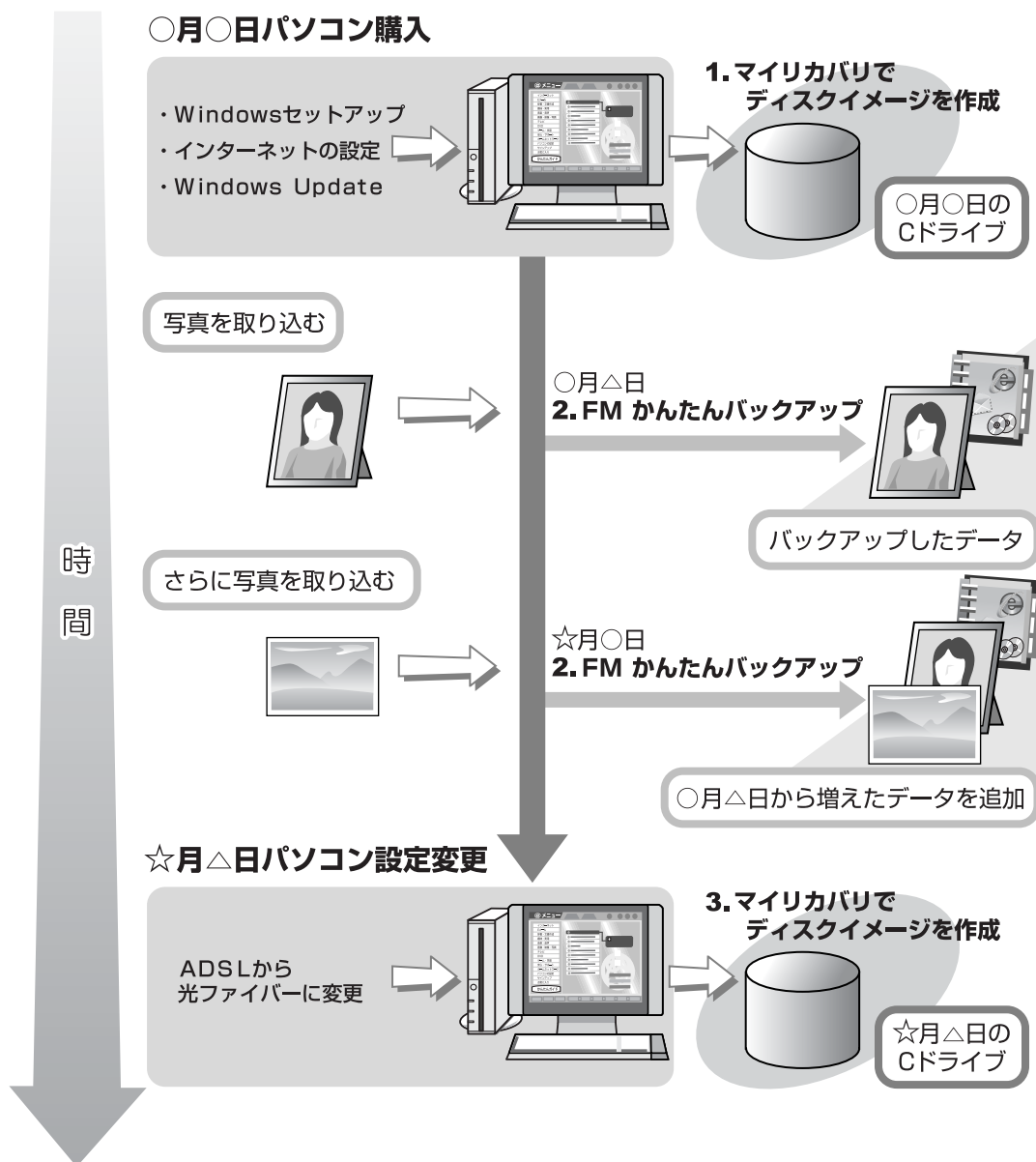
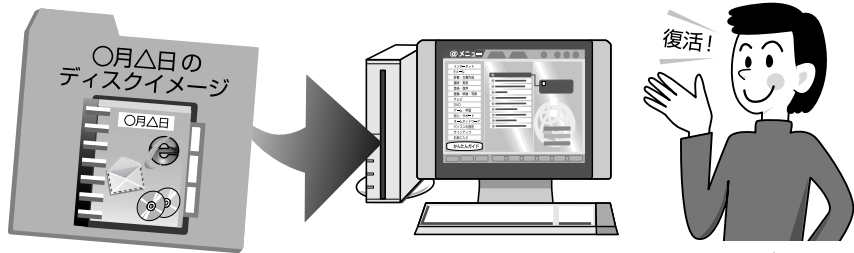
■FM かんたんバックアップ

「FM かんたんバックアップ」は、必要なデータだけをまとめて簡単にバックアップします。
ファイルを選んでバックアップする方法や、ソフトウェアのバックアップ機能を使う方法では、ファイルやソフトウェアごとに何度も同じような操作をしなければいけません。
「FM かんたんバックアップ」を使えば、一度の操作でデータをまとめてバックアップできます。
また、2 回目以降は差分をバックアップするので、短時間でバックアップできます。
日々更新されるデータは「FM かんたんバックアップ」を使って定期的にバックアップすることをお勧めします。
「FM かんたんバックアップ」の使い方については、「必要なものだけバックアップするには「FM かんたんバックアップ」」（→ P.59）をご覧ください。

お勧めの使い方

Windows のセットアップ、各種設定が終わったら、次のようにバックアップすることをお勧めします。

1 「マイリカバリ」を使ってディスクイメージを作成し、Cドライブをまるごとバックアップします。

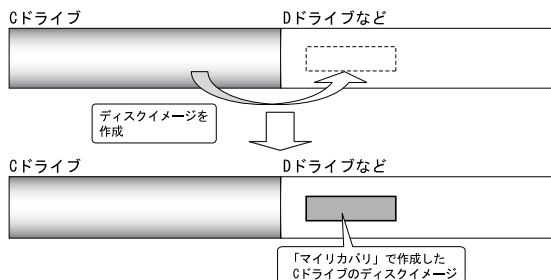
2 日常的なバックアップには、「FM かんたんバックアップ」を使います。
初回のバックアップには、時間がかかることがありますが、2 回目からは差分をバックアップしてデータを上書きするので、短時間でバックアップできます。
毎日または週に 1 回など定期的にバックアップすることをお勧めします。

3 ソフトウェアを追加した後、インターネットの設定などパソコンの設定を変更した後に、もう一度「マイリカバリ」を使ってCドライブをまるごとバックアップします。

まるごとバックアップするには「マイリカバリ」

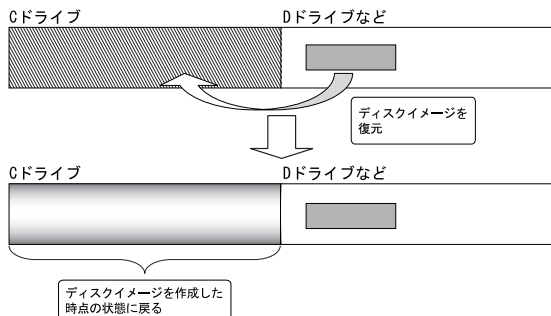
「マイリカバリ」とは

いざというときに備えて、「マイリカバリ」でCドライブのディスクイメージを作成しておくと安心です。
ここでは、「マイリカバリ」でディスクイメージを作成する方法を説明します。

「マイリカバリ」でできること

■ディスクイメージを作成する

ディスクイメージとは、ハードディスクに格納されたあらゆる情報を1つにまとめたファイルです。
「マイリカバリ」では、Cドライブのデータをまるごとディスクイメージとして D ドライブなど C ドライブ以外のドライブに保存します。C ドライブをまるごと D ドライブなどにバックアップしておくようなものと考えれば良いでしょう。

■ディスクイメージを復元する

「マイリカバリ」で作った C ドライブのディスクイメージを復元して、C ドライブを前の状態に戻すことができます。

「マイリカバリ」をお使いになるうえでの注意事項

■パソコンに不具合が起こっている場合

ディスクイメージを作成しないでください。
ディスクイメージを作成すると、パソコンのCドライブをそのままの状態で保存するため、不具合も保存されてしまい、復元時に不具合も復元してしまいます。パソコンに不具合が起こっているときはディスクイメージを作成しないでください。
ウイルスに感染したときは、ウイルスによっては、作成したファイルやWindowsの設定が変更されてしまう場合があります。セキュリティ対策ソフトを使い、ウイルスを駆除してから、バックアップしてください。

■すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません

「マイリカバリ」は、すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません。また、著作権保護された映像や音楽などはバックアップ／復元できない場合があります。

■AC アダプタを使用してください

「マイリカバリ」でバックアップするときは、必ず AC アダプタを使用し、コンセントから電源を確保してください。

■次の場合は、ディスクイメージを作成した後にデータをコピーしてください

- ●ハードディスクの領域を変更する場合
- ●故障したときに備えてディスクイメージを作成する場合

ハードディスクの領域を変更すると、ハードディスク全体のファイルが削除されてしまうため、D ドライブに作成したディスクイメージも削除されます。
また、パソコンが故障したときは、D ドライブにバックアップしたデータも含め、ハードディスクのすべてのデータが使えなくなる可能性があります。
このようなときに備え、作成したディスクイメージをこのパソコンのハードディスク以外にコピーしてください。

■市販のソフトウェアや Windows の「ディスクの管理」機能などでハードディスクの領域を変更した場合

ディスクイメージを復元したり、ディスクイメージを D ドライブに作成したりすることができません。

■D ドライブを拡張領域に設定しないでください

D ドライブを拡張領域に設定すると、「マイリカバリ」はお使いになれません。

■外付けハードディスクをお使いになる場合

外付けハードディスクにディスクイメージを保存する場合、USB 接続の外付けハードディスクを用意してください。USB 接続以外の接続方式の外付けハードディスクでは正常に動作しない場合があります。

■外付けハードディスクなどの外部記憶装置は取り外してください

外付けハードディスクなどの外部記憶装置を接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。

- ●外付けハードディスクを使用するときは、「マイリカバリ」起動後に「ディスクイメージの保存先が外付けハードディスクの場合は、ここで接続してください」と表示されてから接続してください。
- ●その他の外部記憶装置は、必ずパソコンから取り外した状態で操作してください。

■保存先を別のパソコンなどネットワーク上のドライブにする場合

別のパソコンなどネットワーク上のドライブに、ディスクイメージを保存できます。この場合、次の点にご注意ください。

●ネットワークの知識が必要です。

●あらかじめネットワークに接続した環境で操作を始めてください。

●ディスクイメージ作成中は、すべてのパソコンのセキュリティ対策ソフトを無効にしてください。ディスクイメージ作成後、セキュリティ対策ソフトを有効に戻してください。セキュリティ対策ソフトを無効／有効にする方法については、お使いのセキュリティソフトのマニュアルやヘルプをご覧ください。

●セキュリティ対策ソフトを無効にして実行するため、保存先のパソコンとはクロスケーブルをお使いになり直接接続することを強くお勧めします。

ディスクイメージを作成する

重要

- 必ず AC アダプタを使用し、コンセントから電源を確保してください。
- 外付けハードディスクなどの外部記憶装置がパソコン本体に接続されている場合は、必ず取り外してください。外部記憶装置を接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
  - ・外付けハードディスクを使用するときは、「マイリカバリ」起動後に「ディスクイメージの保存先が外付けハードディスクの場合は、ここで接続してください」と表示されてから接続してください。
  - ・その他の外部記憶装置は、必ずパソコンから取り外した状態で操作してください。

1 外付けハードディスクなどの外部記憶装置を接続している場合は、取り外します。

2「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「マイリカバリ」→「マイリカバリ」の順にクリックします。

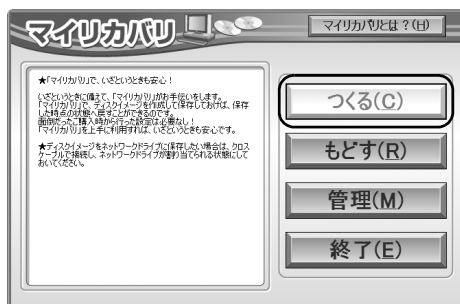
POINT

- 「マイリカバリ」は「FMV サポートナビ」からも起動できます。
  1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV サポートナビ」の順にクリックします。
  2. 「日頃のメンテナンス」タブをクリックします。
  3. （マイリカバリ）をクリックして選択し、「実行」をクリックします。

「マイリカバリ」の概要を説明する「マイリカバリとは」ウィンドウが表示されます。

3「閉じる」をクリックします。

「マイリカバリ」が表示されます。

4「つくる」をクリックします。

5 コメント入力域に、作成するディスクイメージに付けるコメントを入力し、「次へ」をクリックします。

いつの時点のディスクイメージかがわかるように、コメントを入力してください。

例）・セットアップ直後
　　・光ファイバーに設定変更

など

6「OK」をクリックします。

パソコンが再起動します。

「ディスクイメージの作成」という画面が表示されるまで、しばらくお待ちください。

7 ディスクイメージの保存先を選びます。

■ D ドライブに保存する場合

「D ドライブにつくる」をクリックします。

■ USB 接続の外付けハードディスクに保存する場合

1. パソコンの USB コネクタに外付けハードディスクを接続し、「保存先選択」をクリックします。
2. 保存先の外付けハードディスクドライブを選択し、「次へ」をクリックします。

■ ネットワーク上のドライブに保存する場合

1. 「保存先選択」をクリックします。
2. 「ネットワークの割り当て」をクリックします。
3. ドライブとフォルダを選択し、「OK」をクリックします。
   ユーザー名とパスワードを確認する画面が表示されたら、ユーザー名が「（ネットワーク上のコンピュータ名）¥guest」になっていることを確認し、パスワードには何も入力しないで、「OK」をクリックします。

8「次へ」をクリックします。

画面例は、D ドライブに保存する場合です。

9「実行」をクリックします。

ディスクイメージを作成し始めます。しばらくお待ちください。

POINT

▶ 終了までの時間表示が増えることがあります。
これは、途中で終了時間を計算し直しているためです。約30%終了するまでは、残り時間が正確に表示されない場合がありますのでご了承ください。

10「ディスクイメージを作成しました。」と表示されたら、「完了」をクリックします。

パソコンが再起動します。

これで、「マイリカバリ」により、ディスクイメージが指定したドライブに作成されました。

ディスクイメージを復元する

ディスクイメージを復元する方法については、「リカバリ（初期化）」－「「マイリカバリ」を使うリカバリ」（→ P.65）をご覧ください。

ディスクイメージを他のドライブにコピーする

D ドライブなどに保存されているディスクイメージを、C ドライブ以外のドライブにコピーできます。

重要

▶ 必ず AC アダプタを使用し、コンセントから電源を確保してください。

POINT

▶ ネットワーク上のドライブにコピーする場合、次の点にご注意ください。
- あらかじめネットワークに接続した環境で操作を始めてください。
  ネットワークドライブの割り当てをしてください。
- ディスクイメージをコピー中は、すべてのパソコンのセキュリティ対策ソフトを無効にしてください。
  ディスクイメージコピー後は、セキュリティ対策ソフトを有効に戻してください。
  セキュリティ対策ソフトを無効や有効にする方法については、お使いのセキュリティ対策ソフトのマニュアルやヘルプをご覧ください。
- セキュリティ対策ソフトを無効にして実行するため、コピー先のパソコンとはクロスケーブルをお使いになり直接接続することを強くお勧めします。

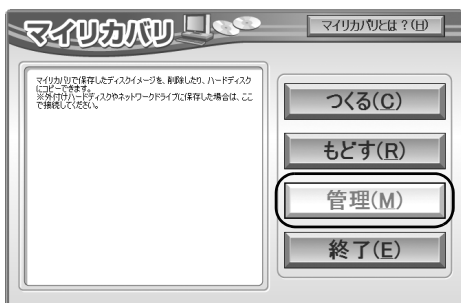
1「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「マイリカバリ」→「マイリカバリ」の順にクリックします。

「マイリカバリ」の概要を説明する「マイリカバリとは」ウィンドウが表示されます。

POINT

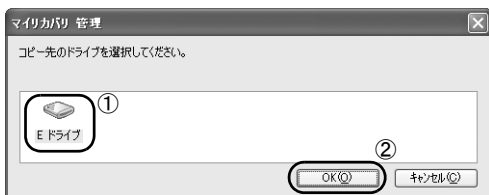
▶「マイリカバリ」は「FMV サポートナビ」からも起動できます
1. 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV サポートナビ」の順にクリックします。
2. 「日頃のメンテナンス」タブをクリックします。
3. （マイリカバリ）をクリックして選択し、「実行」をクリックします。

2「閉じる」をクリックします。

「マイリカバリ」が表示されます。

3「管理」をクリックします。

4 次の画面の操作をします。

①. コピーするディスクイメージを選択します。
②. 「コピー」をクリックします。

5 次の画面の操作をします。

①. コピー先のドライブを選択します。
②. 「OK」をクリックします。

6「OK」をクリックします。
ディスクイメージのコピーが始まります。完了するまでしばらくお待ちください。
書き込みが完了すると、「ディスクイメージのコピーが終了しました」というメッセージが表示されます。

7「OK」をクリックします。

8「マイリカバリ管理」ウィンドウで、「戻る」をクリックします。

9「マイリカバリ」ウィンドウで、「終了」をクリックします。

ディスクイメージを削除する

不要になったディスクイメージを削除する方法を説明します。

POINT

- ネットワーク上のドライブに保存したディスクイメージを削除する場合、次の点にご注意ください。
  - ・あらかじめネットワークに接続した環境で操作を始めてください。
    また、ネットワークドライブの割り当てをしてください。
  - ・ディスクイメージ削除中は、すべてのパソコンのセキュリティ対策ソフトを無効にしてください。ディスクイメージ削除後は、セキュリティ対策ソフトを有効に戻してください。
    セキュリティ対策ソフトを無効／有効にする方法については、お使いのセキュリティソフトのマニュアルやヘルプをご覧ください。
  - ・セキュリティ対策ソフトを無効にして実行するため、保存先のパソコンとはクロスケーブルをお使いになり直接接続することを強くお勧めします。

1「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「マイリカバリ」→「マイリカバリ」の順にクリックします。
「マイリカバリ」の概要を説明する「マイリカバリとは」ウィンドウが表示されます。

2「閉じる」をクリックします。
「マイリカバリ」が表示されます。

3「管理」をクリックします。

4 削除するディスクイメージを選択し、「削除」をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

5「はい」をクリックします。

ディスクイメージが削除されます。

6「マイリカバリ管理」ウィンドウで、「戻る」をクリックします。

7「マイリカバリ」ウィンドウで、「終了」をクリックします。

これで、「マイリカバリ」で作成したディスクイメージの削除が完了しました。

必要なものだけバックアップするには「FM かんたんバックアップ」

「FM かんたんバックアップ」を使うと、お客様が作成したファイルなどのバックアップや復元がまとめて簡単にできます。

ここでは、「FM かんたんバックアップ」を使って、D ドライブにデータをバックアップする方法を説明します。

「FM かんたんバックアップ」をお使いになるうえでの注意事項

「FM かんたんバックアップ」をお使いになる前に、次の注意事項をご覧ください。

■ウイルスに感染したときは、「FM かんたんバックアップ」でバックアップしないでください

ウイルスに感染したときは、ウイルスによっては、作成したファイルやWindowsの設定が変更されてしまう場合があります。セキュリティ対策ソフトを使い、ウイルスを駆除してから、バックアップしてください。

■すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません

「FM かんたんバックアップ」は、すべてのデータのバックアップ／復元を保証するものではありません。

■AC アダプタを使用してください。

「FM かんたんバックアップ」でバックアップするときは、必ず AC アダプタを使用し、コンセントから電源を確保してください。

■次のデータは、「FM かんたんバックアップ」でバックアップできません

- **著作権保護された音楽データ／映像データ**

  インターネット上の音楽配信サイトからダウンロードしたファイルなど、著作権保護された映像や音楽などはバックアップ／復元できない場合があります。

  著作権保護された音楽データ／映像データのバックアップ／復元については、お使いのソフトウェアのマニュアルやヘルプをご覧ください。

● 「FM かんたんバックアップ」の「保存項目」または「保存する内容」に登録されていないソフトウェアで作成したファイル

「すべての項目を保存」では、「保存項目」に登録されていないソフトウェアで作成したファイルはバックアップされません。

「項目を選択して保存・復元を実行」では、「保存する内容」の「項目」に登録されていないソフトウェアで作成したファイルはバックアップできません。

● バージョンアップを行ったソフトウェア

ソフトウェアのバージョンアップを行うと、ファイルの構造やデータの格納先が変更されることがあります。この場合は、ファイルをコピーして、バックアップしてください。

● データの保存先を変更したソフトウェアで作成したファイル

ソフトウェアで作成したデータの保存場所を変更した場合は、「FM かんたんバックアップ」でバックアップできません。この場合は、個別にファイルをコピーして、バックアップしてください。

■次の場合は、バックアップした後にデータをコピーしてください

● ハードディスクの領域を変更する場合

● 故障したときに備えてバックアップする場合

「FM かんたんバックアップ」では、データを D ドライブにバックアップします。ハードディスクの領域を変更すると、ハードディスク全体のファイルが削除されてしまうため、D ドライブにバックアップしたデータも削除されてしまいます。

また、パソコンが故障したときは、D ドライブにバックアップしたデータも含め、ハードディスクのすべてのデータが使えなくなる可能性があります。

このようなときに備え、バックアップしたデータを、USB メモリや、外付けハードディスクなど、このパソコンのハードディスク以外にコピーしてください。

■複数のユーザーでパソコンをお使いの方へ

「制限付きアカウント」でログオンして作成したデータはバックアップ／復元ができません。管理者権限を持つユーザーアカウントのみバックアップ／復元できます。管理者権限を持つユーザーアカウントが複数ある場合、それぞれのユーザー名でログオンして、作成したデータをバックアップしてください。

データを復元するときは、バックアップしたときと同じユーザー名で行ってください。バックアップしたときと違うユーザー名では正常に復元できません。

POINT

▶ ユーザーアカウントの権限の確認方法

現在ログオンしているユーザーアカウントの権限は、次の手順で確認できます。

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「ユーザーアカウント」をクリックします。
3. アイコンの右側に表示されている、アカウントの種類を確認します。

- Administrator
  管理者権限を持つユーザーアカウントです。「FM かんたんバックアップ」をお使いいただけます。
- 制限付きアカウント
  管理者権限を持たないユーザーアカウントです。「FM かんたんバックアップ」はお使いになれません。

■ファイル名は日本語または英語にしてください

日本語または英語以外のファイル名をお使いの場合、「FM かんたんバックアップ」でバックアップ／復元できないことがあります。ファイル名は、日本語または英語に変更してください。

■D ドライブを拡張領域に設定した場合

お客様が D ドライブを拡張領域に設定していると、D ドライブにデータをバックアップすることができません。

「FM かんたんバックアップ」でバックアップする

文書や画像ファイルなど、ソフトウェアを使って作成したデータやインターネットの設定を次の手順でバックアップします。

重要

- 必ず AC アダプタを使用し、コンセントから電源を確保してください。

1 **管理者権限を持つユーザーアカウントで Windows にログオンしていることを確認します。「制限付きアカウント」ではバックアップができません。**

「制限付きアカウント」で Windows にログオンしているとき、「FM かんたんバックアップ」ではバックアップができません。個別にファイルをコピーしてバックアップしてください。

ユーザーアカウントの権限の確認方法は、「複数のユーザーでパソコンをお使いの方へ」（→ P.60）をご覧ください。

2 **起動中のソフトウェアをすべて終了し、次の手順でスクリーンセーバーを「なし」に設定します。**

1. デスクトップの何もない部分を右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」を選択します。
「画面のプロパティ」ウィンドウが表示されます。
2. 「スクリーンセーバー」タブをクリックします。
3. 「スクリーンセーバー」を「(なし)」にして、「OK」をクリックします。

通知領域に常駐するタイプのソフトウェアも終了します。

3 **USBメモリや外付けハードディスクなどにバックアップする場合は、パソコンに接続されていることを確認します。**

4 **「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「FMV サポートナビ」の順にクリックします。**

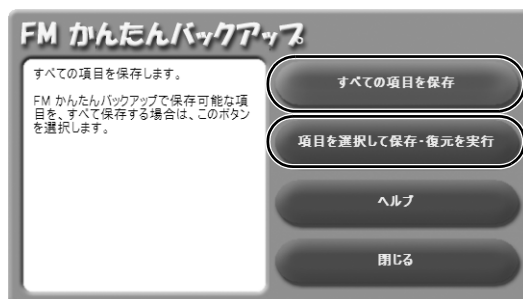
5 **「日頃のメンテナンス」タブをクリックします。**

6 **（FM かんたんバックアップ）をクリックして選択し、「実行」をクリックします。**

「FM かんたんバックアップのワンポイント」ウィンドウが表示されます。

7 **内容を確認し、「閉じる」をクリックします。**

「FM かんたんバックアップ」ウィンドウが表示されます。

8 **どちらかのボタンを選んでクリックします。**

■ **すべての項目を保存**

「FM かんたんバックアップ」でバックアップ可能なすべての項目を D ドライブにバックアップする場合、クリックします。

この後は、手順 10 に進んでください。

■ **項目を選択して保存・復元を実行**

バックアップする項目を選んで D ドライブにバックアップする場合、クリックします。

9 **「すべての項目を保存」を選択した場合は、手順 10 に進んでください。**
「項目を選択して保存・復元を実行」を選択した場合は、次の①～⑤の手順に従って操作してください。

①. 「保存」タブをクリックします。

②. バックアップしたい項目が☑になっていることを確認します。

③. 「項目の編集」をクリックし、「追加」をクリックすると、バックアップする項目を追加できます。

④. 「D:¥FM_BACKUP¥［ログオンしたユーザー名］」になっていることを確認します。

⑤. すべての設定が終わったら、「データの保存開始」をクリックします。

POINT

- USB メモリや外付けハードディスクにバックアップする場合は、手順④で USB メモリや外付けハードディスクを選択してください。

10「保存開始」ウィンドウで、「開始」をクリックします。

POINT

- 「既に保存したデータが存在します」というメッセージが表示された場合
  すでにバックアップしたデータを更新（上書き）するときは、「はい」をクリックしてください。
  バックアップを中止するときは、「キャンセル」をクリックしてください。
- 「開始」がクリックできない場合
  保存先のディスク容量が不足しています。「キャンセル」をクリックしてバックアップする項目を減らしたり、「FM かんたんバックアップ」を一度終了してから保存先の空き容量を増やしたりして、始めから操作をし直してください。

11 データのバックアップが始まります。しばらくお待ちください。

このとき、タブをクリックするなど他の操作は行わないでください。

12「保存結果」ウィンドウで、結果を確認します。

「バックアップした項目」をスクロールして、「結果」がすべて「正常終了」になっていることを確認してください。

このとき、保存データ格納先のデータのファイルを開いて、データがバックアップされたことを確認すると、より安心です。

バックアップに失敗した場合は、もう一度失敗した項目を選択してバックアップする操作を行ってください。

13「保存結果」ウィンドウで、「閉じる」をクリックします。

■ 手順 8 で「すべての項目を保存」を選択した場合

「FM かんたんバックアップ」が終了します。次の手順 14 は必要ありません。

■ 手順 8 で「項目を選択して保存・復元を実行」を選択した場合

「FM かんたんバックアップ」ウィンドウに戻ります。

14「終了」をクリックします。

「FM かんたんバックアップ」が終了します。

これで、「FM かんたんバックアップ」により、データがバックアップされました。

「FM かんたんバックアップ」で復元する

「FM かんたんバックアップ」でバックアップしたデータを元の場所に復元します。

重 要

- 必ず AC アダプタを使用し、コンセントから電源を確保してください。
- パソコンをリカバリした後に復元する場合、ソフトウェアがインストールされていることを確認してください。
  ソフトウェアがインストールされていない場合は、先にソフトウェアをインストールしてからファイルを復元してください。
- 「FM かんたんバックアップ」でバックアップしたときから復元するまでの間に、バックアップしたファイルを変更したり、新しくファイルを作ったり、設定を変更すると、その内容はバックアップされていません。そのまま「FM かんたんバックアップ」で復元すると、バックアップした時点でのファイルや設定内容が復元されるので、その間に変更した設定や内容はすべて消えてしまいます。充分に注意してください。

1「「FM かんたんバックアップ」でバックアップする」の手順 1 ～ 7 までの操作をして、「FM かんたんバックアップ」を起動します。

2「項目を選択して保存・復元を実行」をクリックします。

3「復元」タブをクリックします。

4 ①〜③の手順に従って操作してください。

①. バックアップしたときの「保存データ格納先」と同じものを選択します。
「復元データ格納先」が、バックアップしたときの「保存データ格納先」と同じになっていることを確認してください。ご購入時の設定では、「保存データ格納先」は「D:¥FM_BACKUP¥［ログオンしたユーザー名］」になっています。

②. 復元する項目の左が☑になっていることを確認します。

③.「データの復元開始」をクリックします。

5「復元開始」ウィンドウで、「開始」をクリックします。

「復元を行うと保存時のデータで上書きされ、保存時の状態に戻ります。復元を続けますか？」というメッセージが表示されます。

6「はい」をクリックします。

7 データの復元が始まります。しばらくお待ちください。

このとき、タブをクリックするなど他の操作は行わないでください。

8「復元結果」ウィンドウで、結果を確認します。

「復元した項目」をスクロールして、「結果」がすべて「正常終了」になっていることを確認してくださ

POINT

▶ ファイルが復元されなかった場合
次のような原因が考えられます。
・「復元データ格納先」が間違って指定されている
保存したときの「保存データ格納先」と同じものに指定し直してください。
・ファイルがバックアップされていない
ファイルのバックアップに失敗しています。この場合、ファイルの復元はできません。

9「復元結果」ウィンドウで、「閉じる」をクリックします。

Windowsの再起動をうながすメッセージが表示された場合は、「OK」をクリックしてWindowsを再起動してください。この場合次の手順10は必要ありません。

10「FM かんたんバックアップ」ウィンドウで「終了」をクリックします。

これで、バックアップしたデータが元の場所に復元されました。
このとき、復元したファイルを開いて、データが復元されたことを確認すると、より安心です。

4. リカバリ（初期化）

リカバリとは

パソコンのCドライブを、ご購入時の状態に戻したり、マイリカバリでバックアップしたときの状態に戻したりすることを「リカバリ」といいます。
原因が特定できない不具合が起きたときなどに、リカバリをすると解決されることがあります。
しかし、リカバリをするとCドライブ内のデータや設定がすべて削除されてしまいますので、本当にリカバリが必要なのかをもう一度確かめてください。リカバリをしなくても、問題を解決できる場合があります。
リカバリをするときは、以降の記載をお読みになり、あらかじめリカバリについて理解しておきましょう。

こんなときにリカバリをする

パソコンが次のような状態になったときに、リカバリを行います。

- ●電源を入れても Windows が起動しない
- ●ウイルスに感染してしまったが、駆除できない
- ●原因はわからないけれどパソコンが動かない
- ●システムを入れ直したい
- ●ハードディスクの領域を設定し直したい

リカバリをするとどうなるのか

リカバリを行うと、Cドライブのデータはすべて削除されます。
重要と思われるデータは、お客様の責任において、Dドライブや USB メモリなど別の媒体にバックアップしてください。
なお、バックアップできない設定情報やファイルがあった場所などは、リカバリ後のことを考えて、メモなどに控えておくと良いでしょう。
バックアップをしないでリカバリを行い、お客様個人のデータが消失した場合、元に戻すことはできません。
バックアップ方法については、「大切なデータを保存する（バックアップ）」－「必要なものだけバックアップするには「FM かんたんバックアップ」」（→ P.59）をご覧ください。

リカバリをする必要があるかもう一度確認

「トラブルシューティング」（→ P.73）をご覧になって確認すると、リカバリをしないで問題が解決できる場合があります。
それでも問題が解決しない場合は、リカバリを行ってください。

リカバリの種類

リカバリには次の2つがあります。それぞれのリカバリの概要を説明します。
なお、「マイリカバリ」でディスクイメージを作成している場合は、ご購入時の状態に戻すリカバリをする前に、「マイリカバリ」で保存しているディスクイメージを使ってリカバリすることをお勧めします。

■「マイリカバリ」を使うリカバリ

Cドライブのデータがいったんすべて削除され、その後「マイリカバリ」でディスクイメージを保存した時点の状態に戻ります。Dドライブのデータは残ります。
メールやインターネットの設定、ソフトウェアなどもディスクイメージを作成したときのままなので、設定し直さなくてもパソコンを使えます。ただし「マイリカバリ」でリカバリした後は、Windows Update やセキュリティソフトの更新を忘れずに行ってください。
「マイリカバリ」については、「大切なデータを保存する（バックアップ）」－「「マイリカバリ」とは」（→ P.54）をご覧ください。
「マイリカバリ」を使ってリカバリする方法は、「「マイリカバリ」を使うリカバリ」（→ P.65）をご覧ください。

■ご購入時の状態に戻すリカバリ

C ドライブのデータがいったんすべて削除され、その後ご購入時の状態に戻ります。D ドライブのデータは残ります。「マイリカバリ」を使うリカバリで問題が解決しない場合は、ご購入時の状態に戻すリカバリを行ってください。

ご購入時の状態に戻すと、今までの設定などをやり直す必要があります。このパソコンをご購入後にインストールしたソフトウェアやドライバは、再度インストールしてください。Windows Updateやセキュリティソフトの更新も忘れずに行ってください。

ご購入時の状態に戻すリカバリについては、「ご購入時の状態に戻すリカバリの考え方」（→ P.67）をご覧ください。

ご購入時の状態に戻すリカバリの方法は、「ご購入時の状態に戻すリカバリ」（→ P.67）をご覧ください。

「マイリカバリ」を使うリカバリ

ディスクイメージを復元する

「マイリカバリ」であらかじめ作成しておいたディスクイメージを、復元する方法を説明します。

重 要

- ディスクイメージを復元すると、C ドライブが、ディスクイメージを作成した時点の状態に戻ります。そのため、ディスクイメージを作成した後に行った設定やCドライブに保存したファイルは、すべて失われます。ディスクイメージを作成した後に保存したデータは、D ドライブなどにバックアップしてください。
  ディスクイメージを作成した後に行った設定でパソコンをお使いになりたい場合は、「マイリカバリ」を使うリカバリでディスクイメージを復元した後に、再度お好みの設定にしてください。
- 必ず AC アダプタを使用し、コンセントから電源を確保してください。
- 外付けハードディスクなどの外部記憶装置は取り外してください。接続したまま操作を続けると、大切なデータを壊してしまう可能性があります。
  - 外付けハードディスクを使用するときは、「マイリカバリ」起動後に「ディスクイメージの保存先が外付けハードディスクの場合は、ここで接続してください」と表示されてから接続してください。
  - その他の外部記憶装置は、必ずパソコンから取り外した状態で操作してください。
- ネットワーク上のドライブに保存したディスクイメージを復元する場合
  次の点にご注意ください。
  - ネットワークの知識が必要です。
  - あらかじめネットワークに接続した環境で操作を始めてください。
    保存先のファイルが見える状態になっていることを確認してください。
  - セキュリティ対策ソフトを無効にして実行するため、保存先のパソコンとはクロスケーブルをお使いになり直接接続することを強くお勧めします。
  - ディスクイメージ復元中は、すべてのパソコンのセキュリティ対策ソフトを無効にしてください。ディスクイメージ復元後、セキュリティ対策ソフトを有効に戻してください。
    セキュリティ対策ソフトを無効／有効にする方法については、お使いのセキュリティソフトのマニュアルやヘルプをご覧ください。

1 パソコン本体の USB コネクタに外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。

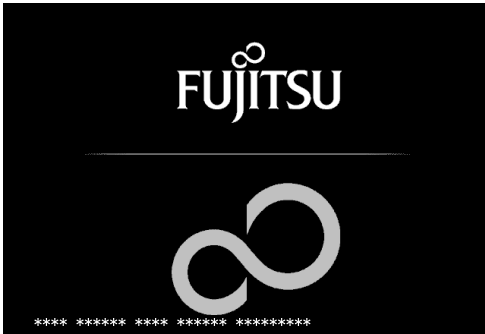
2 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

POINT

- Windows の「スタート」ボタンから電源を切ることができない場合は、電源ボタンを 4 秒以上押すと、電源を切ることができます。
- パソコンの電源を切らずに、ディスクイメージを復元することもできます
  1. パソコンの電源を切らずに、「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「マイリカバリ」の順にクリックします。
     「マイリカバリ」の概要を説明する「マイリカバリとは」ウィンドウが表示されます。
  2. 「閉じる」をクリックします。
     「マイリカバリ」が表示されます。
  3. 「もどす」をクリックします。
  4. 「OK」をクリックします。
     パソコンが再起動します。
  5. これ以降の操作は手順 8 （→ P.66）をご覧ください。

3 キーボードの【F11】キーの位置を確認し、押せるように準備します。

4 **パソコンの電源を入れ、FUJITSU のロゴ画面が表示されたら、すぐに【F11】キーを押します。**

軽く押しただけでは認識されない場合があります。起動メニューが表示されるまで何度も押してください。

POINT

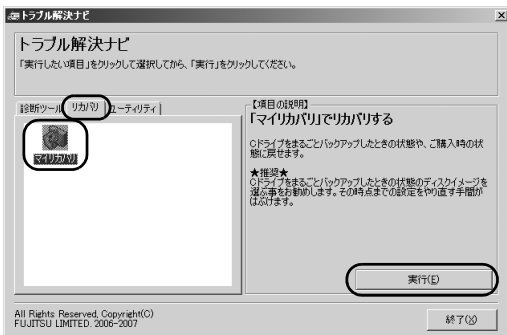
- タイミングが合わずに Windows が起動してしまった場合は、パソコンを再起動して、手順 3 から操作をやり直してください。
  起動メニューが表示されず、Windows も起動しない場合は、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから再度電源を入れ、手順 3 から操作をやり直してください。

5 **起動メニューが表示されたら、【↓】キーを押し、「Recovery and Utility」を選択して、【Enter】キーを押します。**

「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

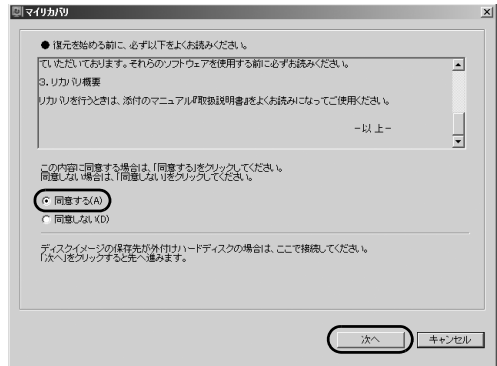
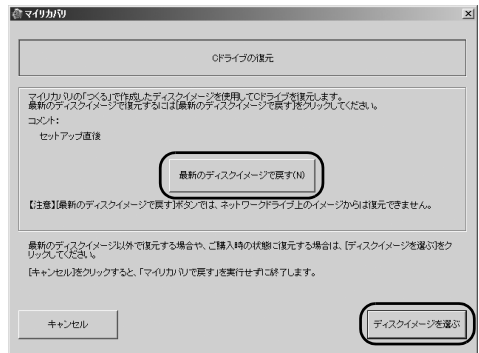
POINT

- 「Recovery and Utility」が表示されないときは、BIOS の設定を初期値に戻してください。詳しくは、「トラブルシューティング」－「BIOS の設定をご購入時の状態に戻す」（→ P.74）をご覧ください。

6 **「リカバリ」タブの「マイリカバリ」をクリックし、「実行」をクリックします。**

「ご使用上の注意」が表示されます。

7 **外付けハードディスクに保存したディスクイメージから復元する場合は、外付けハードディスクを接続します。**

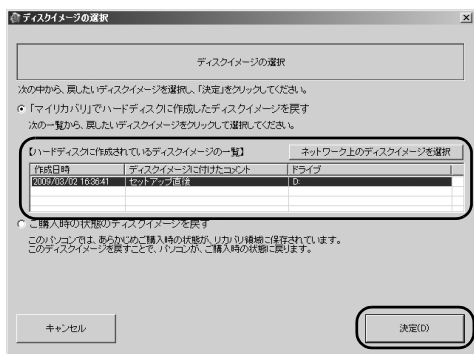
8 **画面に表示された「ご使用上の注意」に同意していただいた場合は、「同意する」をクリックして、「次へ」をクリックします。**

「ご使用上の注意」を下までスクロールすると、「同意する」が選択できるようになります。

9 **「マイリカバリ」で作成したディスクイメージを選択します。**

■ **D ドライブや外付けハードディスクに保存した最新のディスクイメージで戻す場合**

「最新のディスクイメージで戻す」をクリックします。この後は、手順 11 に進んでください。

■ **D ドライブや外付けハードディスク、ネットワーク上のドライブに保存したディスクイメージで戻す場合**

「ディスクイメージを選ぶ」をクリックします。

10「最新のディスクイメージで戻す」をクリックした場合は、手順 11 に進んでください。
「ディスクイメージを選ぶ」をクリックした場合は、次の操作を行ってください。

■ D ドライブや外付けハードディスクに保存した最新以外のディスクイメージを復元する場合
リストから使いたいディスクイメージを選択し、「決定」をクリックします。

■ ネットワーク上のドライブに保存したディスクイメージを復元する場合
「ネットワーク上のディスクイメージを選択」をクリックし、リストから使いたいディスクイメージを選択して「決定」をクリックします。
ユーザー名とパスワードを確認する画面が表示されたら、次のように入力してください。

・ユーザー名：
「(ネットワーク上のコンピュータ名)¥guest」
・パスワード：
空欄（何も入力しないでください）

11「次へ」をクリックします。

12「これから復元が始まります。」という画面で「実行」をクリックします。
「マイリカバリ」の進行状況を示す画面が表示され、ディスクイメージを使った復元が始まります。

13 そのまましばらくお待ちください。

POINT

▶ 終了までの時間表示が増えることがあります。
これは、途中で終了時間を計算し直しているためです。約 30% 終了するまでは、残り時間が正確に表示されない場合がありますのでご了承ください。

14「復元が完了しました。」と表示されたら、「OK」をクリックします。
パソコンが再起動します。

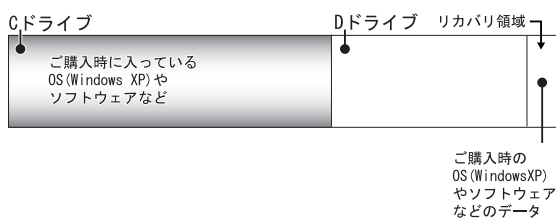
これで、「マイリカバリ」で作成したディスクイメージを使った復元が完了しました。

ご購入時の状態に戻すリカバリ

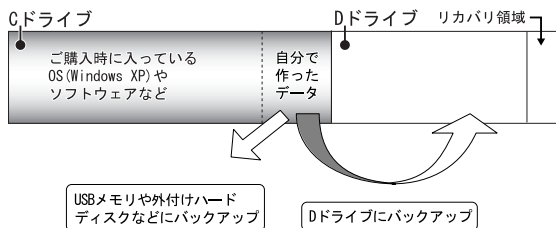
ご購入時の状態に戻すリカバリの考え方

ご購入時の状態に戻すリカバリとは、リカバリ用に保存されているデータを使用して、OS、ドライバなどのプレインストールソフトウェアをご購入時の状態に戻す操作です。
リカバリをして、パソコンをご購入時の状態に戻すまでにどんな作業が必要か、簡単に説明します。
次のイメージ図で流れを理解しましょう。

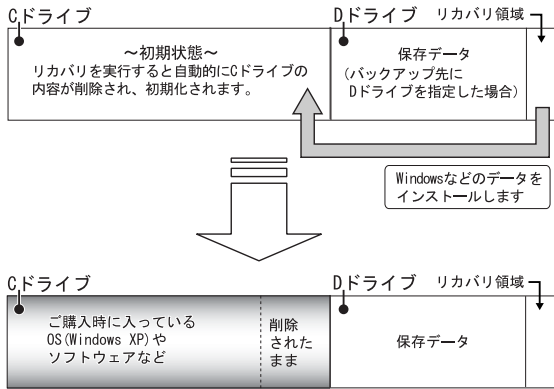
■ハードディスクの領域

ご購入時のパソコンのハードディスクは、次のような領域に分かれています。

リカバリ領域とは、ご購入時の状態に戻すリカバリ実行時のみに使われる領域で、ご購入時の OS（Windows XP）やソフトウェアなどのデータが入っています。

①リカバリ前にすること

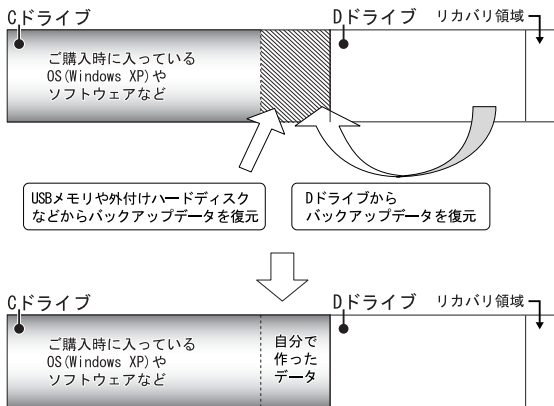
ご購入後にCドライブに新しく自分で作ったデータがあれば、D ドライブや USB メモリなどにバックアップしておきます。

②リカバリの実行（C ドライブの初期化～ご購入時の状態に戻すまで）

リカバリを実行すると、自動的に C ドライブを初期状態にし（データは削除されます）、リカバリ領域から Windows などのデータを再インストールします。

ご購入時に入っているソフトウェアなどは、このときいっしょに再インストールされます。

これで、C ドライブがご購入時の状態に戻ったことになります。

このとき、自分で作ったデータは削除されたままです。

③以前使っていた環境に戻す（ご購入時の状態に戻った後）

バックアップ先から、データを元の場所に戻します。

パソコンを以前と同じ環境でお使いいただけます。

POINT

- リカバリやバックアップの操作代行サービス（有償）をご用意しています。富士通パソコン出張サービス「PC 家庭教師」をご利用ください。
  詳しくは、『サポート＆サービスのご案内』－「困ったとき」－「富士通パソコン出張サービス」－「「PC 家庭教師」（有料）」をご覧ください。
- リカバリ領域からリカバリできなかった場合、リカバリ領域が破損していることが考えられます。
  「リカバリディスク」および「アプリケーションディスク＆ユーティリティディスク」を購入すると、ディスクからリカバリすることができます。
  ・お問い合わせ先
  富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口
  0120-950-222（通話料無料）

ご購入時の状態に戻すリカバリをするうえでの注意事項

■領域設定を変更しないでください

市販のソフトウェアや、Windows の「ディスクの管理」で領域設定を変更しないでください。市販のソフトウェアや、Windows の「ディスクの管理」で領域設定を変更された方は、ご購入時の状態に戻すリカバリを行うことができません。

■時間に余裕をもって作業してください

リカバリには時間がかかります。時間に余裕をもって作業してください。

■設定情報やデータはバックアップしてください

リカバリを行うと、C ドライブのデータはすべて削除され、ご購入時の状態に戻ります。D ドライブのデータは残ります。重要と思われるデータは、お客様の責任において、D ドライブや USB メモリ、外付けハードディスクなどにバックアップしてください。バックアップせずにリカバリを行い、お客様個人のデータが消失した場合、元に戻すことはできません。

なお、バックアップできない設定情報やファイルがあった場所などは、リカバリ後のことを考えて、メモをしておくと良いでしょう。

- ●ネットワーク環境
- ●メールの設定
- ●ファイルの保存場所

バックアップしたファイルはパソコンをご購入時の状態に戻した後、同じ保存場所に戻すようにします。そのためにファイルの元の保存場所を忘れないようにしてください。

■AC アダプタを接続してください

リカバリを行うときは、必ず AC アダプタを接続してください。

■次の周辺機器などが接続されている場合は取り外してください

□外付けハードディスクなどの外部記憶装置

パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、リカバリを行う前に必ず取り外してください。外付けハードディスクが接続されていると、リカバリが行えません。

□プリンタ、デジタルカメラなどの周辺機器

プリンタ、デジタルカメラ、スキャナなどの周辺機器を取り付けている場合は、それらを一度取り外し、ご購入時の状態に戻してください。また、メモリーカードも取り外してください。マニュアルに記載されている手順と異なってしまう場合があります。

□LAN ケーブル

リカバリを終えてセットアップが終了するまで、LAN ケーブルを接続しないでください。LAN ケーブルを接続してセットアップを行うと、エラーメッセージが表示されることがあります。

■ファイルコピー中に他の操作をしないでください

ソフトウェアのインストールなどでファイルをコピーしている間は、他の操作をしないでください。次の画面が表示されるのに時間がかかる場合があります。むやみにクリックせず、しばらくお待ちください。他の操作をすると、インストールが正常に終了しない場合があります。

■リカバリが中断したときは

リカバリが中断されてしまった場合は、次の点を確認した後、リカバリの実行の手順 2（→ P.70）からやり直してください。

- ●周辺機器はすべて取り外してください。
  リカバリをする前に、パソコンの電源を切り、周辺機器はすべて取り外してください。
- ●手順を確認してください。
  手順を間違えている可能性があります。操作手順を間違えると中断される場合があります。

■Office Personal 2007 をお使いの方のみ

「Office Personal 2007」のインストールには CD/DVD ドライブが必要です。ポータブル CD/DVD ドライブをご用意ください。ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット（FMV-NSM52）」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット（FMV-NCB53）」をお勧めします。

作業中に起こる可能性のあるトラブル

リカバリを実行するときやソフトウェアをインストールするときに、次のようなトラブルが起こる可能性があります。

■画面が真っ暗になった

パソコンが再起動して画面が暗くなる場合は、手順に記載しています。

手順に記載がないのに、画面が真っ暗になった場合は、省電力機能が働いた可能性があります。

フラットポイントの操作面や、キーボードの【↑】【↓】【←】【→】キーや【Shift】キーを押してください。

それでも復帰しない場合は、電源ボタンを押してください。

■電源が切れない

電源ボタンを 4 秒以上押し続けて電源を切ってください。

ご購入時の状態に戻すリカバリを実行する

■リカバリの実行

1 パソコン本体に外付けハードディスクなどを接続している場合は、取り外します。

2 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

POINT

▶ Windows の「スタート」ボタンから電源を切ることができない場合は、電源ボタンを 4 秒以上押すと、電源を切ることができます。

3 AC アダプタを接続します。

4 キーボードの【F11】キーの位置を確認し、押せるように準備します。

5 パソコンの電源を入れ､FUJITSU のロゴ画面が表示されたら、すぐに【F11】キーを押します。

軽く押しただけでは認識されない場合があります。起動メニューが表示されるまで何度も押してください。

POINT

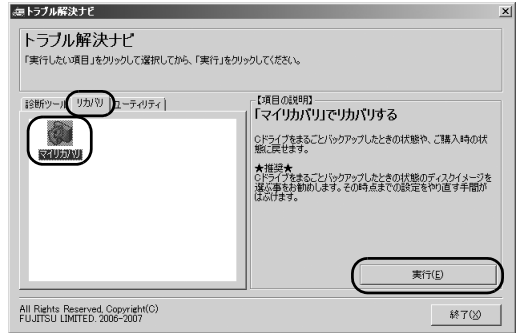
▶ タイミングが合わずに Windows が起動してしまった場合は、パソコンを再起動して、手順 4 から操作をやり直してください。
起動メニューが表示されず、Windows も起動しない場合は、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから再度電源を入れ、手順 4 から操作をやり直してください。

6 起動メニューが表示されたら、【↓】キーを押し、「Recovery and Utility」を選択して、【Enter】キーを押します。

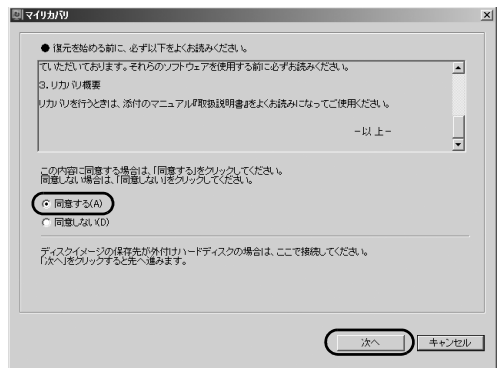
「トラブル解決ナビ」ウィンドウが表示されます。

POINT

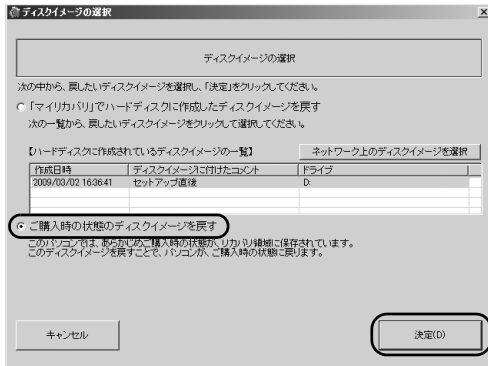
▶「トラブル解決ナビ」が表示されないときは、BIOS の設定を初期値に戻してください。詳しくは、「トラブルシューティング」－「BIOS の設定をご購入時の状態に戻す」（→ P.74）をご覧ください。

7「リカバリ」タブの「マイリカバリ」をクリックし、「実行」をクリックします。

「ご使用上の注意」が表示されます。

8「ご使用上の注意」をよく読み、「同意する」をクリックして、「次へ」をクリックします。

「ご使用上の注意」を下までスクロールすると、「同意する」が選択できるようになります。

9「C ドライブの復元」の画面で、画面右下の「ディスクイメージを選ぶ」をクリックします。

「ディスクイメージの選択」の画面が表示されます。

10「ご購入時の状態のディスクイメージを戻す」をクリックして、「決定」をクリックします。

11「ご購入時の状態に戻すときの注意」をよく確認して、「次へ」をクリックします。

12「次へ」をクリックします。

13「ご購入時の状態に戻す」の画面で、「実行」をクリックします。

復元の進行状況を示す画面が表示され、ご購入時の状態に戻すリカバリが始まります。

終了までの時間表示が増えることがあります。これは、途中で終了時間を計算し直しているためです。約 30% 終了するまでは、残り時間が正確に表示されない場合がありますのでご了承ください。

14 そのまましばらくお待ちください。

しばらくすると、「C ドライブの復元が完了しました。」と表示されます。

15「OK」をクリックします。

パソコンが再起動します。この間、画面が真っ暗になったり、画面に変化がなかったりすることがありますが、故障ではありません。「Windows のセットアップ」画面が表示されるまで、電源を切らずに、そのままお待ちください。

■Windows のセットアップやセキュリティ対策をする

これで、Windows がご購入時の状態に戻りました。この後は次の操作をしてください。

- ●Windows のセットアップ
- ●Windows Update
- ●アップデートナビ

お客様が実行したセキュリティ対策や各種設定内容は、実行前の状態に戻っています。

詳しくは、「セットアップを始めよう」（→ P.19）をご覧ください。

■Office Personal 2007 をご購入時と同じ設定にする（「Office Personal 2007」搭載機種をお使いの方）

・インストールには CD/DVD ドライブが必要です。ポータブル CD/DVD ドライブをご用意ください。
ポータブル CD/DVD ドライブは、「スーパーマルチドライブユニット（FMV-NSM52）」または「DVD-ROM&CD-R/RW ドライブユニット（FMV-NCB53）」をお勧めします。

1 「Microsoft Office・・・をインストールします」と表示されたら、「Office Personal 2007 のディスク」をセットして、「はい」をクリックします。
2 プロダクトキーを入力する画面が表示されるので、「Office Personal 2007」のパッケージに同梱されているプロダクトキーの英数字を入力し、「次へ」をクリックします。
3 「マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項をお読みください」と表示されたら、内容をよく読み、「「マイクロソフト ソフトウェア ライセンス条項」に同意します」をクリックして☑にして、「次へ」をクリックします。
4 「今すぐインストール」をクリックします。
5 インストール終了のメッセージが表示されたら、「閉じる」をクリックします。
6 表示されている画面に従って、「2007 Microsoft Office System Service Pack1」をインストールします。
7 「パソコンの設定」ウィンドウで「OK」をクリックします。
8 「このパソコンに最適な設定を行います」ウィンドウで「実行する」をクリックします。
この後は、表示されるメッセージに従ってください。

POINT

- ご購入時の状態に戻すリカバリを実行した後、Windows セットアップを行い再起動すると、「パソコンの設定」ウィンドウが表示されます。画面の指示に従って「Office Personal 2007」のインストールを行った場合は忘れずに「必ず実行してください」を実行してください。「必ず実行してください」を実行しないとセットアップの最終設定が行われません。
また、「必ず実行してください」を実行した後に「Office Personal 2007」のインストールを行うこともできます。
- 「Microsoft® Office Personal 2007 2 年間ライセンス版」をお使いの方
パソコンをご購入時の状態に戻した後、「Microsoft® Office Personal 2007 2 年間ライセンス版」のソフトウェアをお使いになる前には、インターネットに接続した状態で「ライセンス認証」が必要になります。

以上でリカバリは終了です。
必要に応じて、ドライバやソフトウェアのインストールや設定などを行ってください。
なお、トラブルを解決するためにリカバリをしても、問題が解決されない場合があります。その場合は、状況に応じたサポートやサービスをご利用ください。
詳しくは、『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

5. トラブルシューティング

おかしいなと思ったときや、わからないことがあったときの対処方法について説明しています。

トラブル発生時の基本操作

トラブルを解決するにはいくつかのポイントがあります。トラブル発生時に対応していただきたい順番に記載しています。

落ち着いて状況を確認する

トラブルが発生したときは、落ち着いて、直前に行った操作や現在のパソコンの状況を確認しましょう。

■メッセージなどが表示されたらメモしておく

画面上にメッセージなどが表示されたら、メモしておいてください。マニュアルで該当するトラブルを検索する場合や、お問い合わせのときに役立ちます。

■パソコンや周辺機器の電源を確認する

電源が入らない、画面に何も表示されない、ネットワークに接続できない、などのトラブルが発生したら、まずパソコンや周辺機器の電源が入っているか確認してください。

- ●電源ケーブルや周辺機器との接続ケーブルは正しいコネクタに接続されていますか？またゆるんだりしていませんか？
- ●電源コンセント自体に問題はありませんか？
  他の電器製品を接続して動作するか確認してください。
- ●使用する装置の電源スイッチはすべて入っていますか？
  ネットワーク接続ができなくなった場合は、ネットワークを構成する機器（ハブなど）の接続や電源も確認してください。
- ●キーボードの上に物を載せていませんか？
  キーが押され、パソコンが正常に動作しないことがあります。

この他、「起動・終了時のトラブル」（→ P.75）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」もあわせてご覧ください。

■以前の状態に戻す

周辺機器の取り付けやソフトウェアのインストールの直後にトラブルが発生した場合は、いったん以前の状態に戻してください。

- ●周辺機器を取り付けた場合は、取り外します。
- ●ソフトウェアをインストールした場合は、アンインストールします。

その後、製品に添付されているマニュアル、「Readme.txt」などの補足説明書、インターネット上の情報を確認し、取り付けやインストールに関して何か問題がなかったか確認してください。

発生したトラブルに該当する記述があれば、指示に従ってください。

■セーフモードで起動する

セーフモードで起動できるか確認してください。セーフモードは、Windows が正常に起動できないとき、必要最低限の機能で起動するモードです。そのためトラブルの原因を突き止めるのに適しています。

起動方法は次のとおりです。

1. **パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。**
2. **キーボードの【F8】キーの位置を確認し、押せるように準備します。**
3. **パソコンの電源を入れ、「FUJITSU」ロゴが消えたら、【F8】キーを押します。**
   「Windows 拡張オプションメニュー」が表示されます。
   【F8】キーは軽く押しただけでは認識されない場合があります。しばらくの間押してください。
4. **「セーフモード」を選択し、【Enter】キーを押します。**
   「オペレーティングシステムの選択」が表示されます。
5. **お使いの　Windows　が選択されていることを確認し、【Enter】キーを押します。**
6. **管理者権限を持ったユーザーとしてログオンします。**
   「Administrator パスワード」を設定している場合は、パスワードを入力してログオンします。
   「Windows はセーフモードで実行されています。」と表示されます。
7. **「はい」をクリックします。**

BIOS の設定をご購入時の状態に戻す

BIOS セットアップの設定値を、パソコンご購入時の状態に戻すと問題が解決する場合があります。

1 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

2 キーボードの【F2】キーの位置を確認し、押せるように準備します。

3 パソコンの電源を入れ、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F2】キーを押します。

BIOS セットアップウィンドウが表示されます。

4 【←】または【→】キーを押して「Exit」を選択します。

5 【↓】または【↑】キーを押して「Load Setup Defaults」を選択し、【Enter】キーを押します。

重 要

- 「Load Setup Defaults」を実行しても、Supervisor Password、および User Password は、現在お使いの状態のまま変更されません。

6 【←】または【→】キーを押して「Yes」を選択し、【Enter】キーを押します。

7 【F10】キーを押します。

8 【←】または【→】キーを押して「Yes」を選択し、【Enter】キーを押します。

すべての設定値が保存された後、BIOS セットアップが終了し、本パソコンが再起動します。

トラブルシューティングで調べる

「よくあるトラブルと解決方法」（→ P.75）は、よくあるトラブルの解決方法が記載されています。発生したトラブルの解決方法がないかご覧ください。

インターネットで調べる

弊社のサポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）では、このパソコンに関連したサポート情報やドライバを提供しております。

診断プログラムを使用する

Windows が起動しなくなったときは、BIOS の起動メニューから起動できる診断プログラムを使用することで、パソコンの障害箇所を診断できます。

診断後にエラーコードが表示された場合は、メモしておき、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にお問い合わせください。詳しくは、『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

診断時間は通常 5 ～ 10 分程度ですが、診断するパソコンの環境によっては長時間かかる場合があります。

重 要

- 診断プログラムを使用する前に、必ず BIOS をご購入時の状態に戻してください。
- 診断プログラムを使用する前に周辺機器を取り外してください。
  USB メモリや外付けハードディスクなど、ハードディスクやリムーバブルディスクと認識される周辺機器は、診断を行う前に取り外してください。

1 パソコンの電源が入っていたら、電源を切ります。

2 キーボードの【F11】キーの位置を確認し、押せるように準備します。

3 パソコンの電源を入れ、「FUJITSU」ロゴが表示されている間に、【F11】キーを押します。

「Boot Menu」が表示されます。

4 【↓】キーを押して、「TEST（Diagnostic Program）」を選択し、【Enter】キーを押します。

5 【Y】キーを押します。

ハードウェア診断が終了したら、診断結果が表示されます。診断結果が表示される前に、自動的にパソコンが再起動する場合があります。

6 次の操作を行います。

■ トラブルが検出されなかった場合

【Enter】キーを押してください。「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウと「注意事項」ウィンドウが表示されます。手順 7 に進んでください。

■ トラブルが検出された場合

画面に表示された内容をメモなどに控え、お問い合わせのときにサポート担当者にお伝えください。その後、キーボードの【Y】キーを押してパソコンの電源を切ってください。

7 「注意事項」ウィンドウの内容を確認し、「OK」をクリックして閉じます。

8 診断したいアイコンにチェックが入っていることを確認し、「実行」をクリックします。

ハードウェア診断が始まります。

9「診断結果」ウィンドウに表示された内容を確認します。
表示された内容に従って操作してください。エラーコードが表示された場合には、メモなどに控え、お問い合わせのときにサポート担当者にお伝えください。

10「診断結果」ウィンドウで「閉じる」をクリックします。
「富士通ハードウェア診断ツール」ウィンドウに戻ります。

11「終了」をクリックします。
「終了」ウィンドウが表示されます。

12「はい」をクリックします。
「システム回復オプション」ウィンドウが表示されます。

13「システム回復オプション」ウィンドウで「キャンセル」をクリックします。
パソコンを再起動するメッセージが表示されたら、「はい」をクリックします。
パソコンが再起動して、診断プログラムが終了します。

サポートの窓口に相談する

本章をご覧になり、トラブル解決のための対処をした後も回復しない場合には、「それでも解決できないときは」（→ P.81）をご覧になりサポートの窓口に相談してください。

よくあるトラブルと解決方法

起動・終了時のトラブル

Q 電源が入らない

●**AC アダプタは接続されていますか？**
お買い上げ後最初にお使いになるときなど、バッテリが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してください。
また、電源スイッチのある AC タップをお使いの場合は、AC タップの電源を ON にしてください。

●**バッテリは充電されていますか？（バッテリ運用時）**
バッテリの充電／残量ランプで、バッテリの残量を確認してください。
バッテリ充電状態や残量、および確認方法については、「パソコンの取り扱い」－「バッテリの充電状態や残量を確認する」（→ P.43）をご覧ください。
バッテリが充電されていない場合は、AC アダプタを接続してお使いください。

●**長期間未使用状態ではありませんでしたか？**
長期間お使いにならなかった後でお使いになるときは、AC アダプタを接続してから電源を入れてください。

●**AC アダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外してください。**
AC アダプタと内蔵バッテリパックをいったん取り外して 2 ～ 3 分放置後、再び取り付けると問題が解決することがあります。

Q ビープ音が鳴った

●メモリが正しく取り付けられていないか、このパソコンでサポートしていないメモリを取り付けている可能性があります。メモリを増設している場合は、いったん電源を切り、増設したメモリが正しく取り付けられているか確認してください。

重要

- 正しく取り付けても鳴る場合や、メモリを増設していないのに鳴る場合は、「故障や修理に関する受付窓口」、またはご購入元にご連絡ください。

Q 画面に何も表示されない

●電源ランプは点灯していますか？

・点灯している場合
【Fn】キーを押しながら【F6】キーまたは【F7】キーを押して明るさを調節してください。

・点滅または消灯している場合
電源ボタンを押して動作状態にしてください。また、バッテリ運用時は、バッテリが充電されているか確認してください。充電されていないときには、AC アダプタを接続して充電してください。
AC アダプタをお使いになっている場合は、コンセント、およびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

●キーを操作していましたか？

このパソコンには省電力機能が設定されており、一定時間キーを押さないと CPU が停止したり、液晶ディスプレイのバックライトが消灯したりします（何かキーを押すとバックライトが点灯します）。頻繁に停止してしまうときは、「電源オプションのプロパティ」ウィンドウで省電力の設定を変更してください。

●外部ディスプレイ出力に設定されていませんか？

外部ディスプレイだけに表示する設定になっていると、液晶ディスプレイには表示されません。
『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「外部ディスプレイ」－「表示するディスプレイを切り替える」をご覧になり、設定を液晶ディスプレイ表示に切り替えてください。

●外部ディスプレイを使用している場合、次の項目を確認してください。

・パソコン本体の電源を入れる前に、外部ディスプレイの電源を入れていますか？

・セットアップ前に、外部ディスプレイを接続していませんか？
必ずセットアップ後に接続してください。

・『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「外部ディスプレイ」－「表示するディスプレイを切り替える」、『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「外部ディスプレイ」－「マルチモニタ機能」をご覧になり、設定を確認してください。

●解像度や走査周波数は、外部ディスプレイにあった設定になっていますか？（外部ディスプレイに表示している場合）

そのまま 15 秒くらい待っても、液晶ディスプレイ表示に戻らない場合は、パソコンを強制終了してください。
その後、外部ディスプレイのケーブルを外してから電源を入れると、液晶ディスプレイに表示されます。
『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「外部ディスプレイ」－「外部ディスプレイの走査周波数」をご覧になり、お使いになる外部ディスプレイに合わせた設定値に変更してください。その後、『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「外部ディスプレイ」－「表示するディスプレイを切り替える」をご覧になり、設定を外部ディスプレイ表示に切り替えてください。

Q Windows が起動しない

●「System CMOS checksum bad - Default configuration used」というメッセージが表示された場合は、BIOS セットアップで System Time と System Date を修正してください。

1. 【F2】キーを押します。
   BIOS セットアップウィンドウが表示されます。
2. 【←】または【→】キーを押して「System」を選択します。
3. 【↓】または【↑】キーを押して「System Time」を選択し、現在の時間に修正します。
   数値は上書きで修正できます。入力後【Enter】キーを押すと修正可能な部分が移動します。
4. 【↓】または【↑】キーを押して「System Date」を選択し、現在の日付に修正します。
   数値は上書きで修正できます。入力後【Enter】キーを押すと修正可能な部分が移動します。
5. 【←】または【→】キーを押して「Exit」を選択します。
6. 【↓】または【↑】キーを押して「Exit Saving Changes」を選択し、【Enter】キーを押します。
7. 【←】または【→】キーを押して「Yes」を選択し、【Enter】キーを押します。
   パソコンが再起動します。

●周辺機器を取り付けませんでしたか？

いったん周辺機器を取り外し、Windows が起動するか確認してください（→ P.73）。
もし起動するようであれば、周辺機器の取り付け方法が正しいか、もう一度確認してください。

●セーフモードで起動できますか？

いったんセーフモードで起動し（→ P.73）、問題を解決（ドライバの再インストールなど）してください。

●Windows 起動時にセーフモードになり「キーボードの選択」画面が表示された場合は、そのままセーフモードで起動してください。

Windows を正常に終了できなかった場合、次回起動時に自動的にセーフモードになり、「キーボードの選択」画面が表示されることがあります。この場合、そのままセーフモードで起動し、起動が完了したらパソコンを再起動してください。

●診断プログラムでパソコンの診断をしてください（→ P.74）。

診断結果をメモして、「富士通パーソナル製品に関するお問合せ窓口」、またはご購入元にお問い合わせください。詳しくは、『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

Q ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

●キーボードを使って Windows を終了させることができます。

1. 【Windows】キーを押します。または【Ctrl】キーを押しながら【Esc】キーを押します。
「スタート」メニューが表示されます。
2. 【↑】キーまたは【↓】キーで終了メニューの選択をして、【Enter】キーで決定を行うことで Windows の終了操作を行います。

ポインティングデバイスが故障している場合は、「故障や修理に関する受付窓口」にお問い合わせください。詳しくは、『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

Q Windows が動かなくなってしまい、電源が切れない

●次の手順で Windows を終了させてください。

1. 【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。
2. Windows を終了します。

・「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合
「シャットダウン」メニュー→「コンピュータの電源を切る」の順にクリックします。

・「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合
「シャットダウン」をクリックし、「Windows のシャットダウン」ウィンドウが表示されたら、「シャットダウン」を選択して「OK」をクリックします。

POINT

- 強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- 強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.79）。

この操作で強制終了されないときは、電源ボタンを 4 秒以上押して電源を切り、10 秒以上待ってから電源を入れます。

Windows・ソフトウェア関連のトラブル

Q プログラムが動かなくなってしまった

●次の手順でプログラムを終了させてください。

1. 【Ctrl】キーと【Alt】キーを押しながら【Delete】キーを押します。

・「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示された場合
手順 3 に進みます。

・「Windows のセキュリティ」ウィンドウが表示された場合
手順 2 に進みます。

2. 「タスクマネージャ」をクリックします。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウが表示されます。
3. 「アプリケーション」タブをクリックします。
4. 動かなくなったプログラムを選択し、「タスクの終了」をクリックします。
プログラムが強制終了されます。
「Windows タスクマネージャ」ウィンドウの右上にある「閉じる」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

POINT

- プログラムを強制終了した場合、プログラムでの作業内容を保存することはできません。
- プログラムを強制終了した場合は、ハードディスクのチェックをお勧めします（→ P.79）。

Q 省電力機能が実行されない

●電源オプションの設定を確認してください。

省電力機能について、詳しくは、『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「スタンバイ／休止状態」をご覧ください。

Q ソフトウェアのインストールが正常に行われない

●ウイルス検索ソフトを起動している場合、その影響が考えられます。
ウイルス検索ソフトを終了させ、ソフトウェアのインストールができるか試してください。

ウイルス検索ソフトを終了させてもインストールが正常に行われないときは、各ソフトウェアのサポート窓口にお問い合わせください。

画面右下の通知領域にソフトウェアのアイコンが表示されない

- Windows を起動した後、画面右下の通知領域に表示されるはずのソフトウェアのアイコンが表示されないことがあります。
  画面右下の通知領域にアイコンが表示されなかったソフトウェアをお使いになる場合は、次のいずれかの方法を実行してください。
  - 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」の順にクリックし、表示されるメニューからソフトウェアを選択する
  - 「スタート」ボタン→「終了オプション」→「再起動」の順にクリックし、Windows を再起動する

POINT

- Windows を起動した後、画面右下の通知領域にアイコンが表示されなかった場合、ソフトウェアによっては起動できなかったことを通知するメッセージが表示されることがあります。
  この場合、メッセージに従って、Windows を再起動してください。

ハードウェア関連のトラブル

■BIOS

Supervisor Password を忘れてしまった

- Supervisor Password を忘れると、BIOS セットアップを管理者権限で起動することができなくなり、項目の変更やパスワード解除ができなくなります。この場合は、修理が必要となりますので「富士通パーソナルエコーセンター」、またはご購入元にご連絡ください。
  なお、保証期間にかかわらず修理は有償となります。

User Password を忘れてしまった

- User Password を忘れた場合は、修理の必要はありません。Supervisor Password をいったん削除した後、Supervisor Password、User Password の順にパスワードを設定し直してください。

■内蔵 LAN

ネットワークに接続できない

- ネットワークケーブルは正しく接続されていますか？
  パソコン本体との接続、ハブとの接続を確認してください。
- ネットワークケーブルに関して、次の項目を確認してください。
  ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
- 無線 LAN 設定が正しく設定されていますか？
  無線 LAN と有線 LAN で、同じ設定にはできません。
  必要に応じて、『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「LAN（有線 LAN）」および『製品ガイド』（PDF）－「無線 LAN」をご覧になり、再度設定などを確認してください。
- 画面右下の通知領域に LAN の接続状況が表示されますので、確認してください。
- スタンバイや休止状態にしませんでしたか？
  LAN 機能を使ってネットワークに接続中は、スタンバイや休止状態にしないことをお勧めします。お使いの環境によっては、ネットワークへの接続が正常に行われない場合があります。設定方法については、『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「スタンバイ／休止状態」をご覧ください。

■ハードディスク

ハードディスクからカリカリ音がする

- 次のような場合に、ハードディスクからカリカリという音がすることがあります。
  - Windows を終了した直後
  - スタンバイや休止状態にした直後
  - パソコンの操作を一時中断した場合（ハードディスクアクセスが数秒間なかった場合）
  - 中断した状態から再度パソコンを操作させた場合
  - パソコンを操作しない場合でも、常駐しているソフトウェアなどが動作した場合（ハードディスクアクセスされた場合）

  これはハードディスクの特性です。故障ではありませんので、そのままお使いください。

Q 頻繁にフリーズするなど動作が不安定になる

●C ドライブの空き容量が充分か確認してください。

Windows のシステムファイルが格納されている C ドライブの空き容量が少ないと、Windows の動作が不安定になることがあります。

C ドライブの空き容量が少ない場合は、空き容量を増やしてください。

空き容量を増やすには次のような方法があります。

・ごみ箱を空にする
  ファイルを削除しても「ごみ箱」に移動されるだけなので、ハードディスクの中にはデータが残っています。
  「ごみ箱」を空にしてください。
・不要なファイルを削除する
  自分で作成したファイルのうち、不要になったファイルを削除します。
  ファイルのサイズや最後に更新した日付などを確認しながら削除してください。
  自分で作ったファイル以外は、削除しないことをお勧めします。内容がよくわからないファイルをむやみに削除してしまうと、他のソフトウェアが影響を受け、正しく動作しなくなる場合があります。
・不要なソフトウェアを削除する
  普段使用していないソフトウェアがある場合は削除します。
・ディスククリーンアップをする
  インターネットからダウンロードしたプログラムファイル、テンポラリインターネットファイル、削除して「ごみ箱」に移動したファイル、一時ファイル、カタログファイルなど、たまった使用済みファイルの容量を確認し、不要なものを選択して削除できます。

■バッテリ

Q 状態表示 LED のバッテリ充電／残量ランプが紫色に点滅している

●バッテリは正しく取り付けられていますか？

バッテリが正しく充電できないことを示します。パソコン本体の電源を切ってからバッテリの取り付けをやり直してください。それでも紫色に点滅している場合はバッテリが異常です。新しいバッテリと交換してください。バッテリパックの交換については、「パソコンの取り扱い」－「内蔵バッテリパックを交換する」（→ P.43）をご覧ください。

●バッテリ運用直後ではありませんか？

バッテリ運用直後の充電などでは、バッテリの温度が上昇しているため、保護機能が働いてバッテリ充電／残量ランプが紫点滅することがあります。しばらくして、バッテリの温度が低下し、正常な温度に戻ると、そのときのバッテリ残量を表示します。

Q バッテリが充電されない

●AC アダプタは接続されていますか？

AC アダプタを接続している場合は、コンセントおよびパソコン本体に正しく接続されているか確認してください。

●バッテリが熱くなっていませんか？

状態表示 LED のバッテリ充電／残量ランプが紫点滅します。

周囲の温度が高いときや使用中にバッテリの温度が上昇すると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。

●パソコン本体が冷えていませんか？

状態表示 LED のバッテリ充電／残量ランプが紫点滅します。

バッテリの温度が 0 ℃以下になっていると、バッテリの保護機能が働いて、充電を中止することがあります。

●充電を途中で中断させていませんか？

充電を始めてから、バッテリの充電が完了するまでの間にこのパソコンを使用したり、AC アダプタを取り外したりすると、バッテリの特性により充電が不完全に終わることがあります。この場合は、このパソコンをしばらくの間バッテリで稼働させ、バッテリ残量が 89% 以下になってから充電してください。また、いったん充電を開始したら、バッテリの充電が完了するまで AC アダプタを接続したまま充電を終わらせてください。

■ディスプレイ

Q 画面に何も表示されない

●「起動・終了時のトラブル」（→ P.75）の「電源が入らない」、「画面に何も表示されない」をご覧ください。

Q 画面が急に表示されなくなった

●磁石や磁気ブレスレットなど、磁気の発生するものをパソコン本体や画面に近づけていませんか？

磁石や磁気ブレスレットなどの、磁気の発生するものをパソコン本体や画面に近づけると、パソコンがスタンバイや休止状態になり、画面が表示されなくなる場合があります。これはパソコンが磁気に反応し、液晶ディスプレイが閉められたと誤認識してしまうためです。電源ボタンを押すと、スタンバイや休止状態からから復帰（レジューム）します。

POINT

▶ 電源ボタンを 4 秒以上押し続けると、パソコンの電源が切れてしまいます。
スタンバイや休止状態になってしまった場合は、必ず 10 秒以上たってから復帰（レジューム）するようにしてください。

Q ディスプレイの表示が見にくい

●ディスプレイは見やすい角度になっていますか？

ディスプレイの角度を調節してください。

●明るさなどを調節しましたか？

『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「ディスプレイ」－「液晶ディスプレイの明るさを変更する」をご覧になり、明るさを調節してください。

Q 液晶ディスプレイが閉まらない

●間に物がはさまっていませんか？

無理に閉めようとすると液晶ディスプレイに傷を付けることがあります。物がはさまっていないか確認してください。また、クリップなどの金属製品がキーのすき間などに入ると、故障の原因になります。

Q 表示が乱れる

●Windows の画面が正常に表示されない場合は､次のように操作してください。

ディスプレイドライバを再インストールしてください。

Windows が起動しないときは、セーフモードで起動してからインストールしてください（→ P.73）。

●ソフトウェアを使用中に、アイコンやウィンドウの一部が画面に残ってしまった場合は、次の手順でウィンドウを再表示してください。

1. ウィンドウの右上にある「最小化」をクリックし、ソフトウェアを最小化します。
2. タスクバーに最小化されたソフトウェアのボタンをクリックします。

POINT

- 次のような場合に表示が乱れることがありますが､動作上は問題ありません。
  - ・Windows 起動時および画面の切り替え時
  - ・DirectX を使用した一部のソフトウェア使用時

●近くにテレビなどの強い磁界が発生するものがありませんか？

強い磁界が発生するものは、ディスプレイやパソコン本体から離して置いてください。

●外部ディスプレイに出力していますか？

外部ディスプレイによっては、対応している解像度や走査周波数が異なるため、正常に表示されないことがあります。その場合は、外部ディスプレイのマニュアルで外部ディスプレイが対応しているリフレッシュレートを確認し、設定を変更してください。

詳しくは、『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「外部ディスプレイ」－「外部ディスプレイの走査周波数」をご覧ください。

■サウンド

Q スピーカーから音が出ない、音が小さい、または音が割れる

●内蔵スピーカーに関して、次の項目を確認してください。

・スピーカーの出力は ON になっていますか？

【Fn】キーを押しながら【F3】キーを押して、スピーカーの出力を確認してください。

・音量は正しく調節されていますか？

【Fn】キーを押しながら【F8】キーまたは【F9】キーを押して、適正な音量にしてください。

●音量を設定するウィンドウで、ミュートや音量などを確認してください。

詳しくは、『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「音量の設定」をご覧ください。

●音が割れる場合は、音量を小さくしてください。

Q マイクからうまく録音ができない

●音量は調節されていますか？

音量を設定するウィンドウで録音の項目を有効にし、音量を調節してください。詳しくは、『製品ガイド』（PDF）－「取り扱い」－「音量の設定」をご覧ください。

■キーボード

Q 押したキーと違う文字が入力される

●【Caps Lock】キーや【Num Lk】キーなどが有効になっていませんか？

状態表示 LED の Num Lock ランプや Caps Lock ランプが点灯していないか確認してください。

●「コントロールパネル」の「キーボード」の設定は正しいですか？

次の手順で確認してください。

1. 「スタート」ボタン→「コントロールパネル」の順にクリックします。
   「コントロールパネル」ウィンドウが表示されます。
2. 「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
3. 「キーボード」をクリックします。
   「キーボードのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
4. 「ハードウェア」タブの「デバイス」で、正しい日本語キーボードが設定されているか確認します。
5. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

Q キーボード上に水や液体をこぼしてしまった

- **キーボード上に水などの液体がこぼれてしまった場合は、すぐにパソコン本体の電源を切り、AC アダプタの電源プラグをコンセントから抜いてください。**
  また、キーボード上の液体は、パソコンを水平にしたまま、乾いた柔らかい布などで拭き取ってください。
  液体を拭き取った後、バッテリパックを外してください。
  その後必ず、「故障や修理に関する受付窓口」にお問い合わせください。詳しくは、『サポート＆サービスのご案内』をご覧ください。

■ポインティングデバイス

Q ポインティングデバイスが使えないため、Windows を終了できない

- **キーボードを使用して Windows を終了してください（→ P.77）。**

■USB

Q USB デバイスが使えない

- **ケーブルは正しく接続されていますか？**
  ケーブルが正しく接続されているか確認してください。
- **USB デバイスに不具合はありませんか？**
  USB デバイスに不具合がある場合、Windows が動かなくなります。
  パソコンを再起動して、USB デバイスを接続し直してみてください。それでも正常に動作しない場合は、USB デバイスのご購入元にご連絡ください。

Q USB デバイスが使えず、「デバイスマネージャ」で確認するとエクスクラメーションマーク（!）が表示される

- **デバイスドライバに問題はありませんか？インストールされていますか？**
  必要なドライバをインストールしてください。
- **外部から電源を取らない USB デバイスの場合、消費電力に問題はありませんか？**
  次の手順で USB コネクタの電力使用状況を確認してください。
  1. 「スタート」ボタンをクリックし、「マイコンピュータ」を右クリックし、「プロパティ」をクリックします。
     「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
  2. 「ハードウェア」タブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
     「デバイスマネージャ」ウィンドウが表示されます。
  3. 「USB（Universal Serial Bus）コントローラ」をダブルクリックし、「USB ルートハブ」をダブルクリックします。
     「USB ルートハブのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
  4. 「電力」タブをクリックし、USB バスの電力使用状況がデバイスマネージャで使用可能な電力の合計を超えていないか確認します。
  5. 「OK」をクリックして、すべてのウィンドウを閉じます。

■プリンタ

Q プリンタを使用できない

- **次の点を確認してください。**
  - プリンタケーブルは正しく接続されていますか？
  - ケーブルのコネクタやケーブルは損傷していませんか？
  - プリンタの電源は入っていますか？
  - プリンタドライバは正しくインストールされていますか？
    プリンタのマニュアルをご覧になり、再インストールしてください。
  - ネットワークプリンタの場合、ネットワーク管理者の指示に従って設定を行いましたか？
  - ネットワークプリンタの場合、ネットワーク自体へのアクセスはできていますか？（→ P.78）

■その他

Q 使用中の製品に関する最新情報を知りたい

- **製品出荷後に判明した問題などの最新情報は、弊社のサポートページ（http://azby.fmworld.net/support/）で公開しています。必要に応じてご覧ください。**

それでも解決できないときは

お問い合わせ先

■弊社へのお問い合わせ

故障かなと思われたときや、技術的なご質問・ご相談などについては、『サポート＆サービスのご案内』－「困ったとき」－「サポート窓口に相談する」をご覧になり、弊社までお問い合わせください。

■ソフトウェアに関するお問い合わせ

本製品に添付されているソフトウェアは、提供会社によってお問い合わせ先が異なります。
お問い合わせについては、『サポート＆サービスのご案内』－「困ったとき」－「サポート窓口に相談する」－「ソフトウェアのお問い合わせ先」をご覧ください。

6. お手入れ

パソコン本体のお手入れ

⚠警告

- 感電やけがの原因となるので、お手入れの前に、次の事項を必ず行うようにしてください。
  - ・パソコン本体の電源を切り、AC アダプタを取り外してください。
  - ・プリンタなど、周辺機器の電源を切り、パソコン本体から取り外してください。

- 清掃の際、清掃用スプレー（可燃性物質を含むもの）を使用しないでください。故障・火災の原因となります。

重要

- キーボードのキーとキーの間のほこりなどを取る場合、次の点にご注意ください。
  - ・ゴミは吹き飛ばして取らないでください。キーボード内部にゴミが入り、故障の原因となる場合があります。また、掃除機などを使って、キーを強い力で引っ張らないでください。
  - ・ほこりなどを取るときは、柔らかいブラシなどを使って軽くほこりを取り除いてください。その場合は、毛先が抜けやすいブラシは使用しないでください。キーボード内部にブラシの毛などの異物が入り、故障の原因となる場合があります。

パソコン本体の汚れは、乾いた柔らかい布で軽く拭き取ってください。
汚れがひどい場合は、水または水で薄めた中性洗剤を含ませた布を、固く絞って拭き取ってください。また、中性洗剤を使用して拭いた場合は、水に浸した布を固く絞って中性洗剤を拭き取ってください。拭き取るときは、パソコン本体に水が入らないよう充分に注意してください。なお、シンナーやベンジンなど揮発性の強いものや、化学ぞうきんは絶対に使わないでください。

液晶ディスプレイのお手入れ

液晶ディスプレイの汚れは、乾いた柔らかい布かメガネ拭きで軽く拭き取ってください。拭き取るときは、水や中性洗剤を使用しないでください。

重要

- 液晶ディスプレイの表面を固いものでこすったり、強く押しつけたりしないでください。液晶ディスプレイが破損するおそれがあります。
- 液晶ディスプレイの背面を手で支えてください。パソコンが倒れるおそれがあります。
- 化学ぞうきんや市販のクリーナーを使うと、成分によっては、画面のコーティングを傷めるおそれがあります。次のものは使わないでください。
  - ・アルカリ性成分を含んだもの
  - ・界面活性剤を含んだもの
  - ・アルコール成分を含んだもの
  - ・シンナーやベンジンなどの揮発性の強いもの
  - ・研磨剤を含むもの

7. 廃棄・リサイクル

回収・再資源化専用窓口 富士通パソコンリサイクル受付センターのご案内

個人でご購入のお客様が本製品を廃棄する場合は、回収・再資源化専用窓口　富士通パソコンリサイクル受付センターにご連絡ください。

回収・再資源化専用窓口 富士通パソコンリサイクル受付センター	
お申し込み URL	http://azby.fmworld.net/recycle/
お問い合わせ先	03-5715-3140 ［受付時間 9:00 〜 17:00（土・日・祝日および弊社指定休日を除く）］

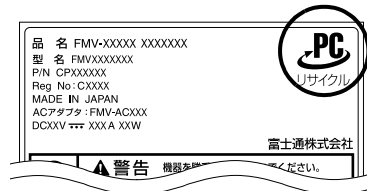
注　引越しなどでパソコンのリサイクルをお急ぎの場合は、お手続きの早いクレジットカードでのお支払いでお申し込みいただくことをお勧めします。
詳しくは、上記ホームページより「引越し等でパソコンリサイクルをお急ぎのお客様へ」をクリックしてください。

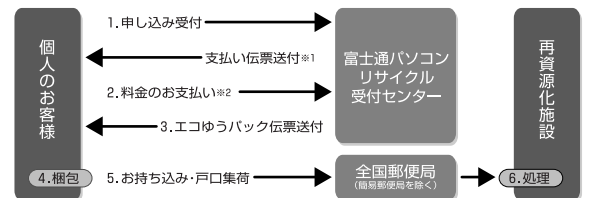
重要

- 法人、企業のお客様へ
「富士通パソコンリサイクル受付センター」は、個人のお客様専用受付窓口のため、法人、企業のお客様はご利用いただけません。
法人、企業のお客様向けパソコンリサイクルについては、弊社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」（http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html）をご覧ください。

PC リサイクルマークについて

PC リサイクルマークは、メーカーとユーザーのみなさまが協力し合って、ご使用済み家庭用パソコンを資源に変えるためのマークです。PC リサイクルマークが付いた使用済み当社製パソコンは、新たな料金負担なく回収・再資源化いたします。ご使用済み家庭用パソコンのリサイクル活動に、ぜひご協力をお願いいたします。
PC リサイクルマークの付いていない当社製パソコンについては、有償で回収・再資源化をうけたまわります。料金など詳しくは、ホームページをご確認ください。

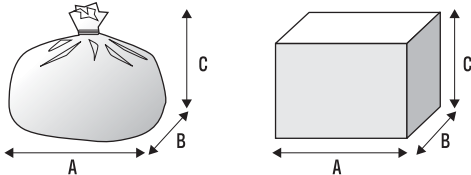
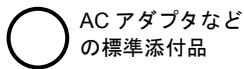
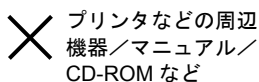
PC リサイクルマーク

（装置銘板は機種により異なります）

ご利用の流れ

1. ホームページからお申し込みください。
2. PC リサイクルマークの付いていないパソコンは、事前に料金をお支払いいただきます。
3. パソコンに貼るエコゆうパック伝票をお届けします。
（伝票には有効期限がありますのでご注意ください。）
4. パソコンをお客様自身で梱包していただきます。
5. 梱包したパソコンにエコゆうパック伝票を貼り、郵便局（簡易郵便局を除く）にお持ち込みいただくか、郵便局にご連絡いただきご自宅での引き取りを行います。
6. お引き渡しいただいたパソコンは、当社指定の配送業者が当社指定の再資源化処理業者まで配送し、再資源化処理業者にて、法律に沿った適正な再資源化処理を行います。

サービスをご利用になるうえで

- ●他社製パソコンは弊社では回収・再資源化できません。各製造メーカーにお申し込みください。
- ●運送上危険なものは回収できません。
- ●ご購入時の標準添付品のうち、AC アダプタは本体といっしょに梱包していただければ同時に回収いたします（マニュアル、CD-ROM 媒体などは回収できません)。
- ●エコゆうパック伝票に同封されている「使用済家庭用パーソナルコンピュータ回収委託規約」を必ずお読みいただき、同意したうえでお引き渡しください。
- ●エコゆうパックは、コンビニエンスストアではお取り扱いできません。
- ●エコゆうパック伝票には有効期限がありますので、速やかにお引き渡しいただきますようお願いいたします。
- ●お引き渡しされた後は、再資源化のキャンセル／パソコンの返却はできません。
- ●お引き渡しになるときには、パソコン内のデータはお客様ご自身の責任で消去してください。データの消去については、「パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意」（→ P.84）をご覧ください。
- ●廃棄前に、メモリーカードがパソコン本体にセットされたままになっていないか確認してください。

梱包するときに

梱包の条件は次のとおりです。

- ●厚手のポリ袋（薄手のポリ袋は 2 枚重ね）やビニール袋などの破れにくい袋、もしくは段ボール箱
- ●使用済みパソコンは、重さ 30kg まで
- ●A ＋ B ＋ C の長さ＝ 1.7m 以内
  ※ 1.7m 以内になるように梱包願います。
- ●同梱できるもの

梱包した使用済みパソコンが 30kg を超える、梱包の縦、横、高さの合計が 1.7m を超えるなどの理由により、郵便局で引き取りができない場合があります。そのときは、富士通パソコンリサイクル受付センターまでご連絡ください。エコゆうパック伝票はビニールケースに入れたまま、裏面をはがし、梱包箱（もしくは袋）の上面や側面の目立つ場所に貼り付けてください。

廃棄に関するご注意

ここでは、本製品（付属品を含む）を廃棄する場合に知っておいていただきたいことについて説明します。

パソコンの廃棄・譲渡時のハードディスク上のデータ消去に関するご注意

最近、パソコンは、オフィスや家庭などで、いろいろな用途に使われるようになってきています。これらのパソコンに入っているハードディスクという記憶装置には、お客様の重要なデータが記録されています。したがって、パソコンを譲渡あるいは廃棄するときには、これらの重要なデータ内容を消去するということが必要となります。

ところが、このハードディスク内に書き込まれたデータを消去するというのは、それほど簡単ではありません。「データを消去する」という場合、一般に

- ・データを「ごみ箱」に捨てる
- ・「削除」操作を行う
- ・「ごみ箱を空にする」を使って消す
- ・ソフトウェアで初期化（フォーマット）する
- ・リカバリを実行して、ご購入時の状態に戻す

などの作業をすると思いますが、これらのことをしても、ハードディスク内に記録されたデータのファイル管理情報が変更されるだけで、実際にはデータが見えなくなっているだけという状態です。

つまり、一見消去されたように見えますが、Windows などの OS からデータを呼び出す処理ができなくなっただけで、本来のデータは残っているのです。したがって、データ回復のための特殊なソフトウェアを利用すれば、これらのデータを読み取ることが可能な場合があります。このため、悪意のある人により、ハードディスク内の重要なデータが読み取られ、予期しない用途に利用されるおそれがあります。

パソコンの廃棄・譲渡などを行うときに、ハードディスク上の重要なデータが流出するというトラブルを回避するためには、ハードディスクに記録された全データを、お客様の責任において消去することが非常に重要となります。消去するためには、専用ソフトウェアやサービス（有料）を利用することをお勧めします。また、廃棄する場合は、ハードディスク上のデータを金槌や強磁気により物理的・磁気的に破壊することをお勧めします。

なお、ハードディスク上のソフトウェア（OS、ソフトウェアなど）を削除することなくパソコンを譲渡すると、ソフトウェアライセンス使用許諾契約に抵触する場合があるため、充分な確認を行う必要があります。

■法人・企業のお客様へ

弊社では、法人・企業のお客様向けに、専門スタッフがお客様のもとへお伺いし、短時間でデータを消去する、「データ消去サービス」をご用意しております。

消去方法は、専用ソフトウェアによる「ソフト消去」と、消磁装置による「ハード消去」があります。

ソフト消去	専用ソフトウェアを使って、ハードディスクに対して 2 回上書き（ランダムデータ＋ 0 データ）することにより残存するデータを完全に消去します。DoD や NSA［エヌエスエー］など海外の各種消去規格にも対応可能です。
ハード消去	消磁装置を使用してハードディスクを磁気的に破壊します（最大磁力：1.3 テスラ）。

消去作業完了報告書として、作業実施日、消去済み機器一覧、ならびに消去方法を記載した物を納品物として提供します。

詳しくは、「データ消去サービス」（http://fenics.fujitsu.com/outsourcingservice/lcm/h_elimination/）をご覧ください。

お問い合わせ／お申し込みは、上記ページのフォームにてご記入ください。

使用済みバッテリの取り扱いについて

- リチウムイオン電池のバッテリパックは、貴重な資源です。リサイクルにご協力ください。
- 使用済みバッテリは、ショート（短絡）防止のためビニールテープなどで絶縁処理をしてください。
- バッテリを火中に投じると破裂のおそれがありますので、絶対にしないでください。

■個人のお客様へ

使用済みバッテリは廃棄せずに、充電式電池リサイクル協力店に設定してあるリサイクル BOX に入れてください。詳しくは、有限責任中間法人 JBRC［ジェイビーアールシー］のホームページ（http://www.jbrc.net/hp/contents/index.html）をご覧ください。

弊社は、有限責任中間法人 JBRC に加盟し、リサイクルを実施しています。

■法人・企業のお客様へ

法人、企業のお客様は、弊社ホームページ「IT 製品の処分・リサイクル」（http://jp.fujitsu.com/about/csr/eco/products/recycle/recycleindex.html）をご覧ください。

このマークは、リチウムイオン電池のリサイクルマークです。

8. 仕様一覧

本体仕様

製品名称			FMV-BIBLO LOOX M/D15
CPU [注1]			インテル® Atom™ プロセッサー N280（HT テクノロジー対応）[注2] 1.66GHz
キャッシュメモリ			2次：512KB（CPU内蔵）
チップセット			モバイル インテル® 945GSE Express チップセット
システム・バス			667MHz
メインメモリ			標準 1GB（PC2-4200 DDR2 SDRAM）ECC なし　最大 2GB [注3]
メモリスロット			× 1（空きスロットなし）
表示機能	グラフィックアクセラレータ		チップセットに内蔵（モバイル インテル GMA950）
	ビデオメモリ		最大 128MB（メインメモリと共用）[注4]
	液晶ディスプレイ[注5]		LEDバックライト付10.1型ワイドTFTカラー 1024×600ドット （スーパーファイン液晶）
	解像度／発色数[注6]		液晶ディスプレイ表示：1024 × 600 ドット／ 1677 万色、 外部ディスプレイ表示：最大 1280 × 1024 ドット／最大 1677 万色 液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示：800 × 600 ドット／ 1677 万色
ハードディスクドライブ[注7]			160GB（Serial ATA/150）[注8]
オーディオ機能	オーディオコントローラ		チップセット内蔵＋ High Definition Audio コーデック
	PCM 録音再生機能		サンプリング周波数、最大 192kHz　24 ビット（再生時）[注9]、 サンプリング周波数、最大 48kHz　16 ビット（録音時）[注9]、 同時録音再生機能
	MIDI 再生機能		OS 標準機能にてサポート
	スピーカー		ステレオスピーカー内蔵
	マイク		デジタルマイク（モノラル）内蔵
キーボード			日本語キーボード （キーピッチ約 17.2mm、キーストローク約 1.5mm、84 キー）
ポインティングデバイス			フラットポイント
Web カメラ			内蔵（有効画素数　約 130 万画素）
通信機能	LAN		100BASE-TX/10BASE-T 準拠
	無線 LAN	規格	IEEE 802.11b 準拠、IEEE 802.11g 準拠（Wi-Fi® 準拠）[注10]
		内蔵アンテナ	ダイバーシティ方式
	Bluetooth ワイヤレステクノロジー		Bluetooth Specification Ver.2.1+EDR
インターフェース	本体	ダイレクト・ メモリースロット	× 1 スロット （SD メモリーカード／メモリースティック対応）[注11]
		外部ディスプレイ	アナログ RGB ミニ D-SUB 15 ピン× 1
		USB [注12]	USB2.0 準拠× 3（左側面× 1、右側面× 2）
		LAN	RJ-45 × 1
		オーディオ	ヘッドホン・ラインアウト兼用端子[注13]：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック／ マイク・ラインイン兼用端子[注14]：φ3.5mm ステレオ・ミニジャック
		状態表示	LED
電源供給方式		AC アダプタ	入力 AC100 ～ 240V、出力 DC19V（3.16A）
		バッテリ	内蔵バッテリパック：リチウムイオン 10.8V ／ 2400mAh （別売）内蔵バッテリパック（L）：リチウムイオン 10.8V ／ 4800mAh
バッテリ稼働時間 （JEITA 測定法 1.0）[注15]		内蔵バッテリパック	約 2.7 時間
		内蔵バッテリパック（L）	約 5.6 時間
バッテリ充電時間[注16]		内蔵バッテリパック	約 2.2 時間
		内蔵バッテリパック（L）	約 2.7 時間
消費電力[注17]			約 15W ／約 40W
省エネ法に基づくエネルギー消費効率[注18]			l 区分 0.00091（AA）[注19]
外形寸法（突起部含まず）			W258.0 × D189.0 × H29.0 ～ 34.0mm（内蔵バッテリパック装着時）／ W258.0 × D205.0 × H29.0 ～ 43.0mm（内蔵バッテリパック（L）装着時）

製品名称	FMV-BIBLO LOOX M/D15
質量	約 1.2kg（内蔵バッテリパック装着時）／ 約 1.35kg（内蔵バッテリパック（L）装着時）
盗難防止用ロック取り付け穴	あり
温湿度条件	温度 5 ～ 35 ℃／湿度 20 ～ 85%RH（動作時）、 温度－ 15 ～ 60 ℃／湿度 8 ～ 85%RH（非動作時） （ただし、動作時、非動作時とも結露しないこと）
プレインストール OS ／サポート OS	Windows XP Home Edition 正規版（日本語 32 ビット版）注 20（DirectX 9.0c 対応）

このパソコンの仕様は、改善のために予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。

注 1 ： ソフトウェアによっては CPU 名表記が異なる場合があります。

注 2 ： HT テクノロジーをご利用になるには設定が必要です（出荷時は無効になっています）。

注 3 ： 最大メモリ容量にするには、メモリスロットにあらかじめ搭載済のメモリを取り外して、別売の増設メモリを取り付ける必要があります。

注 4 ： Intel® Dynamic Video Memory Technology（DVMT）を使用しており、パソコンの動作状況によりメモリ容量が最大容量まで変化します。

注 5 ： 以下は液晶ディスプレイの特性です。これらは故障ではありませんので、あらかじめご了承ください。
- 液晶ディスプレイは非常に精度の高い技術で作られておりますが、画面の一部に点灯しないドットや、常時点灯するドットが存在する場合があります。
- 本製品で使用している液晶ディスプレイは、製造工程により、各製品で色合いが異なる場合があります。また、温度変化などで多少の色むらが発生する場合があります。
- 長時間同じ表示を続けると残像となることがあります。残像は、しばらくたつと消えます。この現象を防ぐためには、省電力機能を使用してディスプレイの電源を切るか、スクリーンセーバーの使用をお勧めします。
- 表示する条件によってはムラおよび微少な斑点が目立つことがあります。

注 6 ：
- グラフィックアクセラレータが出力する最大発色数は 1677 万色ですが、液晶ディスプレイではディザリング機能によって、擬似的に表示されます。
- 外部ディスプレイに出力する場合は、お使いの外部ディスプレイがこの解像度をサポートしている必要があります。

注 7 ： 容量は、1GB ＝ 1000^3byte 換算値です。

注 8 このパソコンは Windows RE 領域に約 1GB の領域が占有されています。また、リカバリ領域に、約 8GB の領域が占有されています。
そのため、「コンピュータ」のハードディスクの総容量は、マニュアルの記載よりも約 9GB 少なく表示されます。なお、ハードディスクの区画の数や種別を変更したり、外付けドライブを接続した状態では、「トラブル解決ナビ」が正常に動作しなくなります。ご了承ください。

注 9 ： 使用できるサンプリングレートは、ソフトウェアによって異なります。

注 10： Wi-Fi® 準拠とは、無線 LAN の相互接続性を保証する団体「Wi-Fi Alliance®」の相互接続性テストに合格していることを示しています。

注 11：
- SD メモリーカード、メモリースティックの同時使用はできません。
- すべての SD メモリーカード、メモリースティックの動作を保証するものではありません。
- メモリースティック、メモリースティック PRO、メモリースティック Duo などのメモリースティックでは、マジックゲート機能が必要なデータの記録／再生はできません。
- SD メモリーカード、miniSD カード、microSD カード、SDHC カードは、著作権保護機能（CPRM）に対応していません。
- マルチメディアカード（MMC）やセキュアマルチメディアカードには対応していません。
- miniSD カード、microSD カード、メモリースティック Duo ／メモリースティック PRO Duo をお使いの場合は、アダプタが必要になります。必ずアダプタにセットしてからお使いください。
- SDIO カードには対応していません。
- 2GB を超える SD メモリーカードには対応していません。2GB を超える場合は、SDHC カードをお使いください。

注 12：
- すべての USB 規格対応の周辺機器について、動作保証するものではありません。
- 外部から電源を取らない USB 機器を接続するときの消費電流の最大容量は、1 ポートにつき 500mA です。詳しくは、USB 機器のマニュアルをご覧ください。

注 13： ご購入時は「ヘッドホン」に設定されています。OS 上で設定を変更することにより、ラインアウト端子として使用することもできます。
なお、仕様は次のとおりです。
- ヘッドホン出力時：出力 1mW 以上、負荷インピーダンス 32Ω
- ラインアウト出力時：出力 1V 以上、負荷インピーダンス 10kΩ 以上

注 14： ご購入時は「マイク」に設定されています。OS 上で設定を変更することにより、ラインイン端子として使用することもできます。
なお、仕様は次のとおりです。
- マイク入力時：入力 100mV 以下、入力インピーダンス（AC）1kΩ 以上（DC）2kΩ 以上
- ラインイン入力時：入力 1V 以下、入力インピーダンス 10kΩ 以上

注 15： 社団法人電子情報技術産業協会の「JEITA バッテリ動作時間測定法（Ver1.0）」（http://it.jeita.or.jp/mobile/index.html）。
なお、本体のみ、省電力制御あり、満充電の場合。ただし、実際の稼働時間は使用条件により異なります。

注 16： 電源 OFF またはスタンバイ時。装置の動作状況により充電時間が長くなることがあります。

注 17：
- 動作時の最小消費電力（Windows 起動直後の消費電力）／最大消費電力です。また AC アダプタ運用時の消費電力です。
- 電源 OFF 時の消費電力は約 1.0W 以下（満充電時）です。
なお、電源 OFF 時のエネルギー消費を回避するには、AC ケーブルの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注 18： エネルギー消費効率とは、省エネ法で定める測定方法により測定した消費電力を、省エネ法で定める複合理論性能で除したものです。

注 19：
- 2007 年度基準で表示しています。
- カッコ内のアルファベットは「A は 100% 以上 200% 未満、AA は 200% 以上 500% 未満、AAA は 500% 以上」の省エネルギー基準達成率であることを示します。

注 20： 出荷時に Microsoft® Windows® XP Service Pack 3 セキュリティ強化機能搭載が適用されています。

FMV-BIBLO LOOX M/D15

取扱説明書
B6FJ-2061-01-00

発 行 日　2009 年 6 月
発行責任　富士通株式会社

〒 105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター

Printed in Japan

ア 0906-1

T4988618643092